

# ばんえい

DRAFT.RACE

NO. 7





51. 9.16 上渚滑ばん馬競技大会におけるケツ引き  
ヨイドン前の緊張

## 闘 志

さあ ケツ引きが始まる  
ひろく走路を取巻いていた観衆が  
ケツ引馬場に集ってきた  
直径約一米 二トンもあろうか  
原木を両方から引っぱり合う  
馬も 追い手も逸りに逸る  
かけ声ひとつで 突進するが  
力と力で ガツキと止まる  
デリデリ 動くほどに  
ひづめが地盤を削り取る  
物凄い 馬力  
開拓の昔 密林から生れたケツ引は  
素朴で 豪快な  
農民と馬のスポーツである

## 目 次

会報の発刊に寄せて……………	3
昭和五十二年ばんえい競馬執行にあたって……………	4
台風一過快晴の一年……………	4
青い目で見たばんえい競走……………	7
「ニュージランドから競馬クラブ会長来訪」……………	8
フランスにおける馬産と種雄馬購買……………	11
ばんえい不世出の名牝……………	12
ムツゴロウ先生のばんえい紀行……………	14
ばんえい競走とはどんな競走か(7)……………	24
競走用具の研究……………	25
馬の博物館に展示品を……………	26
各地の祭典ばん馬……………	31
昭和五十一年度祭典(記念) 輓馬主催……………	31
団体名及び本会副賞受賞者名……………	32
マスコミに取上られたばんえい……………	50
昭和五十一年度ばんえい便り……………	58
女性の時間ばんえい……………	66
残酷じゃ御座いませんの……………	71
昭和五十一年度馬産奨励に関する生産者賞……………	71
種雄馬管理者賞受賞者名簿……………	71
昭和五十一年度……………	71
リーデングトレーナー……………	71
リーデングジョッキー……………	71
昭和五十二年度番組編成要領……………	72
昭和五十二年報償費……………	74
昭和五十一年度賞金受賞ランク……………	75
昭和五十一年度種雄馬ランキング……………	76
昭和五十一年度……………	77
市営競馬成績……………	77
道営競馬成績……………	77
昭和五十二年度……………	78
市営競馬日程表……………	78
道営競馬日程表……………	78
昭和五十一年度引退馬……………	79
編集後記……………	84

# 会報の発刊に寄せて

北海道市営競馬協議会



会長 松 本 勇

係各位の賜ものと厚くお礼申し上げます。

特に近年は、インフレの増大と総需要抑制により景気が長期に亘り、低迷していることが影響して、昨年度の全国地方競馬における勝馬投票券発売額は前年度対比で一〇・一％という近年にない低率を示し、しかも全国三十一競馬場中十四場は発売額が前年度を下廻るといふ異例の実情にあったわけです。

しかし、これらの情勢の中でばんえい競馬は着実に全国でも発売伸長率がトップクラスとして数年来頭角を現わしていることは、ばんえい競馬が依然として隆昌の途をたどっていることを意味し、誠に喜ばしいことであります。

又、昨年は、昭和五十年の不祥事件の反省に立ち、執行体制の強化をはじめ、施設の整備改善等に全力を傾注し、万全の体制のもとで施行することができましたことは、ひとえに関係各位の多大なる御協力によるものと心からお礼申し上げます。

今後においては、ばんえい競馬が年々増加するファンの期待に応えるため、より一層公正競馬の確保に努力する所存でございますので、関係各位の絶大なる御指導、御支援をお願い申し上げます。

昭和五十二年度の会報発行にあたり、謹んで皆様方の御健勝をお喜び申し上げます。

本会会報も皆様方の御尽力により、回を重ね第七号の発行となりましたことをお喜び申し上げます。

さて昨年度のばんえい競馬は市営旭川競馬を初回とし、市営岩見沢競馬の最終までの十七回、日数で一〇二日間の全日程を消化し勝馬投票券発売額では全国的に不況の中で当初の目標をはるかに上回り、無事終了しましたことは関

# 昭和五十二年

## ばんえい競馬執行にあたって

旭川市競馬審議員

### 鈴木善次郎

昭和五十二年の会報発行にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

昭和五十一年度の開催経過をふりかえってみますと四市の勝馬投票券の発売総額は一九三億二百万円余、入場人員において四八万九千人余で伸び率は前年対比

それぞれ一六・九%、一〇六・九%と上昇を示しております。特に五十一年度は全国の地方競馬において発売額が伸び悩んでいる中で、予想以上の好成績を収めたことは、ばんえい競馬が市民の身近な健全娯楽として各層に広く定着してき

てきたこと、また、施設の整備に真剣に取り組む万全の体制のもとに執行しているわけであり、今後より一層改善を図るべく問題として、きゅう舎側に対しては職能分離に基づき安定した生活の樹立を目指しての

ていること、あらわれであろうと考えるものであります。

近時は、公営競技に対する世論もいろいろ論議されているところであり、主催者は常に公正確保を念頭におき、執務体制の強化、きゅう舎制

度の改善、きゅう舎自衛委員会の指導、施設の整備に真剣に取り組む万全の体制のもとに執行しているわけであり、今後より一層改善を図るべく問題として、きゅう舎側に対しては職能分離に基づき安定した生活の樹立を目指しての

ことを肝に銘じ、日夜公正確保に寸時も怠らぬことをとなく開催することこそ主催者の責務であると痛感する次第であります。

荒波を乗り切つて

賞金、諸手当の体質改善があります。さらに、最近とくに問題になっている競馬場周辺の交通渋滞、きゅう舎の衛生問題があり、地域住民に及ぼす影響は非常に大きく、これ等問題を円滑に解決するため、主催者は積極的に取り組む必要があります。

昭和五十一年度の開催は、これら諸問題を踏まえ競馬を愛して来場されるファンの声、競馬関係者の要望等を率直に受け入れながら競馬場として満足出来る環境及び公正なレース展開が出来るよう、なお一層の努力を重ね、これらがばんえい競馬を発展させる最良の要因を考えますので今後とも関係者皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

競馬場の過半数の競馬場で不祥事件が発生したため地方競馬の信用は大きく失墜し、売上は横ばい状況で終る最悪の年であった。

ばんえい競走は売上の上昇こそ全国のトップクラス(十二・八%増)であったものの、競走用具加工事件の発生で台風の直撃を受け、荒波にのまれてあわや沈没寸前に追込まれたが、早急な公正対策樹立で残った競馬を無事乗り切ることができたと言え、関係者に多大のご迷惑をおかけしたことについては深く反省自戒し、昭和五十一年度の競馬開催を迎えたところであります。

## 台風一過快晴の一年

北海道市営競馬協議会

事務局長 鈴木一彦

ばんえい競走の根底を揺るがす様な五十年度の大事業を切り抜けて、五十一年度の競馬を無事好成績で開催することができましたが、「台風一過」と冒頭に書

いたものの、地方競馬の歴史を省みれば不祥事件は四、五年のサイクルで惹起するケースが多く、災は忘れたころに起るものであり、「台風は毎年やってくる」

昭和四十年台後半の地方競馬は、数年続けて順風満帆二十%台の売得金上昇率の好成績であったが、五十年度はオイルショック後の不況に重なり、全国三十一

## 決意も新たに

昭和五十年年度の厳しい批判を浴びたばんえい競走から、公正なる近代ばんえい競走に脱却すべく、抜本的な施行体制の改革を鋭意検討努力し、決意も新たに四月二十九日旭川競馬の開幕を迎え、十一月十五日岩見沢競馬で閉幕となるまでの七カ月は緊張の連続でありましたが、第一に無事故で公正な競馬ができたこと、第二に全国一の上昇率(十七・六%増)の好成績であったこの二つは、失墜しかけたばんえい競走ファンの信頼が回復できた結果の賜物でなからうかと喜びは一際深いものであった。

### 執務体制の強化

執務体制の強化対策として、各主催者は競馬担当職員の増員強化を図り、また本会職員の大巾な増員(十二名増)、地方競馬全国協会専門職(発走担当一名)の派遣増員、ガードマンの増員等により、執務体制の大巾な強化を図って公正競馬の開催ができた。

### 機械化の増強

パトロールVTRカメラを一台増設し(合計五台使用)公正審判業務の参考としてその威力は画期的なものがあり、また着順判定用カメラを対面タワーに一台増設し(合計三台使用)着順判定業務の正確かつ迅速化を図った。

### 競走用具の改善

そり及び重量物を、抜本的構想のもとに新規に制作し、競走用具点検要領に基

づく嚴重な点検と計量を実施し、五十年に発生した悪夢のような不正加工事件の再発防止に万全を期した。

### 競馬番組

「番組は競馬を左右する」と言われているが、平凡な番組こそファンに厭われるが、平低下は火を見るより明らかである。本年度は番組の改善を特に研究し、重賞及び特別競走の増設(特に三、四才の若令馬)、条件クラス馬についての特別、選抜競走等の計画、クラス別の細分化を廃止し大区分による組分けに伴う新鮮化、馬産の基礎となる牝馬の優遇策として牝馬特別競走の増設、平場競走の競馬場別最低賞金額の統一、能力検査の厳正化による質の向上等を図り、ファンに興味あるレースの編成に努力したことが成績の向上に直接結びついたものと考えられる。

### 躍進するばんえい

暗雲低迷する地方競馬の中で、独り好率の伸びをみせたばんえい競走は、全国に強烈な印象を与えた年であった。

### 売得金

入場者減、売上げ横ばい、収益率鈍化など地方競馬運営の現状は非常に厳しく、五十年年度の売得金前年対比上昇率が三・一%で「最悪の年」と言われたが、五十一年度はさらに事態は悪化し、上昇率一・一%増の横ばい、売上ダウンの競馬場が三十一競馬場中十五競馬場に及ぶ戦後地方競馬史上最悪の事態に達した。

しかし、この最悪状態の中で、ばんえい競走は、年間売得金一九三億円、上昇率一七・五%(五十年年度一二・八%増)の大飛躍で大きく他場を引きはなし、全国第一位の上昇率で終了した。

特に岩見沢競馬場の二二・七%増、北見競馬場の二二・六%増、帯広競馬場の二〇・三%増とそれぞれ二〇%台の高率の伸びをみせ、五十年年度全国第一位(二六%増)の旭川競馬場は、遠隔地に移動した関係上五・三%増に留まったが、平地競走の一・六%減に比較すれば比較にならない好成績であったと言えよう。

また四競馬場共に念願の一期平均十億円突破(旭川は五十年年度達成)の記念すべき年であり、かつ四競馬場の売得金が一期平均十億十二億円と接近してきたことも今後の運営上明るい見通しがでてきた。

平地競走との比較では、一日平均売得金で旭川競馬場は一三一・三%、帯広競馬場は一二七・二%と大きく水をあけたが、岩見沢競馬場は六五・六%と極端に低く、今後如何にしてドル函札幌平地ファンを岩見沢競馬場に誘致するかが大きな課題として残された。

### 馬資源

道内における馬資源は年々下降線をたどり、五十一年二月現在の頭数は四一、五九三頭で前年比五、五四五頭の減少をみている。

しかし総頭数においては減少しているとは言うものの、ばんえい競走用馬とし

ての資源はばんえい競走の隆盛に伴い年々上昇し、五十一年度の出走申込馬は一〇〇〇頭の大台を突破し一〇一九頭となり、今後も徐々に上昇し出走馬の確保には何等心配はないものと推察できる。

### 馬事協会とばんえい

ばんえい競走の公正化の一環として、五十一年度から日本馬事協会において産業用馬の血統登録制度が発足になったが、五十一年度中血統登録馬二二、二五五頭、繁殖登録馬二二七〇頭の登録がなされ、順調な第一歩ですべり出し、ばんえい競走の将来に明るい見通しがついた。

また現役のばんえい競走馬が種牡馬として日本馬事協会がはじめて購買した明るいニュースがあったが、今後も優秀な成績を残した競走馬が毎年購買され、生産地に帰り優秀な第二世を数多く生産されることを願って止まない次第であります。

### 出走馬

馬体重量と牽引力の関係は正比例することは馬学的に解明されているが、近代ばんえい競走馬はさらにスピードが要求され、力とスピードを兼ねた馬がばんえい競走馬として大成する重要なファクターとなっている。

しかし力の基礎となるのはやはり馬体重量である。最近の馬格の向上は目覚ましいものがあり五年前に比較すれば、四才以上の平均馬体重量が約一〇〇キログラム増加したことは驚異の事実である。五十一年度最終競馬の出走馬の平均馬体

重量は、四才以上平均九二六キログラム（前年八九九キログラム）、三才平均八四四キログラム（前年八二二キログラム）、出走全馬の平均は九〇一キログラムの大型馬揃となり（最高一、一一二キログラム）また売買価格においても、最高一四〇〇万円で購入された馬がでる時代となった。

年々報償費も増額され、農林大臣賞典競走の五〇〇万円レースを最高峰とし、三〇〇万円三レース、二〇〇万円四レース、一五〇万円十一レースの高額賞金の番組が編成され、通算取得賞金額三三〇〇万円を最高に、三〇〇〇万円台二頭、二〇〇〇万円台四頭の優秀馬がでるなど話題の多い年であった。

昭和四十九年から馬産の基礎となる牝馬の優遇策を樹立し、負担重量の軽減、牝馬のみの重賞、特別競走の増額、牝馬に対する生産奨励金の支給等を図ってきたが、本年度の三才牝馬の質の向上及び出走頭数の増加が特に目立ち、取得賞金において牝馬一三八頭の平均一〇三万円に対し牝馬三二頭の平均一〇五万円、ウーマンパワーに牡馬が圧倒された年であり優秀牝馬の枯渇防止対策推進の兆しが見えてきたことは喜ばしい次第である。

### 注目されたばんえい

世界唯一の競馬として、ばんえい競走が注目された年でもあった。

五月二十四日岩見沢競馬場に、ニュージランドのタウランガ市ベイ・オブ・フ

レンテイ競馬クラブ会長のロバート・シルソン氏が来訪、外国からこの珍らしいばんえい競走を視察にわざわざ訪れたのは、ばんえい史上初のケースであり、三階スタンドから胸をのり出し、サラブレッドとはちがう一屯クラスの産業用馬の迫力ある競走を「ワンドフル」の連発で興味深く観戦し翌日帰国された。

十月二十一日層雲峡において、北海道のばんえい競走を見学したいという全国主催者の希望があり、全公営主催の「競馬運営実務研究会」が開催された（北海道開催は四十六年に次ぎ二回目）。

全国の委員長、副委員長クラスが一堂に会しての研究会で、翌二十二日は旭川競馬場で開催中のばんえい競走見学に来場、相当長い競馬経歴の方でもばんえい競走を初めて見学される方が大部分であったが、ばんえい競走に大きな関心を寄せられ、前夜からおしよせた寒波の中で熱心に見学されて行かれた。

「ムツゴロー」先生で有名な作家畑正憲氏が、九月十九日北見競馬場に来場された。ご自分の牧場でばんえい競走馬を生産されておられる先生は、特にばんえいに関心が深く、馬主として競走馬を出走させたい希望もあり熱心に一日を過ごされたが、後日「毎日グラフ」にばんえい競走に関する記事を連載されておられた。

日本中央競馬会栗東トレセン競走馬診療所発行の「競走馬」という雑誌に、軽種に関する記事にまさり、「ばんえい競走とはどんな競走か」と題し、本会内田

参与寄稿の特集が掲載され、この珍しい競走の内容を中央競馬関係者に紹介されたことは初のケースであった。

### 新年度に向って

二年連続の不況の嵐は、景気向上の好材料も見当たらないまま今年も吹きまくる見透しが強い中で、ばんえい競走は帯広競馬を皮切りに、四月二十九日から十七回一〇二日の開催計画がなされている。

地方競馬としては、又もや耐忍の年を迎えることになるが、ばんえい競走は二年間の不況を跳返した実力の真価を問われる試練の年であることを銘肝し、公正なる近代ばんえい競走に向ってさらに一層の努力を傾ける所存であります。

### 条例の改正

農林省では、数年前から実施条例及び規則の全面改正の大作業に着手していたが、十月六日付でそれぞれの例が示され、ばんえい競走もそれに基づき大改正がなされ新年度から施行される見透しとなった。内容は公正確保に関する措置に重点がおかれ、これに伴う制裁基準の改正等によりばんえい競走も公正競馬に一歩大躍進をとげる年となるであろう。

### 調騎分離

現在のきゅう舎制度は、ばんえい競走近代化阻害の一因となっているが、その改善の第一歩として五十二年度の騎手免許試験において調騎の完全分離を実施することになった。馬主と騎手、馬主馬丁の問題についても、職能分離早期実現の

目標年次を決定すべく、関係市一同協議を重ね検討しているところであります。

### 執務体制の強化

五十一年度は大巾に十二名の本会職員を増員したところでありますが、五十二年度においてもさらに五名（走路監視、発走助手、獣医委員、総務担当、診療所獣医師各一名）の増員が図られ、執務体制は一段と強化された。

### 電算機の導入

岩見沢競馬場において、念願の電算機導入が決定し、四月二十九日の道営競馬から使用されるが、ばんえい競走での機械発売は初のケースであり、ファンサーパスに伴う飛躍的な売上増を大いに期待する次第であります。

### 騎手教養所の協力

騎手教養所におけるばんえい騎手の教育は多大の成果があがっているところでありますが、五十二年度においては、ばんえい研究班による競走技術の研究、走路の新設、ばんえい競走馬の購入等の計画がある朗報を耳にし、地全協のばんえいに対する熱意に深く感謝するとともにその成果を大いに期待しているところであります。

### 結びに

四月下旬の開催に備え、各主催者一丸となって万全な体制を整えるべく努力をしておりますが、産業と直結した大衆に愛されるばんえい競走の発展に、関係各位の絶大なご支援ご協力をお願いする次第であります。

# 青い目で見たばんえい競走

## ニュージールランドから 競馬クラブ会長来訪

岩見沢農務部  
部長 谷村 寿昭

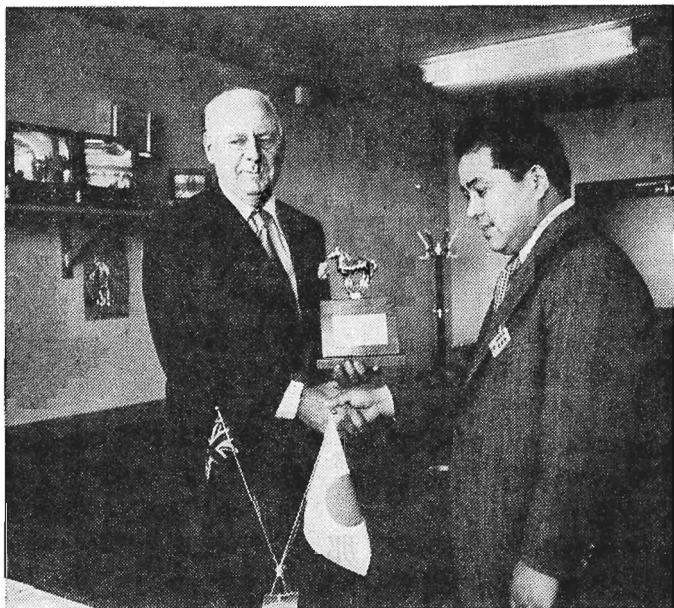
北国の空にもようやく新緑の香りが萌え始めた五月二十四日、はるか赤道を越えた南の国、ニュージールランドから珍しいお客さんが訪れてきた。

ニュージールランドの首都ウエリントン近郊のタウランガで、ベイ・オブ・ブレンティ競馬クラブの会長を務めるロバート・シルソン氏（六三）がその人。

きれいな銀髪、長身で柔和な感じの典型的な英国型紳士、通訳兼案内役のホース・ニューズ社外信部長 角田輝雄氏の案内で、にこやかな笑みをうかべ、愛想のよいポーズで訪れた。

岩見沢に外国からばんえい競走の視察に訪れたお客さんはこれが初めてであって、どう応対したらよいのか、一同ひそかに心配していたところ、気さくに握手を求められ、通訳氏がうまく仲を取りもってかれて一安心。

ニュージールランドという国、面積は日本の北海道を除いたくらい比較的小さな国で、南の島と北の島からなりたっているが、競馬場の数は六〇ヶ所もあり、



友好を誓って握手を交すシルソン氏（左）と谷村委員長

場外馬券の発売機構も近代化された競馬の盛んな国といわれている。  
ベイ・オブ・ブレンティ競馬クラブで

は六年前から、日本中央競馬会とレースのカップを交換。ニュージールランドはジャパン杯、日本では中山競馬場でベイ・オブ・ブレンティ杯が行われており、シルソン氏の今回の来日も、二十二日中山競馬場で行われた同杯レースのカップ授与式に出席が目的。東京で世界にも類のないばんえい競走がたまたま北海道で行われていることを聞き、競馬の指導的立場の人としてこの機会にぜひ見聞したいということでした。

この日は市営第一回、第三日目、遠來のお客さんを迎えるにふさわしい五月晴

れの好天気、

馬場状況は○  
・五バーセントの重馬場、  
十五時十分発走の第九レース、四才以上特別、四五〇万斤未満、積減重量三八〇キロ、フルゲートの十頭立を始めて観戦。発走OKのファンファレが放送されるや、待つてましたとばかり、話を中断して自ら窓

ガラスを開け、通訳氏に何か話しかけながら身を乗り出して熱心に見入る。第二障害にさしかかって力と技の限りを尽した人馬一体の熱戦には特に力が入った様子で、拳を固く握り、カウンタを叩いて応援、ゴールを目差して力走する馬を讀んでいた。レースが終るときさすがに専門家だけあって、着順判定やハンディキヤップの方法等について質問され、説明するといちいちうなずいて、ばんえい競走の迫力と関係者皆さんの真剣な姿勢は他に見られないと心からの讃辞をおくられた。

次の第十レースは近くで直接見たいと先ず下見所へ。同レースに騎乗のばんえい競走若手のホープ、金山騎手を紹介され「お会いしてうれしい」とニコニコ顔で握手、国際人として愛想のいい一面をうかがわせ、下見所を回る出走馬を懐かしそうに見ていた。そりや重量物の構造、トロ線での運搬方法にも興味を示し、同レースはスタートからゴールまで馬と一緒に走り、短い時間ではあったがばんえい競走の醍醐味を心から満喫したようであった。

ニュージールランドは農業国で競馬のほかには、ビールとサッカーを愛好し、シルソン氏も自ら牧場を経営しており、若い頃は、ばんえい競走馬のような重種馬を農耕に使用した実績の持ち主で、今はすべて機械化され殆んどこのような馬がいなくなつたことを淋しがっていた。今回、岩見沢を訪れて懐しい重種馬のイキ



イキした活躍振りを面のあたりに見て、心を打たれたらしく、ここまで育ててきた関係者の熱意と努力に敬意を表したいと繰り返しほめていた。

同国も三年前に建国一〇〇年を迎え、開拓の歴史も北海道と同じく馬が重要な役割を果たし、いろいろな話題の中でお互いに共通のなところも多く、北海道の人が好むジンギスカンの原料マトンの供給国として、経済的にも深いつながりがあり、誠に申し訳ないが角田氏の流暢な通訳を介してもお互いの意を尽すことは時間的に難しいことであったが、心からの親しみを膺で感じあえたのではないかと思う。

来場を記念に、市協参与、内田靖夫氏のデザインを基にして作製した「ばんえい競走馬」のブロンズ像を贈ったところ、大変気に入った様子で、帰国したら早速首相に見せてつぶさに報告すると喜んでた。

最後に「世界でも日本だけしか行われていないばんえい競走を見ることができて北海道へ来た意義があった。お国の風土や特色を巧みに生かしたユニークな競馬、懐しい重種馬の活躍、皆さんの暖かい歓迎に心をうたれた。今後ますます発展されることを心から願っている。これを機会に私の町タウランガ市と岩見沢市が、競馬だけでなく、あらゆる面で交流を持つように努めたい。今度は皆さんの方からぜひニュージランドへ来ていただきたい。私が責任を持って案内する。

今日のことは生涯の楽しい思い出として忘れることができない」と結んで握手を

## フランスにおける

### 馬産と種雄馬購買

日本馬事協会北海道支部

常務 那 須 正次郎

念願だったフランス出張が、日本馬事協会有種雄馬の購買ということで実現した。五十一年八月末から丁度一ヶ月間、フランスを中心に、スペイン、イギリスまで足を延ばすことができた。以下、その概要を報告します。

#### 一、フランスにおける馬産

御承知のようにフランスの馬産は、我が国にとって、明治初期以来の馬政、馬産のモデルであり、戦前戦後を通じて数多くの原々種馬が輸入され、日本在来馬の改良に大きく貢献しています。しかも農務省内に馬政局が専任し、馬産、乗馬、競馬の三課に分かれ、地方機関としては、二つの馬政管区に、二三の種馬所を保有している。私達馬関係者にとって、うらやましい限りであります。

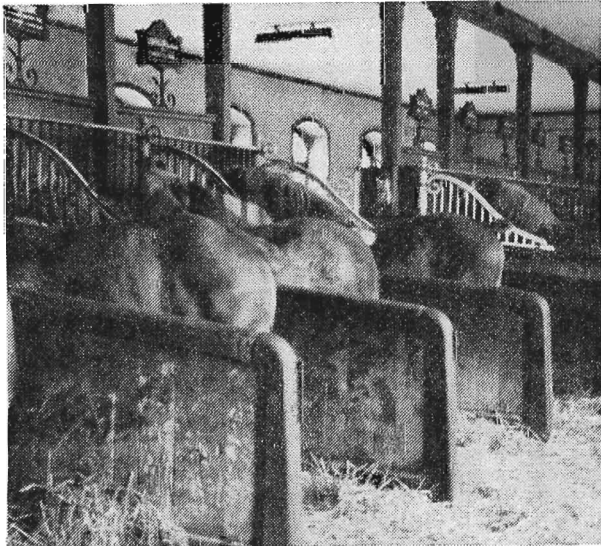
#### (一) 馬 数

昭和四十五年 六九万六千五百頭  
同 四十七年 五二万四千二百頭  
同 四十九年 四三万四千頭  
フランスも昭和初期の三百万頭から見

交し、同氏のこれからの旅路の安全を祈って別れた。

まずと、約七分の一に激減しています。

上表のうち、トレイ馬(鞍馬のこと、日本の農用馬、重種に当る)の数は、約八〇パーセントを占め、残りは軽種と、



ランパール種馬所の厩舎内

セルフランセ等の乗馬であります。

(二) トレイ馬の種雄馬、種付雌馬数

年次	種雄馬数	種付雌馬数
昭和四七年	一、八六九	五三、九四五
同 四八年	一、七九六	四九、八七五
同 四九年	一、八〇四	四六、五二九

フランスの馬事統轄機関、ユニックの年次報告によると、馬の飼養状況も限界にきているようで、生産は急速に減少しています。

(三) トレイ馬の品種別構成(四九年)

ボスチエ、トレイブルトン	五六、七%
ベルシュロン	一三、二%
アルデンネ	一一、九%
コグ	九、〇%

その他 八、二%

最近の傾向として、ブルトンとベルシュロンは横ばいですが、アルデンネは減少し、ブロンネは、一パーセントを割るに至りました。

#### 四) ブルトン

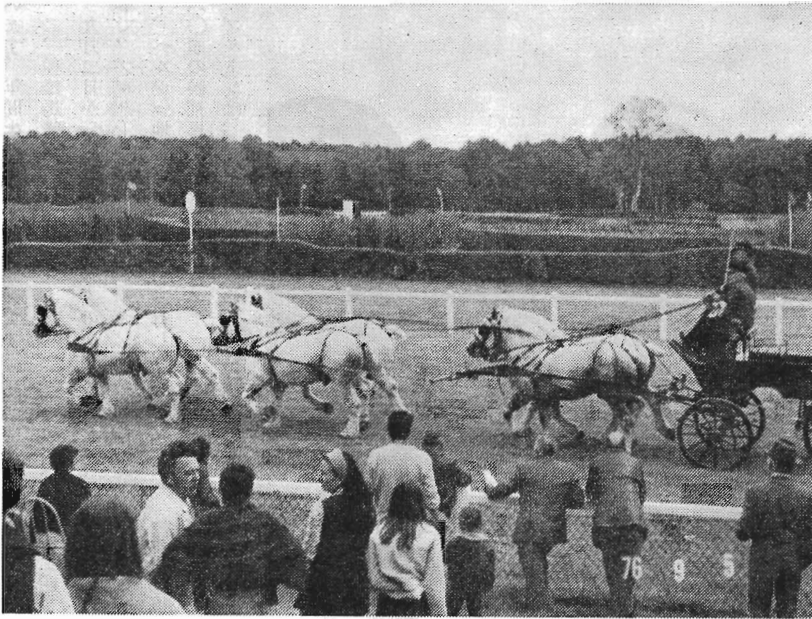
ブルトンは、トレイ馬の半数以上を占め、ボスチエとトレイに体型区分されている。主産地は、ブルターニュ地方で、中心にある国立ランパール種馬所には、百数十頭のブルトン

種雄馬が繁殖されています。

体型は、低身、広軀、頭部中等大、耳小さく、背部は短かく広く、筋肉充実、複尻を呈し、中軀は円く、四肢は筋健充実して太い。馴致、調教は全く至れり尽せりで、とくに歩様軽快で確実であり、誠に優駿揃いであります。毛色は、殆んど栗毛、粟粕毛で、鹿毛は僅かでした。ブルトンは、フランスの馬種のなかで

最も普及しており、とくにその適応性、活動力、或いは粗放性という特質のため、今日なお、小規模農家の多い地域や、南部のブドウ園で、使役馬として利用されている。また最近では、肉付の良い早熟性の利点を生かし、食用用としてかなり育成される傾向にあります。年間生産数は、一万八千頭位と推定できます。

(四) ペルシュロン



ル、パン種馬所のペル種雄馬6頭立馬車の行進

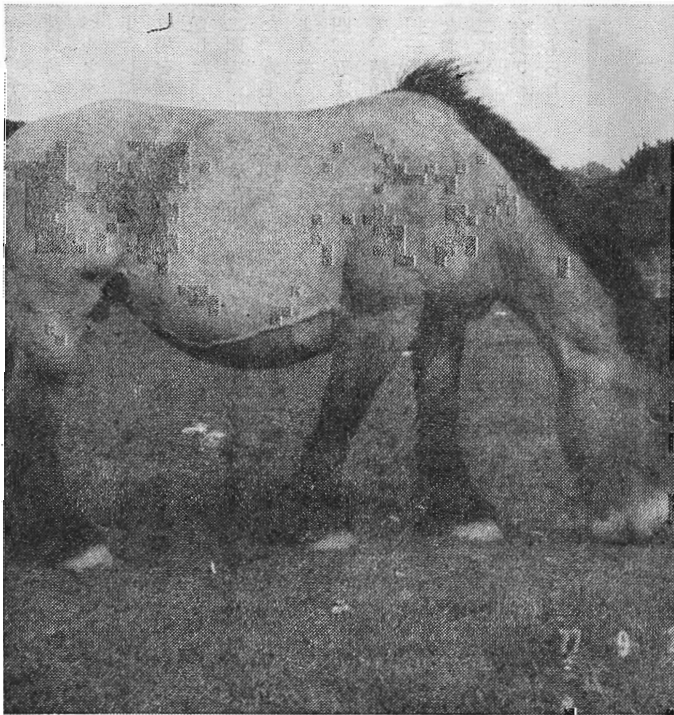
本種は、アングロノルマンとともに、わが国の馬産改良に果した功績は、誠に大きい。とくに、ペルは北海道においてその効果を最大限に發揮している。古くはイレネー、シュベルプを初め、数多くの種雄馬が輸入され、北海道重種を作出したものであり、トレー馬種のなかで、ペルほど長年に亘って品種改良が行なわ

れ、また固定した品種はいないと思いません。そしてアラブ血液の影響で、重種のうちでも品位は抜群であります。

主産地は、ペルシュ地方で、比較的起伏が多く、気候温暖、しかも良質草地の多い、大規模農家の地域です。中心に近い、パン種馬所には、一七頭の種雄馬が繁殖され、全て芦毛の見事な優駿揃いでした。丁度、パン種馬の開催日に訪問し、競馬祝前、ペル種雄馬六頭立馬車二台の馬場内行進を見ることができ、とくに調教の良いのに感心させられた。従来ペルの飼養は、生産と育成が分業

化されていると聞いていましたが、近年は頭数の減少もあって、生産者自ら育成も行なう傾向にあります。年間生産数は、四千頭余りでしょう。

つぎに、我が国では余り知られていないアルデンネに少し触れます。パリの東方四百軒、ナンシーから北譚厨境にかけて、本種の主産地となっており、三つの大牧場を見えました。一戸平均、種雄三、母と子三三頭。一般に大頭、斜尻、低身広軀の肉用タイプで、性温順、群飼に適しています。体高、一米五五以下で、近年は食用が重要な販路になって

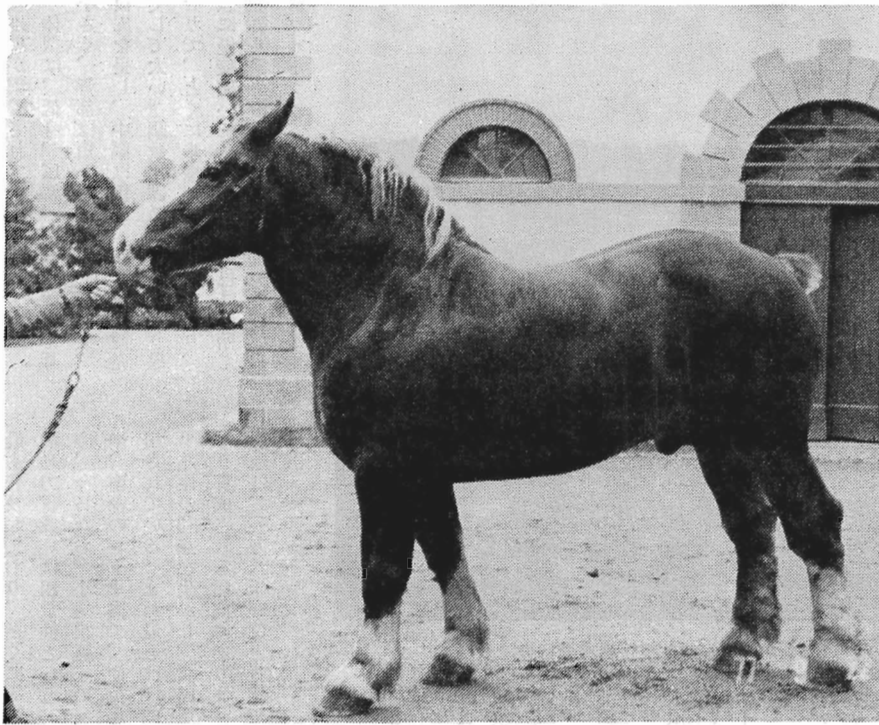


代表的なアルデンネ繁殖雌馬

います。年間生産数は、四千頭弱です。

## 二、種雄馬購買

九月二日から四日間、ユニックの乗用車で、ブルターニュ半島からノルマンジ、ベルシュ地方約千五百料を走行し、六〇頭の候補馬を検査した。ブルトンは、サントゴネックの共進会



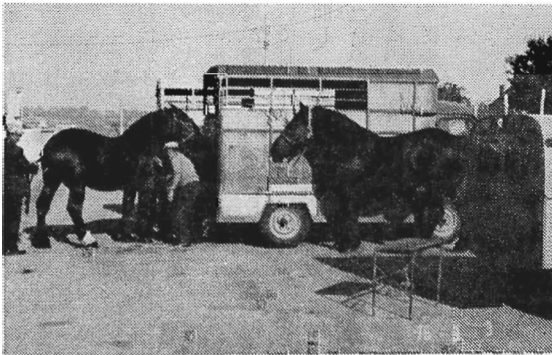
購買したブルトン3才種雄馬

で選定したが、出陳は四〇頭（ポストエ一六、トレイ二四）で、見事な粒揃いでした。鹿毛は二頭だけ、あとは栗毛と栗粕毛で、体高一米五五前後、流星、四白が多い。一米六〇以上は二頭で、最も大格のものを選定した。測尺は一米六三、二米四八、二八である。精液検査と衛生

検査は、予備馬を含め、二頭をランパー種馬所に依頼した。

ベルシュロンについては、マイエンヌに集合した小育成家の八頭と大育成家の三牧場を巡回して一二頭、合計二〇頭を検査した。年令は三才一〇、四才八、五才二頭で、毛色は青毛五、芦毛一五頭でした。青毛は日本向として無理して集めたようで、適当な馬は見当りません。また四、五才は、長所もあるが、欠点もあって、結局三才の芦毛を選定した。測尺は、一米六六、二米四〇、三〇です。

なお、三才の体高は一米六〇から一米七二で、平均一米六四でした。ベル登録協会長アベリン氏は、今年の三才は不作だともらしていました。精液検査等は、



マイエンヌに集合したベルシュロン3才種雄馬

予備馬を含め、二頭をパン種馬所に依頼した。

九月二、三、四日両種馬所を訪れ、四頭とも合格を承知し、何れも本命馬を購買することに決定した。この二頭は、船輸送で、十月二十三日サザンブトン港（イギリス）を出帆、十一月十九日神戸港に到着、検査後、十二月五日夫々配置先に到着した。（ブルトントン十勝上主幌町、ベルー網走市）

## （附記）

テレビの普及率は、かなり低い。放映も正午からで、園営の外、民放は二社だけ。部屋代八千円の一級ホテルでも、テレビは白黒。

ワインは、三百種余り。ノルマンディのカルバドス（りんご酒）はスコッチより強く仲間うまい。一本約五千円で、主として輸出向。

生水は、硬水のため飲めない。専らミネラル水（エビアン、ピテル）を飲用したが、ビールと同じ値段。

最後に種雄馬の購買に要した経費については、つぎのとおりで、馬代は本道より安い。輸送経費が高い。

馬代金五百十万円（ブル、二百四十万円、ベル、二百七十万円）

輸送経費、四百三十万円（輸送費、輸送箱、飼料費、保管料、保険料外）

揚陸、検疫費 七十万円

旅費 二百六十万円

合計 千二百七十万円

# ばんえい不世出の名牝

## ダイニミハル号の引退

ばんえいの農林大臣賞は創設の当初から、最高の重賞レースとしてその伝統をつくってきた。三十五年以来の優勝馬は本誌第5号に掲載したが、今日まで十七年間延十七頭の優勝がその栄誉に輝いたワケである。このうち二勝したのは初代バンニューハ、トキミノル、ハルトカチ、シャリイチとダイニミハルの五頭、一勝はヤスヒラ、キヨユキ、カチサカエ、シソツバメ、トホクイチ、カツタロー、トクヨオーザの七頭、ダイニミハルのほかは全馬「おす」である。

農賞の勝馬は「おす」との定説をくつがえて昭和四十九年ダイニミハルが優

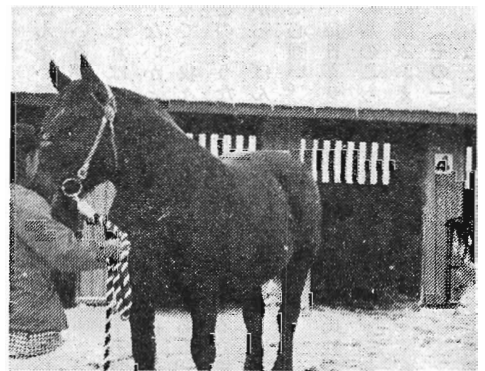
勝したときは、二着タカラコマとの差は〇・五秒、そのあとにカツタローが二秒差でゴールインするという大接戦の末だった。こんどはばんえい最高クラスの強豪九頭を尻目に二着のカツタローとは二三秒四の大差をつけて、堂々たる圧勝ぶりだった。

ダイニミハルは重系種で父ベル・オナシス、母三春、その父母は不詳となっている。四十年六月十二日生、新十津川産、特徴流星、鼻梁刺毛、珠目二列、鬘中、右双門、初代馬主は長沼町の若狭柴氏、次いで平田良一氏、山下きみ子氏とつづき昭和四十七年八月現在の鳥潟政治氏に移った。初出走は四十四年六月十五日第一回岩見沢で九頭立の八着であった。最終は同じ岩見沢の五十一年十一月十四日で一〇頭立の四着。その間一三三戦二二勝二着二回三着二五回取得賞金三、二九四万円（ランク第一位）の成績をあげている。

五十一年で定年となり競走場裡から引退することになった。ダイニミハルの偉業を記念して馬主さん達関係者の感想を聞いてみた。

馬主鳥潟政治さん

「このような名馬は天からの授かりも



のと思い馬主冥利につぎ、今後は繁殖牝馬として永く余生を送ってもらい、二世に期待したい。」

調教師木村与惣治さん

「牝馬でこのような名馬を管理調教できたことは光栄に思う、私の一生を通じて忘れられない馬である。四十七年山下厩舎から私のところへ来たが、考えてみると、この馬の長所は

(1) 重馬場になるほど実力を発揮する  
(2) 適当な運動で十分、馬なりにしておくよかった。

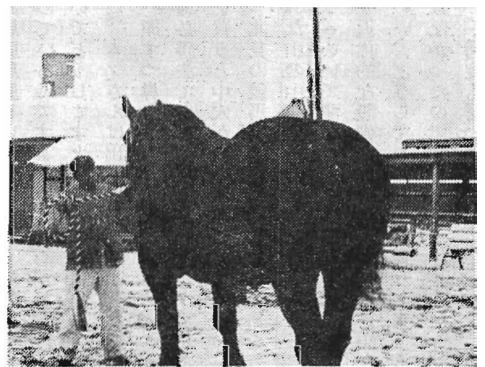
(3) 飼付のとき以外はほとんど寝ていて、よく疲れがとれたと思う。

(4) 温順で他馬との協調性があった。

(5) おす馬に劣らずガッシリしている

(6) 神経がふとく呑気に歩く。

短所は普段優しく扱ったので、運動不足や、調教中やレース中に、叩くと怒っ



て胸引をまたいだことである」

騎手木村卓二郎

「農林大臣賞を二勝し、そのほかいくつもの重賞レースを制覇できたことは騎手としてこの上もない名誉なことになっている。欲をいえばまだまだ好レースを見せてくれる馬だけに、ことしで引退するのが残念でならない。この馬の今後の幸福を祈る」

——ちなみに日本ダービーは五十一年で四三回になるが、そのうち牝馬の優勝は六回のヒサトモと、一二回のクリフジと二頭だけ、近頃は五着以内に入ることさえむずかしく、四才五大クラシッタのうちめす馬のため牝馬特別（オークス）と桜花賞が設けられている。



49年農林大臣賞優勝記念彫像

# ムツゴロウ先生のばんえい紀行

## (騎手試験合格の腕前)

——ボサボサの長髪、細い顔、目がな  
んともいえず暖かい、冷めたい人間に、

動物なぞ扱えっこないのだから動物研究  
者であり、動物作家でもあるムツゴロウ



北見競馬場にて  
向って左から

ジェルミ・エンジェル氏(英人写真家) 高本氏(作家)  
斉木氏(秘書) 畑正憲氏, 佐川氏(北見商店主)

先生こと畑正憲さんが、人間性豊かな人物……というのも別に不思議じゃない。

「自分がだんだん売れてくる、うれしくなって、じやんじやん書いてしまい、交際もぐんと広がる、そのうち頼まれるものは断れなくなってしまふ、これじゃ自分が駄目になる」

と脱人工都市を決行、二年前に選んだところがこれまた東京と正反対の人口、人工ともに零の嶮登島(けんぼつぎとう。釧路管内浜中町)

無人島の不便さより動物のために昨年対岸の「陸地」に引越した。

ランプとシケにもまれながら島で暮した夫妻のこれが、体験的な「ムツゴロウのゆとり生活記」。しかし皮肉にも畑さんのスケジュールは厳しい。浜中に進めている大自然保護センターや、動物王国拡大実現などのために働かなければならないし、仕事も追いかけてくる。

ムツゴロウ先生は、週刊誌や雑誌など十本余の連載をかかえている。彼は「他人の十倍は働く男」とも自己評価する。これは昭和四十七年六月二十五日道新に掲載された特集「自信に満ちた仕事、腰をすえてわが道進む」の記事である。

畑さんは九月十九日同行の四人と、北見ばんえいを見に来た、そのときのことを毎日グラフに二回にわたり「ばんえい紀行」として書いている。

それより先き週刊読売七月中旬号にもばんえい競走の事を二頁にわたって書いている。

それはばんえい問題点のひとつ、残酷でないかという見方に対しての解説であって、我々の考えと全く同一である。このような高名な人が動物を愛する立場から、ばんえいを語ってくれることは誠に心強い。

毎日グラフのばんえい紀行は、氏独特の肩のこらない文章で興味を誘い、一気に読みおえてしまふ。

(その一)  
「ねえムツさん、本当のパンズを見に行きましょ、障害で一線に並ぶ迫力ッたら、それはいいもので、一度は見ておかねば……」

と毎日のようにKさんに誘われて四年目、ばんえいは夏に行われる。その間は自分にとって一番忙しいときで、来ることができなかったのである。

しかし今年行かねばならぬ理由がある。奥さんに命じて数万円の金を準備し出かけることになる。

奥さんはしかしムツ先生の心を見抜いている。

「プロの騎手が馬をどう追うかを、とつくり見たいのでは」

「そうだ、優勝しようとしてきたが、どうもひとつビリッとしたところがない、ひとつ北見へ行ってプロの技術を盗んでごようと思うんだ、しかしよく分かったな」

馬鹿馬鹿しいもう二十年も女房をつとめているんですよ、亭主の心が見抜けないでどうしますと奥さんは鼻に皺をよせた。ムツさんは出かける前、馬房に行き一頭ずつ鼻ツラをなでた、ムツさんの競馬必勝法である。馬にさわった手で馬券を買おうと中穴がころがりこんでくる。

北見の競馬場はくねくね曲った道を登った山の中腹にあった。

「いいですなこれは、緑の中にポッカー近代的な設備があるなんて、いい実在にいい、どうしてもっと早く連れて来てくれなかったのですか」

「何度も誘ったはずですよ」

入った右手に大きな看板があり、競馬の収益はこのような公共事業に使われていますと図示されている。ムツさんはつぶやく、「これは変だな」

「なんだかこれはギャンブルは罪悪だという気持があるみたいだ、それをやらせようとしているのでは……」

「競馬はそれがあること自体で役に立っている。公営ギャンブルをなくしたからといって清潔な政治とはいえない。競馬を財源だと勘違いしているからそんなことになる。競馬はそれだけで立派なもの」などと話し乍ら歩いていくと、パドックに馬が出てきた。

「うーん これは」  
ムツ氏は腕を組んですっきり見惚れてしまう。

(その二)



畑さんのゆとり？愛するヒグマ「どんべえ」と

二レース目は馬の眼を見た。ウイנקをしてくれた二頭を選んで買ってみたい、的中千四百円となり数万円浮いた。

3レースから5レースまでは不調、風が吹かず、馬が一向にウイנקしてくれなかったのだ。

折角勝った金が出て行くばかりだったが、私はパドックと馬場を往復している内に内心舌を巻いた。

全ばん馬のあらゆるタイプが登場してくるのである。——これからひとしきりムツさんの重ばん馬観が語られる——

アルデンネらしき馬、堂々たるベルシユロンの美しさ、芦毛のじみなレース振り、力持ちのブルトン、綱路種の胸、クライズデルの長い毛、背の高いシャイヤー、そしてこれらの混血、のっぺりして品種の読みとれぬ馬など……

ムツ氏は賛嘆する。

「いいなァ バンバが盛んになって、われこそは力馬をつくらうと懸命になっているうち、北海道種といってもいい、ひとつのタイプが生れつつある」

6レースで風が吹いた。4番と6番がくしゃみをし目をパチッと閉じた。これが的中、7レースは三点買いが的中、8レースは空振り、第9レースは重賞で

「オナンス記念」ムツ氏は無印の6番イシカリハヤテから本命の3番バンユウハを買った、サブロクの大勝負。

レースは頭が3番で6番とつづく、大変だこれじゃ百万長者と思いきや、クビ位勝っていたのにソリの後端は5番に負けていた。ムツ氏の夢は一瞬にして吹き飛ぶ、見学にきて儲けるなんて押しが太いと思う。



CMのムツゴロー先生

プロの騎手にも会って一番訊きたかったことをきいてみた。

「私たち一レースやるのとくたくたになつて息がおさまるのは馬よりおそいように思うがどうですか」

「そりゃ一レースぼつたら、立つたらんねえほど疲れる」

「手綱で叩いても、馬が行く気起きないと、どうもならないでしょう」

「叩くのは はげましだけさ」

「平場で追うよりむずかしいのでは」

「んだな たいしたむずかしいだ」

追い方のコツを、私は二、三教えて貰った。すくなくとも五年後は、どこかの草競馬で圧勝するだろうと先生は上気嫌

——ムツゴロー先生は、馬を追う一番の肝どころを知っていた。おそらくばんえい騎手試験を受けたら一べんで合格するに違いない——



# ばんえい競走とは どんな競走か (7)

内 田 靖 夫

北海道市営競馬協会参与

まんが うちだやすお



お馬どの  
教下されたく

## ◎とまるレースを考える

### 1 ばんえいの問題点

ばんえい競走の問題点とされてきたのは「とまるレースであること」だった。ばんえいを見に来た人達は忽ちそれは問題にならないことだと意に介しないようになる、にも係らず今後も尚心配するムキはなくなり、私達はいろいろな角度からばんえいの特殊性を説き、理解を深

めることに努力していかなければならぬであろう。

例えばこんな話がある。或る会合で東京から出席された方(競馬関係者ではない)が、

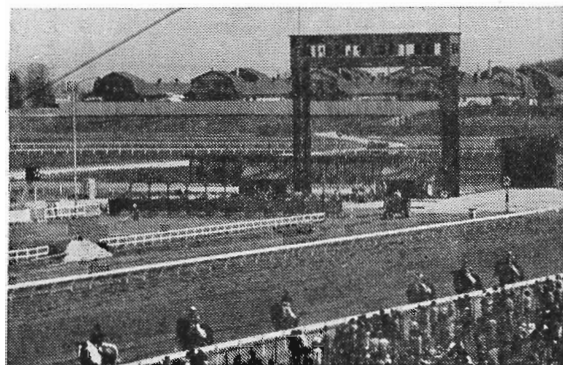
「地方競馬では障害も速歩もなくなり今は平地ばかり、近頃北海道のばんえいがエライいきおいで延びている、これをもつてきてやってみたらどうかと主催者の連中に話したら、とんでもない、あんなとまるレースをやったら大変、大騒ぎになる、北海道の人達は馬に馴れ、ばんえいに馴れてるからよいのだ、といわれた」というのである。

平地競走の中にばんえいを何レースか組入れる方法は速歩の二の舞となり失敗する、軽種馬が過剰気味の現在、ばんえいを取入れることは全く不可能と思われる

るが、それはさておき、どうしてそんな話になるのか、

競馬の騒ぎは騎手が馬の全能力を発揮しなかったとみたとき、いわゆる八百長とみたとき多く起きる、とすれば「とまる」ということは八百長とみられる、或は「八百長とみられやすい」から大騒ぎになるといふことなのだろうか、北海道人はどだい大ざっぱで、寛大で、そんなことに頓着しない、いわゆるばんえいずれしているからよいのだ、ということらしい。もしそうだとしたら私にとって不思議というよりはかはない。競馬の楽しさ、競馬の亢奮は本州人でも北海道人もみな同じである。

普通の競馬でスタートからゴールまで



全力で飛ばしていくのは千米以下の競走  
 だろう。それ以上の距離になると一旦押  
 さえ気味か、「馬なり」にして力をため  
 ていく、先行得意の馬もあるが、多くは  
 「暴走」となって末脚がなくなるからだ。  
 それは競馬の常識だ。大レースの放送  
 があるときなどアナウンサーが「何々の  
 こぶしが動き出しました。何々が仕掛け  
 ました」などとやっている、その場合誰  
 ひとり「馬の力をひかえている」ことを  
 不正などとみる者はいない。それと同様  
 にばんえいの「とまる」ということにひ  
 とつも文句は出ないのである。

ばんえいでも平地同様その追い方に異  
 常を感じたとき不満はおきるのである。  
 ばんえいもゴールに先着したものが勝  
 つのだからやはりスピードを争うレース  
 であるが、他のいかなるスピードレース  
 も途中で「とまる」ということはないよ  
 うだ、だから「とまる」ことは常にばん  
 えいの問題点であることに変わりはなく、



私達はその疑問が消失するまで理解につ  
 とめていく必要があるだろう。

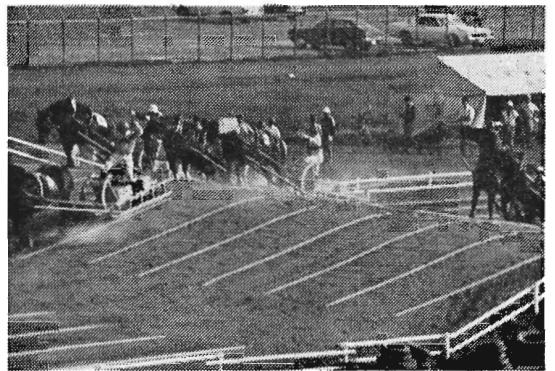
レース中「とまる」ことについては前  
 号でも誌したようにいくつかの規制をし  
 ている。重量の重い特別重賞を除くレー  
 ス（平場レース昨年全一〇二〇レースの  
 うち七五二レース約七四％）では第二障  
 害前以外ではとめてはならないことに厩  
 舎側と約束ができていのもそのひとつ  
 である。

レース中の追い方については審判委員  
 が判定する。ばんえいの審判委員は着順  
 判定係、走路監視係と公正係に分れて仕  
 事を分担している。

## 2 ばんえい審判の死角

かねて昭和四七年本誌第二号9頁で私  
 は、「ひとかたまりになって走る平地競  
 走と異なり、幅十八米のセパレートコー  
 スに散開し、時には前後八十米以上にも  
 離れて競走するばんえいでは、一人の審  
 判委員が同時に全馬を視界におさめるこ  
 とが不可能な場合  
 がある、その  
 点がばんえいのむ  
 つかしいところ  
 である」と書いたこ  
 とがある。

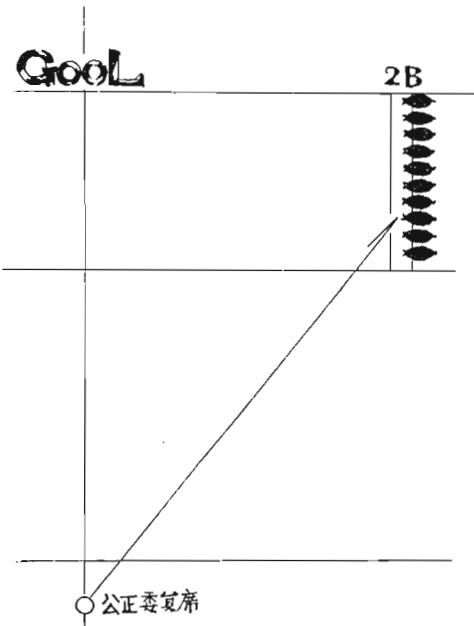
スタンドの最上  
 階にある公正係審  
 判席から眺め  
 ると、平坦地を進む  
 各馬各騎手の動き  
 はよく判るが、障



害の蔭になった人馬の動作は全く見るこ  
 とができない。

第一障害は全般的にスピードのある場  
 所なので、特に重い重量レースのほかは  
 あまりとまる馬もないので概ね判定は  
 つくが、ストップを認められている第2  
 障害の前は外側コースの一、二頭を除き  
 全く見えず、追い方の判定は従来走路係  
 に一任されていた。ともかく判らないで  
 はすまされぬ。走路係も懸命な研究と馴  
 れでその役目を果してきたのだが、馬に  
 接近すれば左右十八米の走路に二列横隊  
 で並んだ馬や騎手の動作をつぶさにキャ  
 ッチすることは神技にひとしく、特に或  
 るコースで異常がおきると、その方へ眼  
 がいき、他がおろそかになるきらいもあ  
 った。

私は一週間ばかり走路に出てみたこと  
 があるが、馴れないせいもあって、せい  
 ぜい並んでいる二頭位の動作しか見るこ  
 とが





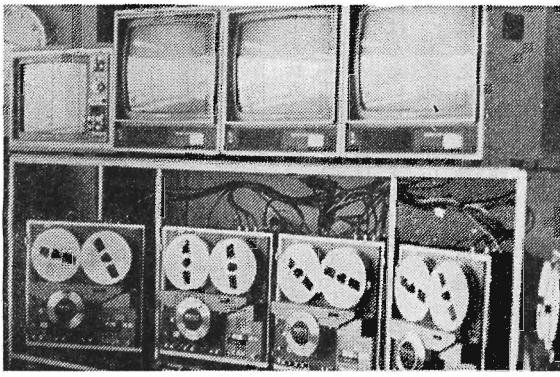
とができなかった。

もし見落しがあつたとしても一度走り去れば雲散霧消、再び確認の方法はなく、すべては終りである。

### 3 VTRの採用

VTRパトロールを採用したのは本会（市協）創立翌年の四四年だったが、当時はO君（現市協課長）を主任として、いわば素人芸で側面一機だけ、四七年後方に一機を増設し翌四八年前方にも一機取付けともかく三方から馬群をキャッチ、機具と業務の一切を専門商社に委託することとなり技術的にもグッと改善された。

特に後方のVTRはスタートからゴールまでの全馬をとらえ、障害前の状態を



キャッチして最も活躍した。

しかし画面に十頭の馬を並べてみるとその映像は小さく、進路のとり方判定には効果をあげたが、騎手の追いや、馬の動きを詳細に知ることは困難であった。特に先頭と最後馬が大きく離れたときなど、前方の馬は粟粒のように小さくなつてしまふのである。

### 4 月の裏側を見た

月の生成は四〇億年の昔だといわれる地球が宇宙に創造されたとき月もできた。地球の自転によって月は東から西へと動いていくが、地球に向ける月面は動かず、いつも同じ面を地球に見せているのだという。既に月の周囲を宇廻した機械も人間もいるので我々は月の裏側を知ることができた。

月とはんえい障害の裏側を一緒にするのはショット滑稽だが、VTRの増設は我々にとってそれほど大きな感激があつた。五〇年に後方VTRを二台としたことによりその映像は四倍に拡大され、翌

五一年更に一台を増設したので映像は一躍九倍、これによって「はんえい審判技術の歴史的な進歩」を期待できるようになった。

周知のとおりVTR効果は競走終了と同時にテープを巻き戻し、直ちにレースを再現することができ、必要があればその部分を何回も反復して映写し、状況を把握することができるとである。

### 5 はんえいのVTR効果は抜群

競馬におけるVTRの利用は珍らしいことではないが、はんえいのVTR効果は他の競技に比較して抜群である。つまり直線二百米のセパレートコースであるから各馬が重なり合わず、距離が短かく一直線に進む一頭一頭の動向が手に取るように見られるからである。

私達の研究はこの機会に年間の全レース全馬について、第二障害前のストップと超えていく経過を頭残らずタイムを測定しつつ詳細に監察することであった。私の場合は更に馭法速記を試みた。これは馬個々によって馭法がどう行われるか、その扶助動作に対して馬はどう感応するかを記録するものである。

こうした方法が将来執務要領となることはむづかしいが、ともかく一人で遂行することは不可能である。幸い永年走路

審判をやっていたS君が同じ席についてので半分ずつ分担してやることにした。なにしろタイム測定だけでもかなりの時間を要する。例えば旭川農林大臣賞各馬の第2障害通過時間合計は十五分十一秒ともなり、これにレース全体をみる時間、第一障害ストップタイム計測、テープ巻戻し、カード記入などの時間を加えると、二人でも次の発走までに終るのはむづかしい。その反面全馬ノーストップのレースなどは五分位で仕事は終る。

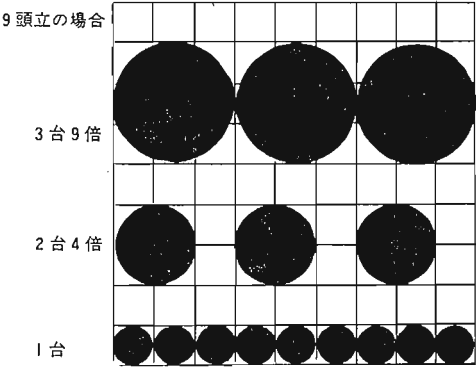
### 6 第二障害停止通過時間の計測

- (一) 開催回数 一七回一〇二日
- (二) レース数 一〇二〇レース
- (三) 出走延頭数 八六八三頭
- (四) タイム計測要領

A 停止タイム 第二障害における初回の停止から騎手の発進動作又は馬が自ら前進を始めたときまでの時間で、いわゆる息入れ休止の時間である。発進扶助があつてもこう着して前進しないとき、降坂までの途中で停止したときのタイムはとらない。つまり第2障害の手前又は登坂途中でストップしてから「追い方始め」までのタイムである。これによって適切な休息であったかどうかの判断資料とする。

B 通過タイム 初回のストップから橋全体が降坂したときまでのタイムである。

C 計測は委員二名で行い、出走馬の



別表1 第2障害(停止)タイム計測表

開催順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	計	
場所	旭1	旭2	岩1	岩2	北1	北2	帯1	帯2	帯3	帯4	北3	北4	旭3	旭4	旭5	岩3	岩4		
水分	1.0 4.5	0.9 3.5	0.5 2.3	0.4 3.8	0.2 2.2	0.2 1.2	0.2 2.0	0.2 0.9	0.5 2.7	1.2 3.2	0.3 2.0	0.9 1.8	0.9 2.4	1.8 4.3	2.9 7.2	3.1 8.2	4.2 8.8		
NO STOP	132	131	211	29	147	93	3	5	5	3	90	96	7	66	97	209	302	1,626	(22.73%)
1秒未満	17	13	26	14	18	17	3	10	11	9	26	34	17	32	43	44	35	369	4716頭 (65.92%)
1秒台	61	51	52	59	52	58	38	68	74	67	115	123	101	112	114	138	95	1378	
2 "	43	47	29	63	45	59	40	76	83	100	100	90	85	93	79	68	46	1146	
3 "	24	34	21	50	26	39	52	55	75	82	57	55	79	82	61	30	19	841	
4 "	18	19	10	23	17	17	43	42	59	71	38	39	69	46	34	7	4	556	
5 "	4	11	9	18	15	9	19	45	68	50	30	19	53	31	25	14	6	426	
6 "	2	8	2	11	8	11	18	20	41	44	16	11	26	19	19	6	4	266	
7 "	4	2	2	7	1	5	17	17	31	17	10	13	19	13	10	2	2	172	
8 "	2	3		4	5	1	13	12	24	19	7	11	23	9	9		1	143	
9 "		2		2	3	2	7	8	12	12	4	5	19	3	8	1	1	89	
10 "		1	2	2		1	6	10	12	13	3	1	8	5	2			66	
11 "				2	1	2	2	5	3	3	2	2	4		3	1		30	
12 "				2			1	2	3		2		4	2	2			18	
13 "							2	1	7	1			1	1	2			15	
14 "									1				1					2	
15 "					1				1									2	
16 "										1			1				1	3	
17 "										1								1	
19 "								1	1	1								3	
22 "											1							1	
39 "									1									1	
計	175	191	153	257	192	221	261	372	507	491	411	403	510	448	411	311	214	5528	NO STOP 含め 7154

註 1秒台とは1.0秒から1.9秒までをいう。以下同じ

別表2 第2障害(通過)タイムス計測表

開催順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	計	
場所	旭1	旭2	岩1	岩2	北1	北2	帯1	帯2	帯3	帯4	北3	北4	旭3	旭4	旭5	岩3	岩4		
NO STOP	132	131	211	29	147	93	3	5	5	3	90	96	7	66	97	209	302	1626	(18.88%)
10秒未満	27	16	16	10	14	8	1	2		3	6	15	4	9	13	22	25	191	6470頭 (75.12%)
10秒台~ 14秒台	69	52	70	57	73	45	11	15	9	13	46	61	15	63	57	59	54	769	
15~19	83	75	69	75	75	108	24	43	32	37	107	103	38	64	61	71	48	1113	
20~29	93	118	96	138	110	130	125	127	123	142	143	98	128	134	110	79	47	1941	
30~39	43	64	27	82	48	61	140	114	139	119	56	61	111	83	81	44	23	1326	
40~49	22	29	13	44	29	41	71	72	85	56	26	36	79	35	43	20	10	711	
50~59	6	18	2	30	14	16	48	47	49	37	15	11	61	30	24	6	5	419	
1:00~1.09	3	3	1	19	4	6	25	18	22	27	5	11	28	7	7	6		192	518頭 (6.00%)
1:10~1.09	2	2	1	15		2	16	16	18	14	1	4	18	10	3	3	1	126	
1:20~1.29				11		1	9	19	6	7	2	3	12	10	7	1	1	89	
1:30~1.39	1			3	1		11	7	8	1	1		6	1	2			42	
1:40~1.49					1		7	1	9	1			3					22	
1:50~1.59				1	1	2	5		3	2	1		1					16	
2:00~2.09				1			4			1			1		2			9	
2:10~2.19						1			3				2	1				7	
2:20~2.29													3					3	
2:30~2.39					1			1		1								3	
2:40~2.49				1			1											2	
2:50~2.59				1		1		1							1			4	
3:00以上		3.50.8						5.13.1						3.47.4				3	
計	481	509	506	517	518	515	501	489	511	494	499	499	517	514	508	520	516	8614	
計測不能				8	7	11	26	1	1	5				10				69	
出走頭数	481	509	506	525	518	522	512	515	512	495	504	499	517	524	508	520	516	8683	

別表3 水分別積載重量別各場タイム比較表

水分 2%

場 所	旭 川			北 見			岩 見 沢		
	長	短	平 均	長	短	平 均	長	短	平 均
250 K	1:45.0	1:26.0	1:35.6	1:12.3	1:07.3	1:09.7			1:15.9
260	1:30.3	1:25.2	1:27.8			1:08.3			1:17.1
270	1:29.4	1:18.1	1:22.7						1:29.8
280						1:06.5	1:45.4	1:12.4	1:28.9

(平均タイムのみ記入してあるのは、1レースしか行われなかったもの)

水分 0.5%

場 所	帯 広			北 見			岩 見 沢		
	長	短	平 均	長	短	平 均	長	短	平 均
270 K	1:49.1	1:36.4	1:42.6	1:24.7	1:18.0	1:21.3	1:30.5	1:16.5	1:24.1
280	2:21.1	2:02.7	2:11.8	1:44.3	1:14.0	1:32.0	1:51.3	1:29.3	1:36.7
290	1:52:5	2:04.7	1:57.0	1:35.1	1:20.1	1:29.5	1:44.4	1:19.4	1:31.0
300	2:26.3	1:33.2	1:58.6	1:52.3	1:32.3	1:38.1	1:53.3	1:24.2	1:34.5

- (イ) 計測不可能頭数 六一四頭
- (ロ) 通過タイム (別表2) 八
- (ハ) 故障及び停電 一八
- (ニ) 砂煙のため撮影不能四九
- (ホ) 競走中止除外二
- (ヘ) 停止せず(別表1、2に記入) 一六二六頭
- (ト) 一八、八八%
- (チ) 七 停止タイムは五、九秒以内
- (リ) 別表1によれば〇・一秒から五・九秒までの頭数が最も多く、四七一六頭六五・九二%
- (ニ) 計測不可能頭数 六一四頭
- (ロ) 通過タイム (別表2) 八
- (ハ) 故障及び停電 一八
- (ニ) 砂煙のため撮影不能四九
- (ホ) 競走中止除外二
- (ヘ) 停止せず(別表1、2に記入) 一六二六頭
- (ト) 一八、八八%
- (チ) 七 停止タイムは五、九秒以内
- (リ) 別表1によれば〇・一秒から五・九秒までの頭数が最も多く、四七一六頭六五・九二%

(注) 各半数を分担する。計測頭数 停止タイム(別表1) 五五二八頭

☆第一回旭川から第二回帯広まで(時計一ケ) 八回四八〇レース 一八二二頭

別表4 レース別第2障害タイム調

別 区	停止6秒以上				通過1分以上			
	1,2,3	4,5,6,10	7,8,9	計	1,2,3	4,5,6,10	7,8,9	計
旭1			8	8		2	4	6
2	1	6	9	16	1		5	6
岩1			6	6	2		2	4
2	12	4	14	30	18	1	33	52
北1	6	3	10	19	4		4	8
2	6	1	15	22	4	2	7	13
帯1	18	14	34	66	8	4	66	78
2	21	14	42	77	11	5	48	64
3	29	42	66	137	7	11	50	68
4	28	33	51	112	11	5	38	54
北3	12	5	28	45	2	1	7	10
4	3	6	31	40	2		16	18
旭3	15	36	55	106	6	16	50	72
4	8	14	31	53	4	5	22	31
5	5	13	37	55	3	1	18	22
岩3	1	1	8	10	1	1	8	10
4	2	4	4	10			2	2
計	167	196	449	812	84	54	380	518

を示し、以前四六、四七の二年間に計測した二四五頭の場合は、全体の七二%が三秒から九秒であったのに比較し、三秒も短縮している。これは積載重量の軽量化、第2障害の廃止、体重制の撤廃等による馬体の充実、馭法の変化などによるものと思われる。

タイムの長短は馬場水分と積載重量によるほか、馬場の形状や敷砂などの影響を受ける。馬や騎手の技術もあるが、タイムを左右する大きな要素はこの三つである。別表3に示すように同じ水分同じ重量でも多少の例外はあるが、北見、岩見沢のタイムはあまりかからず、帯広と第三回旭川がかかっているのは馬場の形状などによるものと思われる。更にノーストップ馬一六二六頭を加えると五、九秒以下は六三四頭八八・六五%となる。これをもつてみると、ここでの停止は全体の約九〇%を占める五、

九秒以下に限定してもよきそうだが、騎手は時計を見ながら追っているワケでもなく、一秒や半秒の差は微妙である。

8 停止六秒以上の馬

六秒以上の馬は八〇〇頭余もいて、これらを不適当とするにはチョット頭数が多すぎる。そこで六秒以上かかった馬をレース帯別に調べたのが別表4である。この表によれば一レース平均六秒以上馬は次のようになる。

レース帯	年間競走数	一レース平均
1 2 3	レース	三〇六
4 5 6	10 "	四〇八
7 8 9	"	三〇六
		一、四六

つまり主として三才と重量の重い特別重賞が行われるレース帯に多い。更に一着となったもののうち、六秒以上停止した馬の頭数をみると次の通り。

三才、特別レース帯	五三頭
平場レース帯	一七
計	七〇

大体同じ%である。ムラの多い少年レースの三才と重量の重いレースでは息入れ時間は長くなりがちのようだ。

法規上馬主騎手(調教師を含む)に要求されている義務は「競走において馬の全能力を発揮しなければならない」ということであって、停止息入れ時間が長くても発進動作、発進後の追い方が適当であれば、法規違反にはならない。

換言すればタイムは重要な資料になるとしても、それひとつで不正の断定証拠とはならないのである。

ただし騎手が全力をあげて追っても馬が「いうことをきかない」とすれば、これは競走馬として適当でない、競走の公正を欠くものとして出走をとめられる。この場合は少々矛盾があってもタイムなどをハッキリ規制しておいたほうが、受ける側も告げる側も、簡明でへんな憶測などを生じないで済む。勿論追い方に不審があればタイムに関係なく究明されるのは当然だ。

9 停止一四秒以上の馬

別表1によれば一四秒以上ストップしていた馬が一三頭もいる。勿論いずれもそのレースで一番長くとまっていた馬である。これらの馬の第2障害前から以降のレース経過をみると別表5のように一着が三頭、これは長くともっていたことが良結果をもたらしたということにもなる。馬具の事故が二頭、三才が二頭、一四秒すれすが一頭、計八頭はレース展開からみてマアマアとしても、その他の五頭はドン尻が四頭、うしろから二番目が一頭で、長くともていてもナンノ効果もなかったことになり馭法上の失敗ともみられる。ここらへんが将来規制される

別表5 第2障害14秒以上停止馬調

1着馬具の事故	3
3才	2
14.1秒	2
最後着から2位	4
最後から計	13

場合の問題点となろう。

10 通過タイムは五九、九秒まで

通過時間も停止時間と同じように、帯広と旭川第三回が多くかかっている。通過時間は二〇秒から二九・九秒までが断然多く、この時間帯一九四頭を頂点として漸次減じていき、下は二〇秒未満、上は一分以上を限界として一九〇頭台に急減している。

〇・一秒以上五九、九秒以下の頭数は六四七〇頭で全体の七五・一二%となる。これにノーストップの頭数を加えれば八〇九六頭、九三・九八%となり、第2障害の通過時間は五九・九秒以下でよいということになるが、なお停止のときと同じ方法で検討してみよう。

11 通過一分以上の馬  
通過時間一分以上の馬をレース別に調べてみると別表4のようになる。この表によれば第2障害を一分以上かけて通過した馬五一八頭のうち特別レースと三才レースの出走馬は四六四頭、八九・五七%となり、停止の場合より以上にこのレース帯に集中している。その理由は停止のときと同様であろう。

12 通過二分以上の馬  
通過に二分以上かかった三一頭については左記の通り。そのうち一七頭が能力支障調教不十分として出走停止となっている。そのほか三頭がてん倒胴引またぎなどの事故、七頭はそのレースの全馬が総体的にタイムがかかっている、先行馬との差が少なく、一頭は七位で第2障害

をこえてから、先行馬群をごぼう抜きにして一着となり二着との差僅かに〇・五秒、さすがに停止の場合と異なりここで時間のかかったものは、騎手の意志に従わなかったものが多く一着は珍らしい。

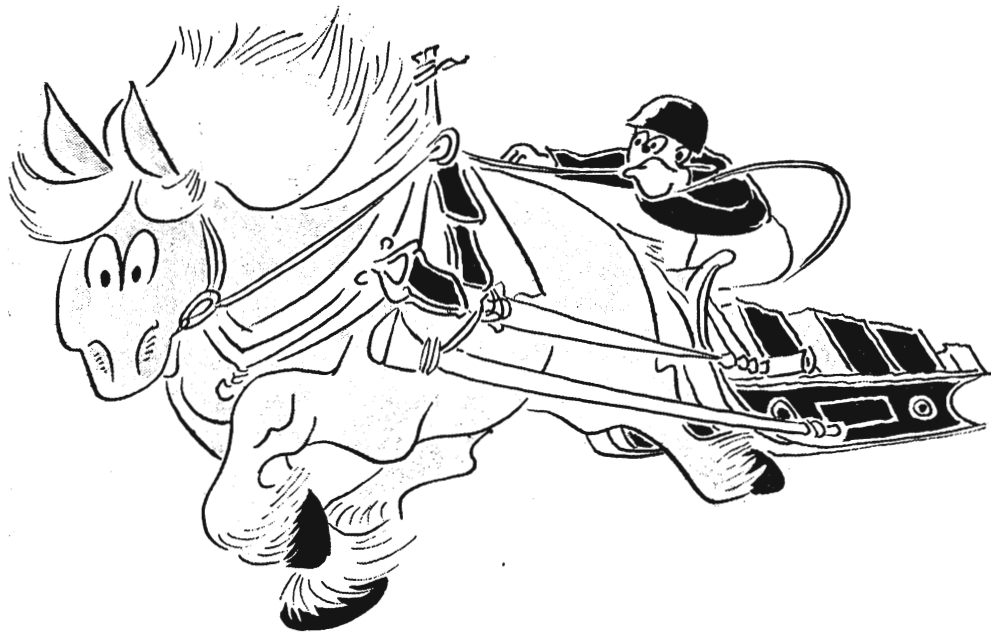
出走停止	一七
事故	三
全馬タイム大	七
一着	一
その他	三
計	三二

その他の三頭のうち一頭は二分以上が二回あった馬で、実頭数は二頭となる。この二頭を含め実頭数合計は三〇、レースは二八でうち平場は五(うち三才三レース)特別は二三で、ここでも通過時間が長くかかっているのは三才と特別である。

13 より速く、より先に  
競走に出る以上一着となるのが目的である。特に競馬は馬券がかかっているから、なにかの都合で二着以下になっておくとするのは許されない。厳重な処罰も法定されている。

全能力発揮とは、スタートから全力疾走で突走り、力の限り根かぎり、末は喘ぎ喘ぎゴールに辿りつく……それも全能力発揮だろうが、競走でいう全能力とは「きめられた距離」をいかに早く走破するかをいうのである。

スピードを競うレースのほとんどすべてがそうであるように、或る区間は最後の決戦にそなえて力をためていく、ばん



別表6 一着馬の第2障害停止タイム計測表

場 所	計測 せず	NO STOP	1秒 未満	1秒 台	2 "	3 "	4 "	5 "	6 "	7 "	8 "	9 "	10 "	11 "	12 "	13 "	14 "	15 "	16 "	17 "	18 "	19 "	計	計測不能		
旭 1	15	28	3	4	5	2	1		1	1													60			
" 2	13	22	1	6	5	8	2	1	1				1											60		
岩 1	9	38	3	3	2	3	2																	60		
" 2	16	13	2	3	4	5	7	3	2	2	1		1											59	電回線支障 1	
北 1	18	22		4	4	6	1	2	1	1	1													60		
" 2	15	20	2	6	5	2	3	1	4															58	砂可視不能 2	
帯 1	36	1		3	6	2	3	1		1	1	2	2	1										59	" 1	
" 2	12	1	2	8	7	6	4	5	1	2	2	2	1		1							1		55	" 5	
" 3		3	2	8	10	8	7	8	4	5	2	2			1										60	
" 4		1		7	14	10	6	8	6	1	3	2	1					1							60	
北 3		10	5	11	9	5	8	5	2	1	1	1	1												59	" 1
" 4		19	2	8	8	11	6	2		2		2													60	
旭 3		4	2	10	7	4	13	6	2	4	3	1		2	1	1									60	
" 4		13	2	10	9	9	5	4	2		1	2	1		1										59	停電 1
" 5		18	3	6	13	7	4	2	3	1	1	2													60	
岩 3		38	5	10	5	1			1																60	
" 4		44	1	9	2	2	1	1																	60	
計	134	295	35	116	115	91	73	49	30	21	16	16	8	3	2	2	1		1			1	1009	11		

857頭 (84.9%)

別表7 1着馬の第2障害通過タイム計測表

区 分	NO STOP	10 秒未 満	5 秒 毎 区 分										10 秒 毎 区 分								計	計 測 不 能				
			10秒台 14秒台	15〃 19	20〃 24	25〃 29	30〃 34	35〃 39	40〃 44	45〃 49	50〃 59	1:00 1:09	1:10 1:19	1:20 1:29	1:30 1:39	1:40 1:49	1:50 1:59	2:00 2:09	2:10 2:19							
旭1	28	2	13	6	8	1	1	1																60		
旭2	22	2	6	12	5	2	5	3	2					1											60	
岩1	38	1	5	9	6	1																			60	
岩2	13	1	8	13	7	6	3	3	2					1	1	1									59	電回線支障 1
北1	22	3	4	17	9	2	3																		60	
北2	20		6	15	8		5	1	2	1															58	砂可視不能 2
帯1	1	1	2	6	15	10	8	6	4	2	2	1													59	" 1
帯2	1	1	3	9	12	7	7	4	4	4	1														55	" 5
帯3	3		3	7	10	10	9	3	7	3	4														60	
帯4	1	2	1	5	15	14	11	7	1	1	2														60	
北3	10	2	11	18	6	6	2																		59	" 1
北4	19	1	7	17	4	2	4	3	1	1	1														60	
旭3	4		2	9	8	7	6	10	5	2	7														60	
旭4	13		9	10	9	9	3	1	3					1											59	停電 1
旭5	18	2	9	8	6	5	6	2	2					1	1										60	
岩3	38	3	4	6	5	1	2																		60	
岩4	44	4	5	3	1	3																			60	
計	295	25	98	170	134	86	74	44	35	15	22	5	1	1	1	2									1009	
10秒毎区分			268			220			118			50														

882頭 (87.41%)

別表8 第2障害前進扶助感度良好の馬調

区 分	調査対象	良好	概良好	やや良好	計	摘 要
3 才	168	15	11	13	39	
4才以上	388	32	41	25	98	
計	556	86	52	38	137	24.16%

14 一着馬の停止タイム  
 多いのである。  
 半はストップゴーを繰返すという走法が多いのである。  
 半鈍歩となり、前半は躍動しているが後半は遅鈍となり、スタート直後で早いものは秒速八米だったのに、ゴールインの頃は五〇センチ位となる。前半は飛び後半はストップゴーを繰返すという走法が多いのである。  
 だからばんえいでは前半全力疾走、後半鈍歩となり、前半は躍動しているが後半は遅鈍となり、スタート直後で早いものは秒速八米だったのに、ゴールインの頃は五〇センチ位となる。前半は飛び後半はストップゴーを繰返すという走法が多いのである。  
 戦法をとる。このことは前記までの各表がよく物語っている。  
 だが距離が短距離の関係からか、多くはより早く走り、息入れ時間もより短かく、障害もより早くこえ、最後の直線もより早く歩かせてゴールに達するという戦法をとる。このことは前記までの各表がよく物語っている。

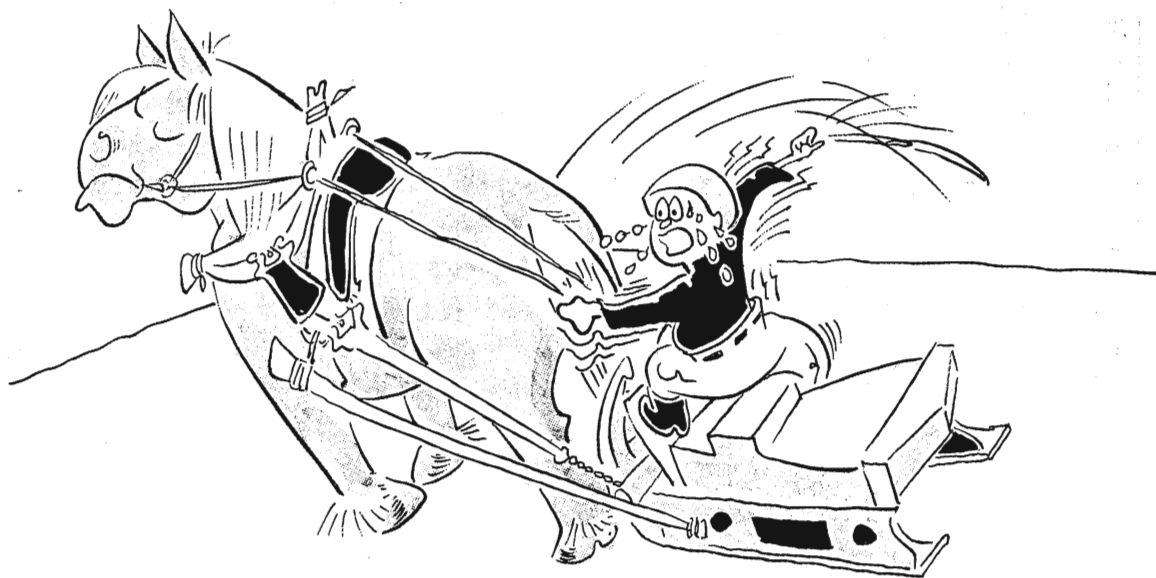
15 一着馬の通過タイム

別表7は一着馬通過タイムの計測表であるが、停止の場合と比較してみるため、前記八四・九%とやや同率の八七・四%に相当する通過タイムを見ると三四・九秒以下のところでは八八二頭、八六・四七%である。  
 以上二表で考えると一着馬は、停止時間を若干かけたとしても通過時間は短かいように思われる。  
 別表6によって考えてみよう。これは一着となった馬の第2障害における停止タイム調である。これによってみると停止五・九秒以内は七七四頭、七六・七一%、これに九・九秒以内の馬を加えると八五七頭となり全体の八四・九%である。この表でもより早く休息を終った馬が一着となっている。

16 感度良好の馬

馬に前進を命ずる騎手の動作(扶助)に応じて前進を始めることを、厩舎間では「発火」といっている。これはガソリンエンジンの発火作動開始をもじっての言葉だと思ふ。  
 その発火が一発の扶助動作で、直ちに発進し、そのまま障害を制覇するものは最も感度良好な馬といえることができる。  
 そのような馬はほとんどタイムと一致する。通過タイムが二〇秒以内の馬はこのような馬であり、三〇秒以内の馬は一発ないし三発以内でこの障害をこえてしまう。

別表8は出走馬五五六頭のうち、出走



一〇回以上の馬で全レース三〇秒以内で通過したものを感度良とし、三〇秒以上五〇秒以内が一回あったものを感度概良、二回あったものやや良として見たものである。これによればともかく約四分の一はタイム上感度良好ということができる。ただしこれはタイムによる単純な抽出方法であるため、さすがにオープンクラスの馬は一頭もいない。優秀馬クラスは主として重量の重い特別レースに出走する機会が多いので、この抽出条件では厳しすぎるのである。

一発の扶助動作（かけ声付）で前進通過しなくとも、一発ごとに馬が反応し、一寸きざみに前進しても馬の感度は良好であり、たとえ前進しなくとも扶助動作があるたびに馬が肢をばたつかせたり、馬体を動かすものは感度はあるが前進意欲がないものである。

扶助動作や、べん打に対してケロリとしてナンノ反応も示さず、じつくりと休息し、騎手の飽くことなき扶助動作のくり返して漸やく前進する馬は感度不良というべきである。

### 17 ノーストップ馬の通過タイム

前記までは第2障害でストップした馬の停止と通過タイムについて、いろいろな角度から検討したものであるが、停止しなかったときの通過タイムはどの位かかるか。

ノーストップ馬の多かった第三、四回岩見沢と第四回旭川で無作為に抽出した五五頭で調べた結果は次のとおり。

登坂 三秒以内  
四秒―七秒  
八秒―一二秒  
一、四秒以内  
一、五秒―二、四秒  
二、五秒―二、九秒  
六秒以内  
七秒―八秒  
九秒―一五秒

計 一〇  
一〇  
一四  
一四

なお全馬ノーストップのレースは年間二一回（最多は岩見沢第四回の一三回）出走馬のうち一頭だけがストップし他の全馬がノーストップのレースは三三回あった。

### 18 第1障害のストップ

別表9 50, 51年第1障害停止頭数調

年次	50			51		
	平場	特別	計	平場	特別	計
4秒未満	4	37	41	8	57	65
4秒以上	3	36	39	5	40	45
10秒 "	3	40	43	—	32	32
計	10	113	123	13	129	142

別表10 50年第1障害停止馬の51年成績

1	不参	12		
2	51年停止せず	5		
3	51年も停止	24	通算 6回以上	13
			" 4回以下	11
	計	41		

第1障害で停止した馬は別表9に示すように一四二頭で、前年に比し一九頭増加している。そのうち四秒以上は前年比五頭減じ、四秒未満(平場レースの許容時点)は二四頭も増加している。これを以て今後の傾向と考えるのはなお数不足で尚早である。全体の数は増加しているが年々やや同程度度の停止馬があると思ふのが妥当であらう。

(一) 第1障害停止の計測要領

第2障害の場合と異なり実際にストップしているタイムを計測する。従って二回以上ストップした場合はその都度ストップしたタイムを計測して、その合計を停止時間とする。

第2障害では初回停止したときから前進の扶助動作が始まったときまでを停止タイムとしている。従ってなお前進を始

めていない場合もありうる。これは騎手の動作を重視しているからである。

もし第一障害と同じ方法で停止タイムを計測するとすれば煩雑で、時間がかかりすぎ計測員を増員しなければ事務的に無理である。つまり第2障害で一引引き状態となったときはストップの回数は二〇回をこえることもあるし、その都度テンプを巻戻して計測を反覆しなければならぬからである。

(二) 停止馬の頭数

五一年の第1障害停止馬は延一四二頭、実頭数は六二頭で前年の四一頭に対し二一頭の増加を示し、別表10のとおり前年停止馬のうち一二頭は不参、五頭は本年と変わらず、二四頭は再び停止を繰り返すのうち二年通算ストップ六回以上の馬は一三頭で習癖化の観があるが、他の一一頭は各年一、二回のストップである。

最も停止回数が多いW号は五一年二二走のうち七回もストップ、前年通算二二回となったが、とまったときと、とまらなかつたとき、各一勝をあげている。

昨年の二四頭を除く三八頭は停止歴のない新ストップ馬で、三才から一二才までを半々に分けて年令別にしてみると、七才以下二三、八才以上一五で若令馬が多い。停止回数が多い、いわゆる習癖馬とみられるものは或る日或る時、一服休息の味をおぼえたものだらうか。

19 馬どの教え下されたか

今回第2障害登坂取法をつぶさに監察

してみると、この「重いモノをひく競走、前進力をセーブして、スピードを争うばんえい競走」は、人(騎手)の意志のほかに馬の意志がかなり大きく作用するレースのようである。

例えば騎手がいくら激しいべん打や、圧縮引き出しをくり返しても、左右によじれたり、肢をばたつかせたりして一向に前進しようとしな。なかにはケロリとして、あらぬ方を眺めている……「いうことをきかない馬」が少からずいるのである。

その馬どの達は右ムチも左ムチも、連続ぶったくりも、ふりしぼる大声もどこ吹く風かテコでも動かず、それだけ焦らしておきながらチョットした合図でヒョイと動き出し、一気にこえていくのである。

こんなのを見ていると、どうも「いくら追っても俺はイヤだよ」といっているようで、「サテ、そろそろいくか」と動き出したように見える。

どうなのでございませう。  
恐れながら御馬殿教え下されたか。  
20 とまるレースこそ

ばんえいの醍醐味  
いかに引く気にさせるかが騎手の腕であり、平素の調教の肝どころである。

今回は第2障害通過の計測タイムを中心とした統計的見地から、ばんえい競走の「とまる」ことについて述べた。

最も重要な「障害における取法」について詳述することは、いささか長文とな

るので次号に割愛し、前号から三回に及ぶ「とまるレースの検討」に一応の終止符を打ちたい。

ともあれ「とまるレース」はばんえいの最も大きな特色であり、問題点ではあるが、その実態を究めれば審判判定上至難不可解とは思われない。

昭和五一年一〇月二四日入場者一万二千、レース中終始大かん声が湧きに湧きばんえいのだいたいご味に酔った大観衆が、これこそばんえいの真骨頂と絶讃を惜しまなかつた旭川秋の農林大臣賞は当代の最高峰、一〇頭の超下級が六五〇キロをしよって出場、水分四%の中で全馬ストップに次ぐストップの熱戦をくりひろげたものであった。

第1障害でとまらなかつたのは1番トクヨオーザだけ、次ぎは6番のハヤツネの六、八秒で、最長は8番のキング三八・二秒となっている。障害間の平坦地でもほとんど全馬がとまっては息を入れ、第2障害をこえてからゴールまでの間も全馬ストップを重ね、最多は第1障害をノーストップでこえてきたトクヨオーザの八回だった。

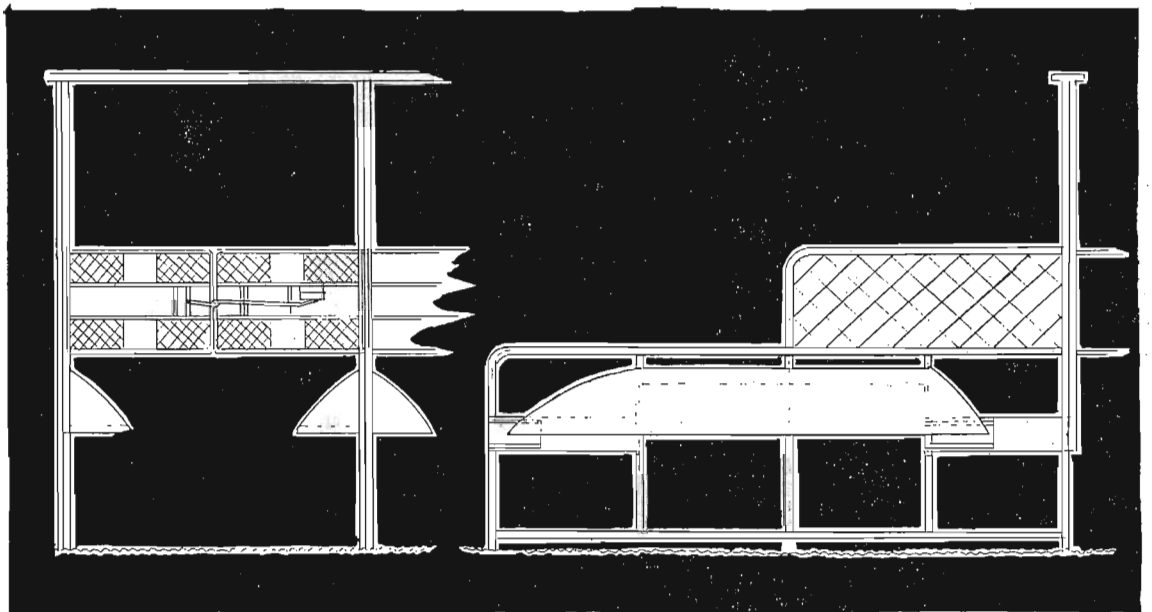
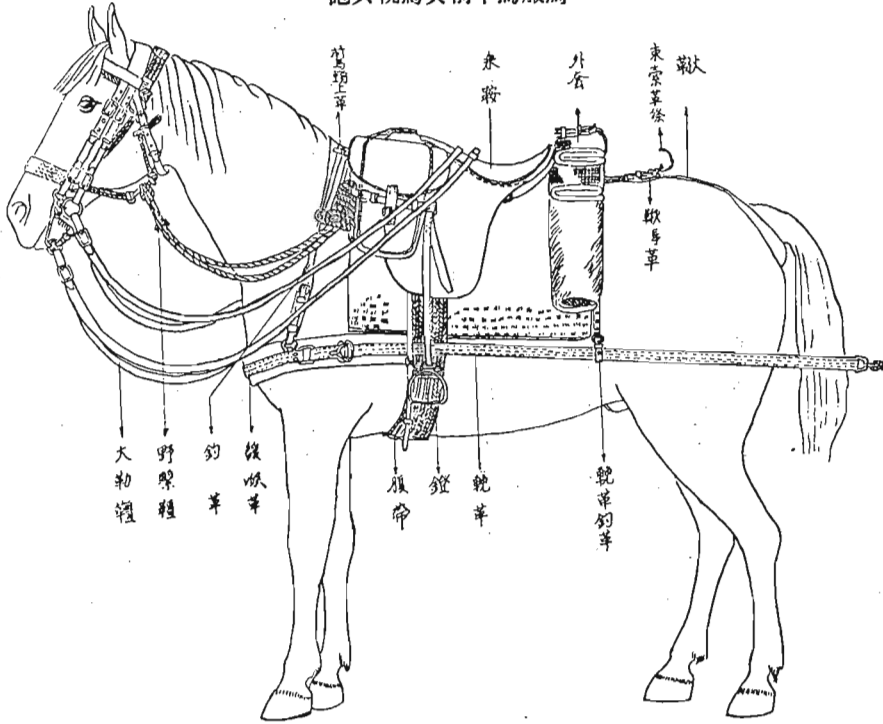
戦後平地競走も速歩競走もアメリカ式に単距離主義になった。中長距離で行われるのは主として重賞レースである。

それはそれなりに重要な理由があるからである。ばんえいも最近軽量化し、特別重賞は一般に重くして行われる。その理由は平地と同じである。ばんえいの積載重量は平地の距離ともいえる。



# 競走用具の研究

砲兵鞍馬具前中馬服馬



# 用具の研究

ばんえいは競走用具、馬具の多いレースであるが、本会は市の委嘱を受けて、常にその研究をつづけている。

## 1 ゲート側板の取付け

スタートにおける馬よじれ防止のためゲート舟型側板の取付け。

この試作試験は昨年行われたが、結果は良好なので本年更に改良して取付ける。

## 2 綱引チェーンの改良

麻製打繩部分を延長して鎖部分を短縮し、余剰分をなくするか、極力縮少する。

## 3 手綱の統一

ばんえいの乗馬手綱は左右一本づつの色とりどりで華やかな半面、古くて汚れたものやロープなども使われているので、本年から貸与品で統一するため規格を研究。

## 4 かじ棒

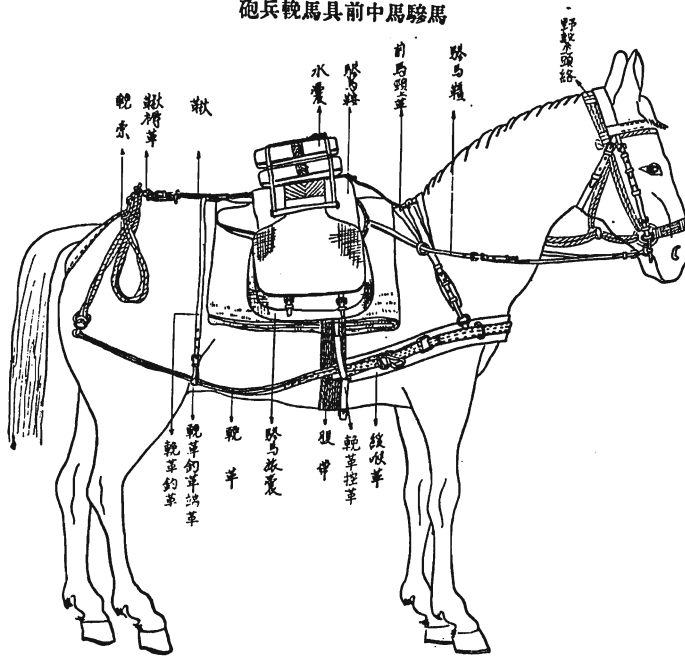
四十八年グラスファイバー製にしてから四年を経過したので、更新の機会に長さ、形式等について研究している。

## 5 本会は現行用具の改良研究を行う

とともに、既往の馬具、鞍具、車両、そり等についても研究を行っている。

このたび東京のばんえい研究家篠沢昭二氏の、馬に関する蔵書の中から、兵器(馬具)学教程を借用する機会を得たので、百数十に及ぶ附国のうち一部を掲載し参考資料としたい。

馬馬中前具鞍馬砲



## 馬の博物館に展示品を

(農耕、運搬、運馬関係、その他働らく馬の写真など)

別記「五十一年ばんえい便り」36で、馬の博物館(根岸競馬記念公苑)の発足を紹介したが、その経営に当る馬事文化財団で、産業用馬関係を担当している稲吉大資氏は去る二月七日開催の本会定期総会に特に出席して、開会前に公苑の設立趣旨と活動方針を説明し、減少して行く産業用馬活躍の今昔を歴史にとどめておきたいしと、展示品の蒐集提供を懇請された。

馬専門の記念館はおそらく日本でここ一ヶ所しかできないものと思われるし、この会館は中央競馬会の肝入りで発足を見たこともあり、サラブレッドを中心とする資料の蒐集にはこと欠かぬと思いが、その一角に使役馬コーナーを設けられたのはさすがで、この際その要望にこたえたいものと思う。

現在最も希望されているのは、働らく馬の写真である、連絡先は左記の通り  
本会 鈴木事務局長又は内田参与  
公苑所在地

〒232 横浜市中区根岸台一〜二  
TEL 〇四五―六六二―七五八一  
交通 横浜市桜木町駅

バス②③滝の上停留所下車  
なおこの趣旨に賛同して、帯広市川岸競馬事務所長から「十勝馬産小史」、十勝農協連二十年誌「帯広市岩内の造材運搬フィルム六種類」、帯広市辻忠美氏から「越前開拓八十年史」など部厚な単行本が寄贈された。何れも内容には軍馬供出、馬の労働状況などが掲載されている

# 各地の祭典ばん馬

ばんえいの厩舎や農家の人たちは、祭典などに行われる、町村のばん馬競走のことを「草ばん馬」といい、競馬法でやるばんえい競走を公認といっている。

誰でも知ってる「草競馬」という名曲があるが、「草ばん馬」とはいかにも深緑に包まれた土の香りのあふれる、農村ばん馬を連想し得て、ほほ笑ましい呼称と思う。

本会の祭典ばん馬保存奨励事業は五年目になる、この際贈呈する副賞のばん馬像も、五十二年から大きくして、いささかでも北海道名物の保存と、授賞者の忘れられない記念にしたいと考えてある。

ことしも写真を送って下さった主催者のばん馬大会を紹介する。

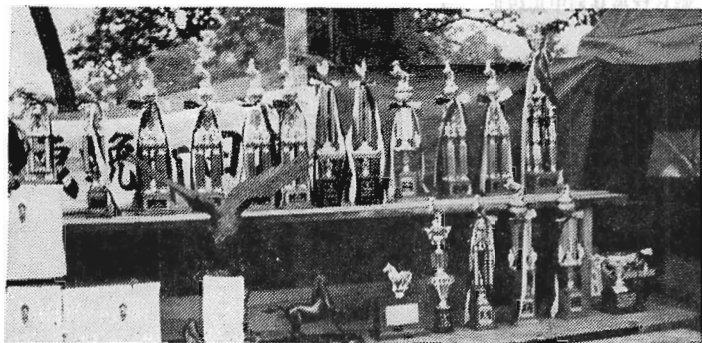
◎池田町鞍馬競技大会  
1 主催者 池田町

鞍馬愛好会

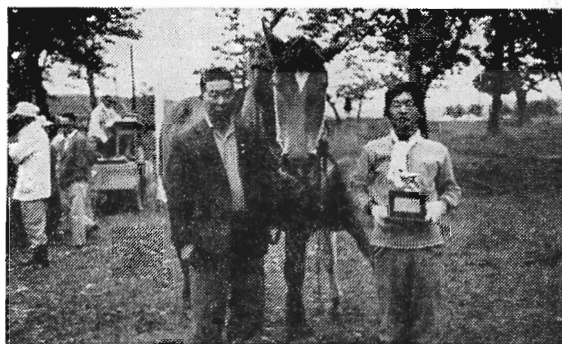
- 2 会場 清見丘特設馬場
  - 3 開催日 六月十五日
  - 4 出走頭数 八九頭
  - 5 レース数 二一レース
  - 6 入場者数 一七〇〇名
  - 7 授賞者 池田町 小林道行氏
  - 8 授賞馬 キンリン号
- 重半 牝 六才

◎足寄町家畜祭鞍馬大会

- 1 足寄町鞍馬協会
- 2 足寄町特設馬場



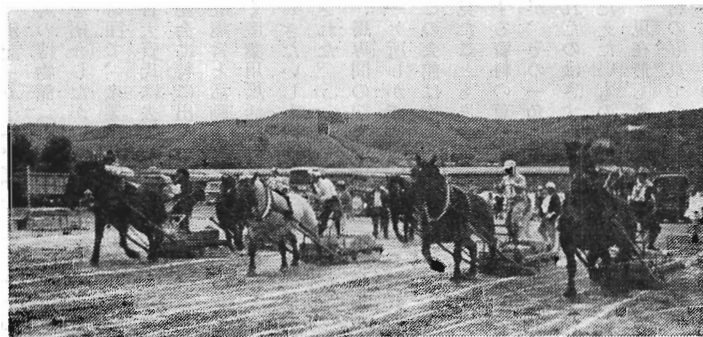
池田①



池田③

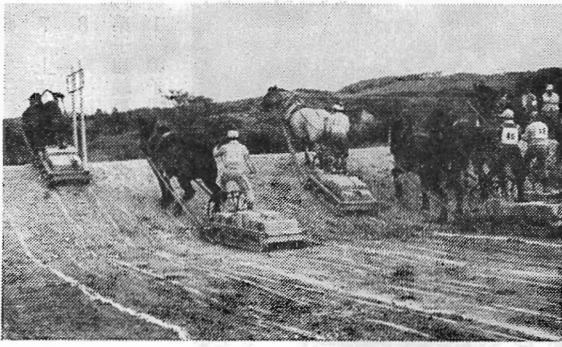


池田②

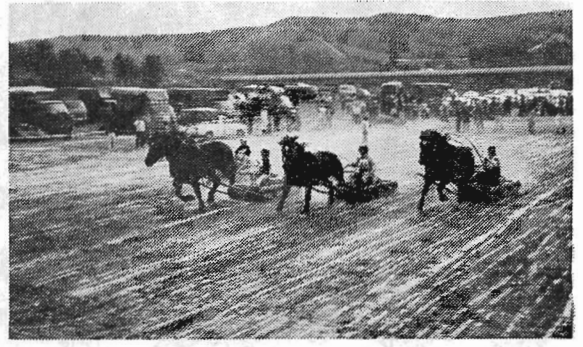


足寄①

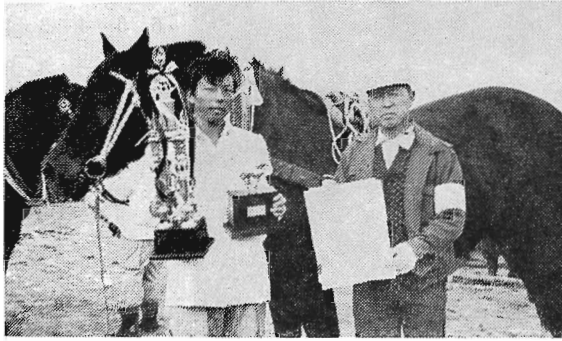
- 3 九月十五日
  - 4 五〇頭
  - 5 二六レース
  - 6 二二〇〇名
  - 7 足寄町鳥取 川上隆一氏
  - 8 重系第三クニヒメ牝一六才
- ◎上渚滑ばん馬競技大会
- 1 上渚滑馬産振興会
  - 2 上渚滑競馬場
  - 3 九月十六日
  - 4 五三頭
  - 5 一八レース



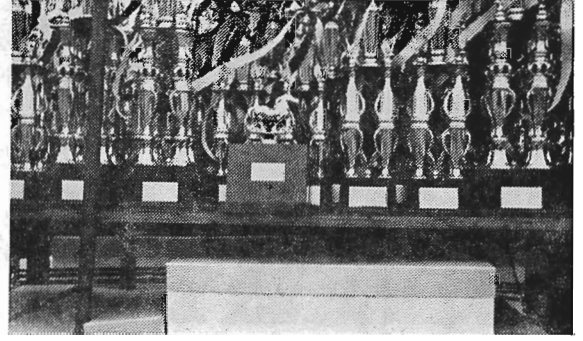
足寄③



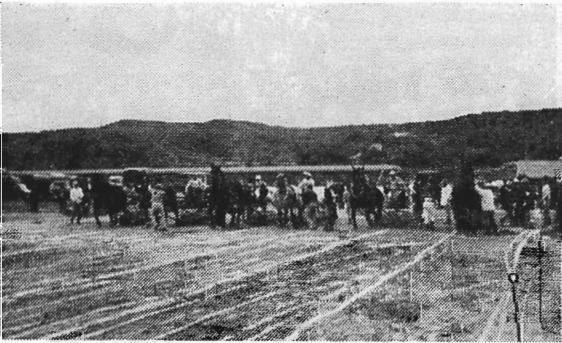
足寄②婦人レース



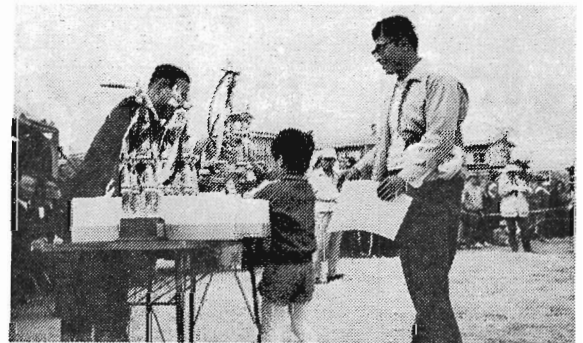
足寄⑤



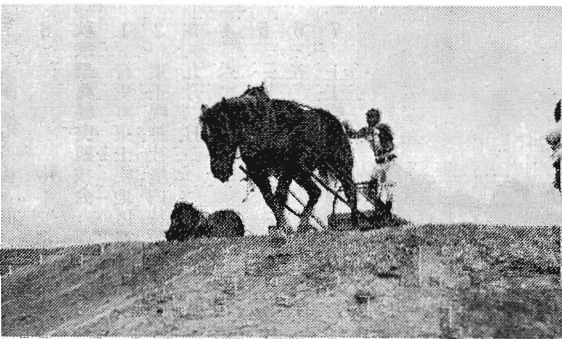
足寄④



足寄⑦



足寄⑥



足寄⑨

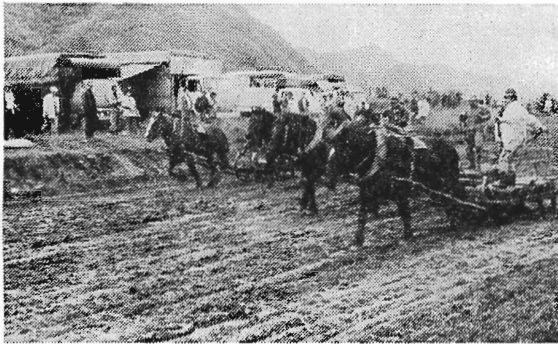


足寄⑧

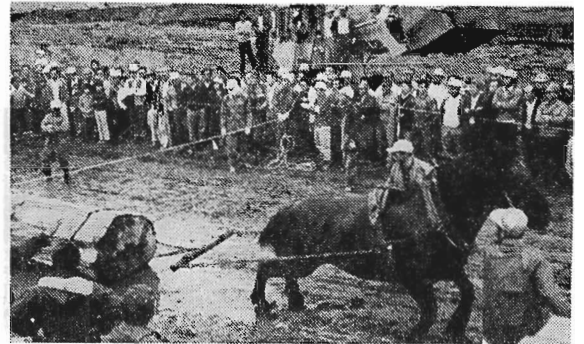


上渚滑①

- ◎弟子屈馬産振興同志会
- |   |              |
|---|--------------|
| 6 | 七〇〇名         |
| 7 | 上渚滑町 山崎 守氏   |
| 8 | 重半 春雨号牝一七才   |
| 1 | 弟子屈町馬産振興同志会  |
| 2 | 弟子屈鑑別 桜ヶ丘競馬場 |
| 3 | 九月十二日        |
| 4 | 一一五頭         |
| 5 | 一九レース        |
| 6 | 二〇〇〇名        |



上渚滑③



上渚滑②ケツ引

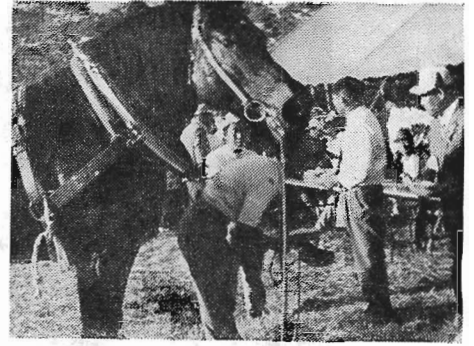


弟子屈①

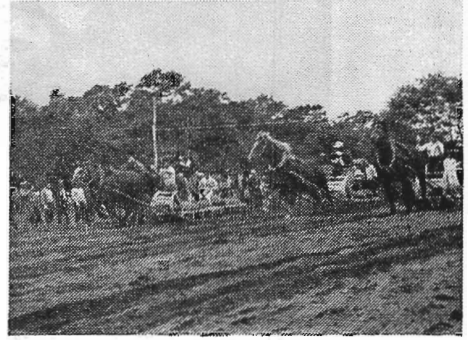
- ◎秋季祭典輓曳競技会
- |   |              |
|---|--------------|
| 7 | 弟子屈町 佐々間 栄   |
| 8 | 中半 初姫号牝八才    |
| 1 | 音更町東士幌地区農協   |
| 2 | 東士幌神社境内特設競馬場 |
| 3 | 九月二日         |
| 4 | 六二頭          |
| 5 | 一四レース        |
| 6 | 五〇〇名         |
| 7 | 上士幌町 宮崎勝次    |



弟子屈③



弟子屈②



弟子屈④



音更東士幌①

- 8 中半ミスシホロ牝六才
- ◎第一六回靱馬競技大会
- 1 鹿追町
- 2 鹿追町瓜幕競馬場
- 3 八月十七日
- 4 五五頭
- 5 二五レース
- 6 八五〇名
- 7 鹿追町 飯田 貢
- 8 重半ヒロニシキ牝七才



音更東土幌②



音更東土幌③

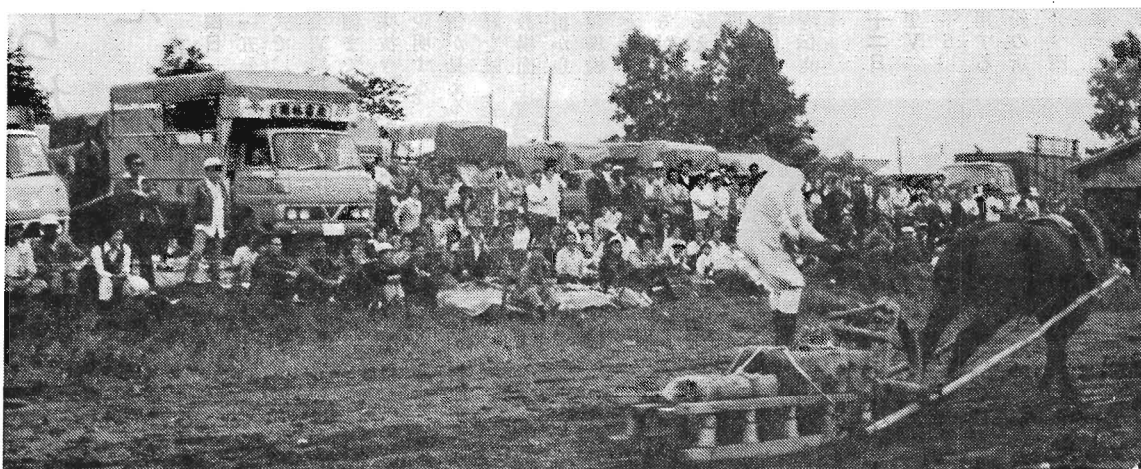
備考  
 本会寄贈の副賞授賞馬がいずれも牝馬  
 だったことは、頼もしい限り。



音更東土幌④



鹿追①



鹿追②

昭和51年度祭典（記念）轆馬主催団体名及び本会副賞受賞者名

主 催 団 体 名	開催月日	レース数	頭 数	入場人員	受 賞 馬 名	所 有 者
池 田 町 轆 曳 会	6. 15	21	89	1,700	キンリン号	小 林 道 行
阿 寒 町 馬 事 振 興 会	8. 15	17	107	2,650	力 丸 号	橋 本 君 徳
遠 軽 町 轆 馬 競 技 会	8. 15	27	88	2,000	新 山 号	池 和 夫
鹿 追 町 軽 轆 馬 競 技 会	8. 17	25	55	850	ヒロニシキ号	飯 田 貢
相 馬 妙 見 社 愛 馬 請	9. 1	25	61	2,500	義 姫 号	細 井 義 雄
東 士 幌 地 区 連 合 会 秋 季 祭 典 轆 曳 会	9. 2	14	62	500	ミス上士幌号	宮 崎 勝 次
足 寄 町 祭 典 轆 馬 競 技	9. 15	26	50	1,200	第37ニヒメ号	川 上 隆 一
上 渚 滑 馬 産 振 興 会	9. 16	24	53	700	春 雨 号	山 崎 守
上 士 幌 町 祭 典 轆 馬 競 技	9. 20	24	65	500	不 明	不 明
弟 子 屈 町 馬 産 振 興 同 志 会	9. 20	19	115	2,000	初 姫 号	佐 久 間 栄
佐 呂 間 町 轆 馬 会	10. 11	33	58	800	エンガルノ号	井 上 信 男

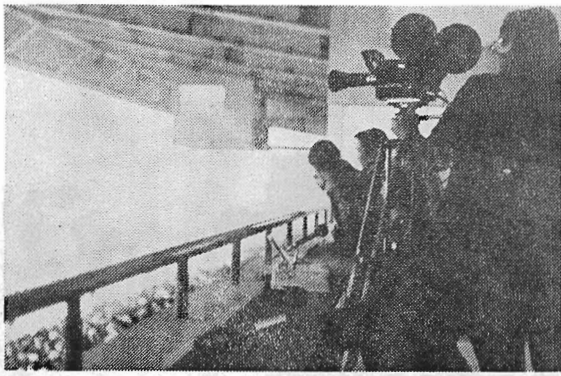


# マスコミに取上られた

## ばんえい

毎年の例によってマスコミが取上げた「ばんえい」と、その関連記事(農ばん馬が出てくる放送、記事)を紹介しよう。これは五十一年三月からことしの二月まで、筆者の眼や耳にふれた記録。

ばんえい空前の不祥事「そり仕かけ不正事件」の翌年ということで、各社ともシーズン前から主催者が「クリーンばんえい」目指しての改革再出発を大きく取上げた。



### 1 四月十四日 HBC TV

PM六時一五分から伊藤カメランのレポート形式で、五一年式新型そりと重量物を、本会岩崎技師の案内で各角度から撮影し裏側まで見せる、これでは昨年のような中味抜き取りなどは絶対にできない構造と説明する。

画面は残雪が見える旭川の馬場で、十勝大雪の秀峰を眺め乍らの調教場面を見せる。折から市議会では競馬場賃貸料のことが論議されているが、ことしのばんえいこそ不正の再発は絶無という主催者の意気込みを伝える。

### 2 三月二十二日

#### HBC TV

テレビポート6、今年から使用する旭川市上雨紛の新競馬場を紹介。四月末の開催にそなえて、在厩馬六〇

頭の雪中猛訓練ぶりを見せる。なお新競馬場は昨年九月完成し、既に道営競馬が行われている。

### 3 三月十六日 日刊スポーツ

#### ばんえい競馬デビューへ

角力で特訓 ご当地、北の湖顔負けの迫力、ハッケヨイ二〇〇キロの激突。

日刊スポーツ特集「追跡」は、ばんえい界ではご存じ洞爺湖畔壮瞥町の重ばん馬生産者森秀夫氏の牧場に遊ぶ若馬を、大型八段抜き写真入りで掲載、「調教に三百キロ四百キロの馬そりを引かせるだけでは物足りなく、足腰を鍛えるには長

時間(午前三時間)相撲をとらせるのが一番」と、いつも乍ら調教熱心な森さんを大うつつにする。

### 4 三月二十二日 道新

競馬シーズンに先がけて石狩町花畔の特設競馬場で、ばん馬大会が開催された四月末旭川で開幕する公営ばんえいの前に、力試しをしようという催しに、遠く日高や苫小牧からの農耕馬も加わって約四〇頭、四百キロから千キロの砂袋をのせて懸命の力走、一周二五〇米の競馬場にはたい焼きの売店も出て、馬を運んできたトラックの荷台で、鍋をつつき乍ら「それひけ」「がんばれ」と声をか



①600キロ余の巨体が激しくぶつかり合う「ばん馬相撲」この特訓が午前中の3時間延々と続く ②③午後は雪上で300キロのソリを引っ張り、本番に備えての調教

ける。果ては馬と一緒に走り出す馬主たち、本番さながらの興奮ぶりだった。

### 5 四月十五日から連載 報知

報知は四月十五日から同二十六日まで、「出なおしばんえい」と題して五日間連載、塚本明男氏の漫画入りで興味ある解説をしている。



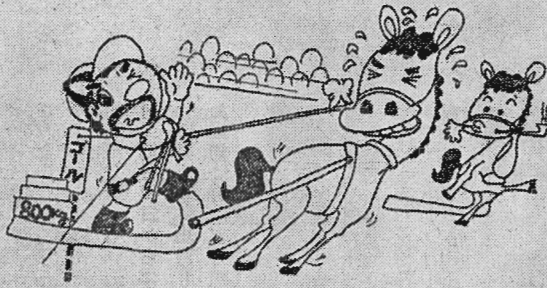
## オーブン馬は七百キロ

### そり、騎手積載物の重荷

ながら編者に乗る盛え、二百斤を突進も。それだけの重さを引つ張るのかといふと、そり、騎手、積載物の合計積載と、このことなる。このうち騎手積載は七十三斤に統一されている。

平地レースの騎手には積載物がつきあが、七十三斤なら、ほとんどの騎手がバンドなに加重して出場する。その昨年までは二百五十まで、ここから不正防止のために新調した百斤のものを使う。

積載物は、三歳新馬戦で二百斤。これを基礎に四、五歳、六歳以上の馬場ハンデと競取得額によるハンデが加えられる。たとえば五歳馬で三百斤以上のランクの馬は二百九十斤の積載物を積み込む。九歳以上のオーブン馬ともなれば、三百六十まで、さらに百五十斤を越えるまで、千



イラスト・塚本 明男

④

の加重。結局、そりを騎手と積載物の合計がオーブン馬だと七百数十斤に達する。

これだけの積載物を引つ張る馬は、ベルシクロ、フルトン力勝負な苦る坂線にかかると、脚力は我を忘れろーッと湧く。世界は頼みのない、遊藝馬のたいこ味である。

前年の不祥事「そり仕かけ事件」の発生と経過、主催者がたてた公正対策、新

型そり、新型重量物、執務体制の強化等々、次いでばんえい走路、設備からレースの仕組み、馬力の戦い、騎手、負担重量、最後はばんえいの特異な馬券の話となる。当たらぬ予想、有利枠を早く発見

すること、三点多く散らせ買うこと、と懇切詳細な解説だった。

### 6 四月十八日 HBC週刊バック

#### 連載「北の顔」鞍馬に燃える

#### 絶やしちゃんねえ 伝統

道南森町ばん馬はしばしば同紙で紹介されたことがある。二十七年の伝統を誇る祭典ばん馬だ。

今回は親の代から引き継いだ、ばん馬愛好家の水島市太郎さんを中心に森町ばん馬を紹介する。水島さんは二頭のばん馬を持っているが、ことしは一頭が出産間際のため出場を断念、もう一頭の愛馬「大鵬」で競走するが五寸差で負ける。それでも来年は公営に出すんだと闘志は逆に燃え上る。

ともすれば、家業の方はお留守になるが「なあに、うちのもみんな鞍馬が好きだから、苦情なんか出っこねえさ」と笑い飛ばす。

### 7 四月三十日 道新

#### 「クリーンにスタート

#### 旭川市営ばんえい始まる

#### 早くも熱気ムンムン」

道内四市の開催地のトップを切って第一回旭川市営ばんえいが始まった。昨年不正事件の反省から生れた新型そりによる「クリーンばんえい」と銘打っての開催、道内各地から七千人近いファンが詰めかけた。

午前十一時の第一レース出走時のスタンドは約二六〇〇〇人のファンでギッシリ、第三レースで八五〇〇〇円の中穴が出

て、スタンドは肌寒さもふっ飛ばすような熱気がムンムン、初日二億五千万円売上げで幸先よいスタートを切った。



### 8 四月三十日 毎日

#### 「二億円が乱舞、旭川ばんえいスタート」

あいにくの雨模様で道内の行楽地が総崩れした中で、ここだけは七千人近いファンが朝早くから詰めかけ、二億円を超える売上げで競馬への過熱ぶりを見せた。特に、昨年発覚した不正事件のイメージを一掃しようと、ソリ重量物を一新「クリーンばんえい」を目指した初のレースで、道内外から集まったファンは勝敗の行方とともに「ノー八百長」に目をこらしていた。

### 9 五月二十五日 道新

#### 「ばんえい、すばらしい」 岩見沢ニュージューランド競馬クラブ会長

ロバートシルソン氏ばんえい視察  
(詳細別記)

10 同 ホースニュース

岩見沢ばんえいに外国から視察  
「ワンダフル」を連発

ニュージーランドN・Z競馬クラブ会  
長 シルソン氏

外人がばんえい見物にきたことはそう  
珍らしくもないが、それは時折見かける

観客としてであった。

競馬の盛んなニュージーランドの競馬  
クラブ会長が、特にばんえい競馬を視察  
されたのは全く珍らしい。将来世界に紹  
介されていくばんえいの、ひとつの歴史  
的な出来事ともいえよう。

11 五月四日から二九回連載 報知

四月下旬「出直しばんえい」を連載し  
た報知は更に五月四日から十一月十七日

まで、二九回にわたって毎週水曜日「ば  
んえい漫画便り」を連載した。執筆は本  
会参事。

12 六月十五日 NHK TV

「一馬力健在」 PM八・五五  
平素は農耕や造林運搬に精出す馬八四  
頭が集合して、今日は池田神社奉納のば  
ん馬競走、あいにくの寒空に、タオルで  
頬かむりした騎手達が樹木の間を縫って

造られたコースで勝負を競う、観衆は約  
三百人、酒を飲んで盛に声援を送るいつ  
も乍らのほは笑ましい池田ばん馬の風景

13 七月十五日 HBC TV

パック2 「走ればん馬」  
今回は四年間にわたりHBCから放送  
された「ばんえいハイライト一ロメモ」  
の解説漫画と油彩を中心に、小林、近藤  
両女性アナと本会参事の対談形式で放



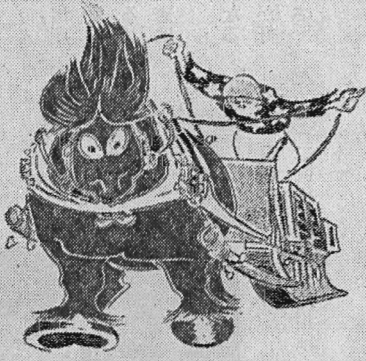
# 便りのばん

## 馬力

馬の「馬力」はそのくらいある  
か。簡単にいうと、體重的には体  
重の約三倍である。体重1トの馬  
なら3トの荷物を動かせる。  
もっとも、これはあくまで瞬間  
的なもので、一日八時間ほど働い  
ても疲れない程度の「馬力(ばん  
りき)」。を便り馬力という。ばん  
えい競馬はより瞬間馬力に近い能  
力を競うもの。二百ポンドの距離、重  
量ハンデなどがあるから必ずしも  
体重のある馬が勝つとは限らない  
が、1トを踏す馬の力は強大で、  
力のあることを「馬力がある」と  
表現することもある。

(えと文・内田靖夫)

# 便りのばん



競馬のあと、二百ポンドの距離コースを走るばんえい競馬の距離は、積載重量と馬場の湿度と  
いふ二つの要素で大きく変わる。馬場水分1・3%という同じ条件でも、湿度が変わると、  
タイムは大きな差が出るし、逆に3・3%という湿度でも、馬場の水分が多い、少ないでは  
やはりタイムが違ってくる。晴と曇、晴と雨という平地競走とは逆の馬場コンディションは  
ソリと砂のマサツがからんでくるからである。競馬、馬場状況を抜きにしては、よほどいふ  
想は立てられないし、このあたりが平地と違えばんえいのおもしろさでもある。(えと文・  
内田靖夫)

送、三十分(別記)  
14 八月二十四日 NHK TV

「馬市の日」

全国一の農耕馬生産地十勝で一番の馬市は池田である。ことしは八月二十四日から三日間、五〇〇頭の馬と二五〇人の商人が集まった。昔は五千頭も集って

「せり」が十日間も続いたという。パドック、せり人、馬のいななき、馬見せの場面を描きながら、今日は二人の馬好きを紹介する。

下見をしているのは池田町慈教寺の野村慈弘師である。師はばんえいにも一頭出している。和尚の馬好きは有名、そりを引出して自ら調教し、

大型リヤカーのような馬車や、そりで壇家回りをすることもある。法衣をまとって馬を調教する野村さんが画面に現れる。

一日に五〇キロも歩いたことがあるという。寒いときなど街で一杯やって帰ってくると途中で馬車に逢うことがある。あちらも酔っているからお互に馬車の上で眠りこけすべては馬まかせ、それで一度も不都合はおこらなかつた。馬は可愛い動物だ、たよりになる。

ことしは八五万円で良馬をせり落した。よく調教してばんえいに出すのだという。和尚の壇家は三百戸、鐘の音と共に荘重な読経の音が画面に流れる。

昔は見たす限りの耕地に馬が働いていた。十

勝はかつての馬産王国、今はトラクターに変わって姿を消した。幸いばんえいが年々繁昌して馬は少しずつ殖え出した。和尚は農民と馬をなつかしむ。

池田のばん馬競走が映し出される。アウンサーはこれを「田舎ばん馬」と紹介する。一般にいわれる俗称だ。

画面は赤い火が燃える蹄鉄工場に変る。今は十勝でただ一人しかいない装蹄師岡本さん(50)の仕事場だ。岡本さんは中国の戦線から復員して、

池田町でズーツと蹄鉄屋をいとなんでいる。昔は十勝に五万頭もいてこの街だけでも蹄鉄屋は六、七軒あった。

岡本さんの手にかかった馬は今迄に数万頭に及ぶという。

今はオートバイに乗ってあちこちの村落到ちかけていく。庭先で馬の足をかかえて削蹄をやる。馬を高く売るためには姿勢をよくしなければならぬ。馬市が近づく頃が最も忙しい。

池田の馬市、馬の群れ、いななき、連



新日本紀行「馬の頭のみつり(企画撮影)」★NHK 7・30

### ばん馬中心に描く

ばん馬は馬の重さを引か  
せ、その力と速さを競う北海道特  
定の競馬。毎年九月一日、樽津  
内灘上町では馬をまつた相馬  
馬神社の秋祭りに、それぞれの農  
家が愛馬を持ち寄りてばん馬競走  
を争う。

ばん馬の日の中心に、実りの秋  
を迎える農村の管々、馬どのかか  
わりを描きながら、北の大地で力  
強く生きる農上の人たちの姿を伝  
える。

人馬一体となって盛衰を感ずる  
農民ばん馬



呼するせり人の声、「ありませんかあり  
ませんか、ハイ三四六万円」、これはこ  
とし最高値段だった、岡本さん装蹄の馬  
だ。三日間一般人も入れて三千人の客  
が、ばんえい優勝を期して良馬獲得に血  
眼だ。せり落される毎に「オウッ」と  
感嘆の声があがる。

馬市は夏の終りを告げる風物詩のよう  
だ。十勝の里はもう秋風がそよいでいる

15 九月二十日 NHK TV  
新日本紀行「馬と男のまつり」

数十年の歴史を誇る相馬妙見神社奉納  
の、瀧の上ばん馬を中心に三人の馬好き  
農家を紹介する。

三島貫一さん(46)は優勝を目指して二  
頭の馬を畑の中で調教する。

目にしみ入るような深緑の牧場で馬を  
呼ぶと三頭がやってくる。三島さんは草  
をむしって馬に与えながら、

「これ、めんこいからカグヤヒメと名  
前つけました」おとなしい芦毛である。

抜けるような青空のもと、荒れ果てた  
開拓農家の廃屋が、古  
びた馬車と、草に埋も  
れている。新らしく買  
い加えた土地だ。三島  
さんは今四五ヘクター  
ルを経営しているが、  
ひと頃は一万五千人も  
いた農家が今半分に減  
り、馬は二千頭もいた  
のに今は二百頭しかい  
ないという。「私は馬  
が好きだから、ばん馬  
に出るのが好きだか  
ら」と三島さんは明る  
く笑う。

画面は山中で大木に  
唸るチェンソーを切り  
こんでいる場面とな  
る。

山辺兵五郎さんは夏  
は農業、冬は造林運搬  
に山へ入る。山の仕事

が終る三月、飯場で肉鍋で酒と歌になる  
やがて春が来る。草木が芽を出し緑は  
もえる、ことしもお祭りばん馬に出場す  
るため畑仕事の間に馬の調教だ。闘志が  
燃え上り、心は躍る。

次いで画面は牛舎の中に移る。酪農家  
大田越さんが搾乳前の乳房ふきをやって  
いる。大田さんも大の馬好き。先輩から  
ばん馬の追い方を習い覚える。馬を後退  
させてドカンと前進させる、圧縮引出し  
という駆法だ。この人の調教は坐り追い  
である……そして農作業……

満開の花を踏み分けながら馬がモーア  
を引いてやってくる。この地方特産のハ  
ツカ刈りである。しかし、

五十一年は冷害なのだ。このとし土中  
の根菜作物は良かったが、大方の地上作  
物はねこそぎ凶作型だ、牧草も悪く大田  
さんは黒鹿毛を売ることにする。

売られていく日、馬を見送る親子三人  
の姿は淋しい。娘さんの目に涙がうるむ  
やがて相馬妙見祭りの名物ばん馬競走  
の日がやってきた。コースは石の多い河  
原だ……鐘に身をかためた馬上姿がみ  
こし行列の先頭を行く祭り風景や、場内  
を流れる「岸壁の母」などのレコード、  
いつも乍らの豪快な妙見ばん馬が繰りひ  
ろげられていく。馬場を埋める約七百人  
の観衆が見守る中で、三人は健闘する。

16 十月十三日 HBC TV  
「テレビポート6 「街の馬車屋さん」  
帯広の佐藤盛さん、自動車一辺倒の中  
で馬一筋、単に馬好きというだけではな

い。馬には馬ならではの真似の出来ない  
長所がある。と街の中で荷馬車運搬には  
げむ佐藤さんの馬への愛情と強い信念を  
たくましい「仕事ぶり」で見せる。

17 十月十三日 報知

「くるくる変わる女心と馬場良不良  
馬券戦術のキイポイント舞台裏  
表示は平均値 4段階含水率」

馬場水分は馬にかかる負担に大きな影  
響があるので、ばんえいでは平地競走の  
馬場良、やや重、重、不良という表示を  
やめて敷砂の含水率を%で表示する方法  
をとっている。

これこそばんえい独創と想っていた  
ら、十年位前から中央競馬会でもやって  
いた。マスコミらしく見出しは、頗る面  
白いが中味は赤外線水分計の解説。

中山競馬場砂馬場の標準は次のとおり

良 一・一%  
やや重 一・二—一・四  
重 一・四—一・六  
不良 一・六以上

同場田村造園課長は「同じ重でも段階  
がある。現行の四区分の表示は適当でな  
い。ダートコースなら、良、湿、泥とい  
った表現方法に変えるプランもある」と  
語っている。アメリカは六段階だ。

ばんえいはそのものズバリの含水率で  
表示するが下限は0.5%、上限は8.0%とな  
っている。それ以上は変化がなくなれば  
ないとしている。

18 十月二十一日 STV TV  
11PM 荒馬と白鯨にいとむ女

恒例になったSTV（読売テレビ）の11PM杯もことしで五年目、いつも一時間だったのが、ことしは半分の三十分をカナダ東岸の勇壮な白鯨生捕りのレポートにしている。

ことしの出演者は司会の藤本、マリアシヌのほか、本道出身の漫画家おおばひ

ろし、タレントの殿岡ハツエ、山野陸郎、歌手あすかみえ、ディレクター小山俊郎、同鳥羽山照夫という顔ぶれ、これに旭川誘導馬係の森下とみ子さんが出演。この録画撮りは十月十五、十六の両日旭川競馬場で行われた。その日は快晴で一日中暖かく、始めてばんえいを見た殿

岡さんは、素晴らしい北海道の競馬場とその周辺の風光にすっかり魅せられて大はしゃぎ。ことしの11PMは「ばんえいレースと馬券と森下さんの話」が中心。アナウンサーの実況放送はさすが歯切れよく、八頭立の11PM杯レースを下見

所集合からゴールイン配当金まで興味深く放送する。優勝は7番のインカリハヤテで中央スタンド表彰台周辺に群がる大観衆の前で尾ヶ瀬騎手は、11PM杯と、これも恒例になったマリアンスさんの祝福のキスを受け

# 記録更新まちがいなし

## 迫力満点の坂登り

### VTR採用で近代化図る



競馬場（上）の模様と、馬券と森下さんの話。アナスさんの祝福のキスを受け

今回は全国ネット局から一人ずつ視聴者が選ばれ、ス

タジオの人達と一緒に勝馬をあてるという趣向だったが、的中したのは名古屋で喫茶店を営む浦山さんという人ただひとり。

19 十一月五日 報知

記録更新まちがいなし

迫力満点の坂登り

VTR採用で近代化図る

十一月六日岩見沢の、報知杯をかけた「ばんえいオーブン」の出走馬と、その勝馬検討を掲載する一方、「全国的に競馬ブームの退潮がささやかれているなかで、ばんえい競馬は飛躍的な売上げの伸びを示し、旭川終了の時点で前年比五億を上回る」と報じ、既に全期を終了した帯広、北見と旭川の成績を紹介する。

「素晴らしきばん馬」

同じ頁に特別欄を設けて競馬評論家前田豊平氏のばんえい観をのせている。

前田氏は「ことしもばん馬は大幅な躍進ぶりを見た、気どらない競馬内容と豪快なふん囲気が、この結果を生み出しているのかもしれない。私も子供のころから馬と生活する機会が多かったが、ばんえいに歩を運ぶ時、子供のころ聞いた鼓動、においが伝わってくる」

「おらがの、アオが競馬サ出るから見に行くベエ」といって出かけてくる農民の姿こそ、競馬本来の姿ではなからうか、こんな中にささえられている「ばんば」は幸せである。

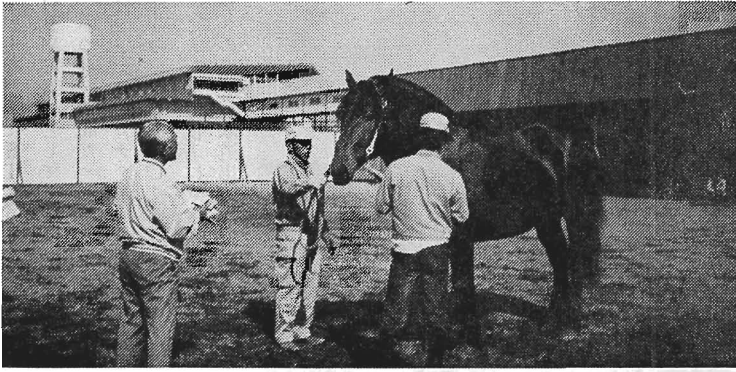
来年は馬好き道産子にささえられて、さらに榮えて行くことであろう。以下略

20 十一月二十一日 H T B

野山が白一色に染まる頃、ことし最後のばん曳競馬が、岩見沢市郊外の競馬場で行われた。

ばん馬競走の呼び名で親しまれている北海道独特の競馬。馬たちは大型ソリにコンクリートの重量物を積み上げ、大地をゆるがす。

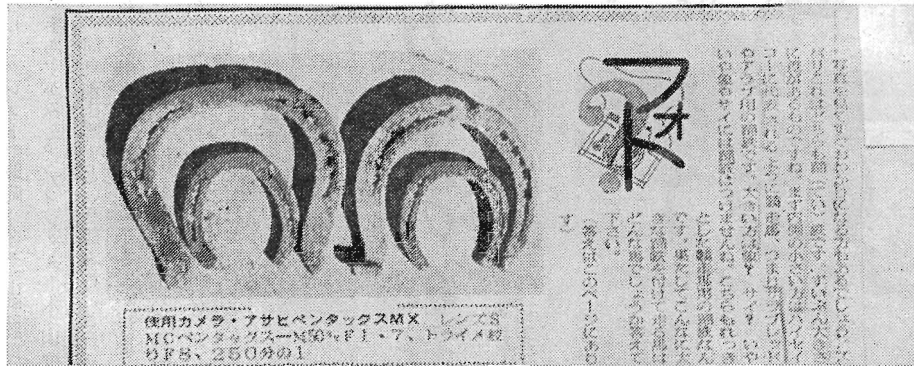
折口実さん(59)はことしも自分の持ち馬三頭とともに道内各地を転戦した。奥さんの春江さんも夫といっしょに馬と殺



起きをとにもにする日が続いた。

勝った日、敗れた日、それぞれに思い出はつきない。最後のレースを終えて、栗山の実家へ帰った折口さん夫妻。

「馬が好きでこうして暮らすようになった。愛情を注げば馬は必ずこたえ



てくれますからねえ」

冬、早くも来春にそなえての特訓が始まる。

21 十一月二十九日 日刊スポーツ

ばんえいにも良血種馬

現役から初抜でキタカナミ号

平地の競馬と同じ競馬でもばんえい界には血脈がない。ばんえい競馬が生まれて二十八年、数々の名馬を生んできたが、それらの血は受け継がれていない。

競走生活を終えてから種牡馬になったものも一部あるが、現在百頭近くいる種牡馬のほとんどが、輸入馬か、競走経験のないものなのだ。

一流の現役馬となれば価格はグンとはね上がる。結局中堅級からということでも二十数頭をフルイにかけタカナミ号にきまつた。お目かねになったタカナミ君、人間でいえば二四、五才の若者、そのハッスルぶりがうかがえようというもの。父フル系キプロク、母重半ダイニメキシコという血統、父のキプロクはフランスからの輸入馬で、昨年種牡馬ランキング四、五才の部で第三位の成績を持っている。タカナミ自身は五〇戦七勝、二着六回三着三回体重九三九キロ(旭川二回)

22 同日同紙クイズ「フォート」に

この写真、どちらも馬の蹄鉄です。ずいぶん大きさに差があります。内側の小さい方はサラブレッドやアラブ用の蹄鉄です。大きい方は象?、サイ?、いやいで象やサイは蹄鉄はつけません。こちらのもれきつとした競走馬用の蹄鉄なんです。

す。さあどんな馬でしょうか、答はこの頁にあります。(答はばんえい競走馬用)

23 十二月四日 N H K T V

北海道の窓「馬そり三〇年」

今ではもう珍らしくなった「柴まき爐つくり」の名人石塚さんを紹介する。

かまどに火が赤々と燃えて大釜の湯が煮えたぎる、昔はこの商売も腕自慢の名人が多かったが今は石塚さん位。

ばんえいは昭和四十六年鉄そりに変わるまで二十五年間この「木そり」が使われた。

材料はアカダモやエンジン、木そりの製造には大がかりな設備がいる。大釜の上に槌をのせ、ハナ木の部分を煮ながらテコの応用で力を加え、彎曲していくのである。この作業ひとつで一日かかる。

助手はおかみさん、今日の注文は修理だが、もうこれが最後かもしれぬと石塚さんは額の汗をふきながら呟やく。

24 三月三十日 N H K T V

PM 一・一五 ニュースロータリー

これは珍らしい福島県阿武隈町の造材馬の話。この町の関根利雄さんは三十四年間も馬車追い生活をしてきたが、今年限りで愛馬「六兵エ号」を売って廃業するという。これで名物がひとつ姿を消す。急坂を滑り山道を駆け下りる豪快な造材運搬、張り切る「六兵エ」はそれを器用にひとりでやってのける。

この仕事を二十年もやってきたが、エサ代が高くてもう引き合わぬと六兵エを見やる眼は淋しげだ。

タイヤ式馬車を引いて家路に急ぐ頃は陽も沈みかけている。もう馬はいなくなる野道に、馬頭観世首がポツねんと立っている。これを織りこんだ民謡があった画面に流れるが、それはもはや皮肉なむなしさがある。

25 四月十六日 HBC TV



ばんえい競馬  
それは中山で  
府中やサアラフの競馬が  
定まるレースしか  
見たことな  
なかつた僕で  
すごい迫力で  
圧倒した。

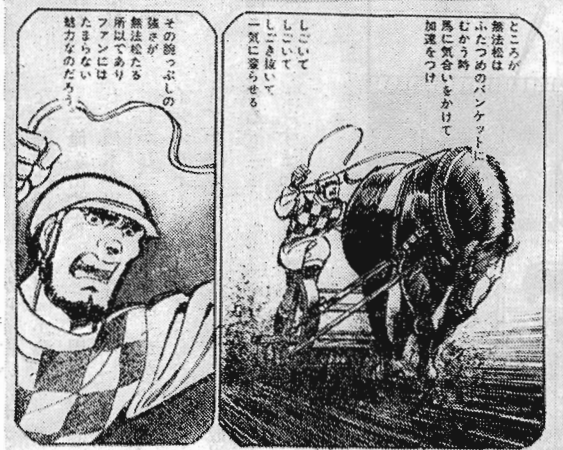
平均九百キロから  
イトンもある  
ブルトンとか  
ペルシユンといふ  
置馬の馬が  
五百キロ近いおもりを  
牽かすのを  
引く強さのだから……

バック2「人馬一体 原野に踊る  
どさん馬に乗る父子五人」  
馬に乗って馬と一緒に踊ることが出来  
たら、こんな夢を持つ一家がある。

駒踊りで有名な釧路管内白糖町の佐々  
木善広さん(40)と四人の子供たち、農協  
で働くかたわら「どさんこ」を八年前か  
ら飼いはじめ、末っ子が中学生になつた  
のをきっかけに、一家五人、おそろいの  
ユニホーム、長グズスタイルで特訓を始  
めた。本物の駒踊りにはまだ及ばない  
が、全員が乗りこなせるようになり、あ  
とはリズム感を養い、所作を覚える段階  
にまでこぎつけるのだという。

26 特集漫画 十月号

「ばんばの無法松」



ところが  
無法松は  
ふたつめのバンケットに  
ぶつかると  
馬に負合ひをかけて  
加速をつけ  
しどいて  
しどいて  
しどいて  
しどいて  
一気に突き進む

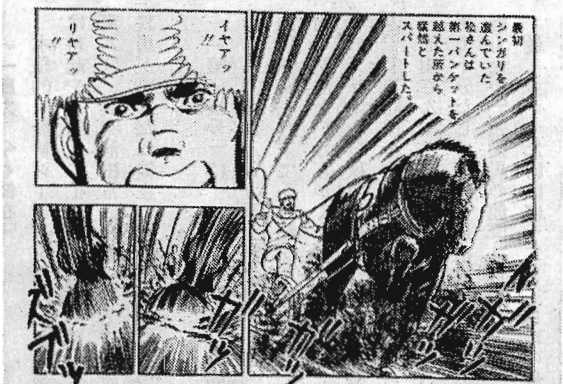
その鋭い  
強さが  
無法松たる  
所以であり  
ファンには  
たまらない  
魅力なのだ



よっしゃ、  
明日は  
無法松の  
名に恥ぢると  
レースを  
するぞ

ばんばの無法松の  
手綱さばきを  
見せてやるぞ

あ、ありがとう



乗前  
シンガリを  
運んでいた  
松さんは  
第一バンケットを  
越えた所から  
スタートした

イヤアッ  
イヤアッ  
イヤアッ

これはこの種漫画雑誌によく見られる露骨なエログロもなく、豪快なストーリーの中でばんえい競走をよく説明している。ここでは説明の部分は省略してそのあらましを紹介する。

東京のある雑誌記者植木は取材のため帯広競馬場にやってくる。そこですっかりばんえいの迫力に圧倒される。

特に騎手松本松造はばんえいの人気者。「ばんばの無法松」といわれ、その豪快な追いつぶりは植木を魅了する。

その夜若い女にイヤがらせをしたヤクザ五人を相手に大乱闘をしている「松」を見つめる。断然強い松にヤクザの一人がナイフを抜く、突差に植木は助けに入る。そんなことで親密になった二人は帯

広の夜を飲み歩く。  
東京へ帰った植木は無性に松に逢いたくなくて翌年の夏再び帯広にやってくる。不思議なことに松はスッカリ元気が無く負けつづけ、ファンから野次られていた。その夜二人は大衆酒場「おかめ」で逢うことにする。

そこのおかめお涼が松の初恋の人なのだ。「俺、頭のとっぺんから足の裏の豆までしびれちゃった」それが松の元気が無くなったモトである。松をころすにや刃物はいらぬ、女ひとりでイチコロよ。そこへ暴力団三人が入ってくる。家賃滞納一五〇万円の無理催促、延期を嘆願するお涼の頬にヤクザの平手が鳴った。  
松は立上った、忽ち二人がつき飛ばさ



れる。そのいきおいにヤクザは明後日まで待つことにして引上げる。

もう借金の目当てもなく途方に暮れるお涼に、松は明日の重賞レースに出る自分のインカリオーダーを買えという。絶対勝って見せる、単でも千五百円はつく、十万円で百五十万円だ。

しかしお涼は五万円しかない、「俺、三万円しかねえよ」。としようげる松（こ

こらあたりは漫画だから面白い、ホントなら騎手は競馬法に引っかかる）

「俺が出すよ、あと二万円」……感激した植木が出すことになる。

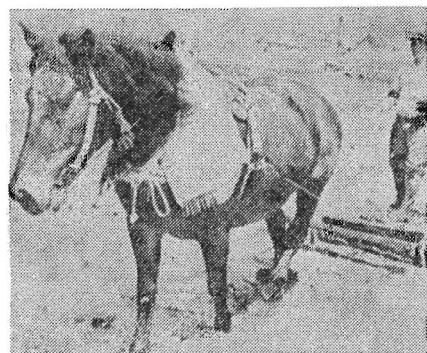
しかし、松の大奮闘にもかかわらず、インカリオーダーは一旦本命のヒダカキングを抜くが、さし返されて二着に敗退する。

「すまねえ、すまねえ、お涼さん」



でも松さんは次の日から無法松に戻っていた。

またあの豪快なかけ声が馬場にひびき渡った。



いまでも元気に活躍する第一桜号と池田さん

競馬が終ると松は「おかめ」に走った。そこには植木がもううきていた。

涙と共にひれ伏す松に、植木の言葉は冷静だった。「もういいんだよ松さん、もうその必要がなくなつたんだよ」

いぶかしげに植木を見つめる松、お涼の夫が刑期を終えて、刑務所から帰ってきたのだ、暴力団との話し合いは一切解決するのだという。

あつげにとられる松、力なく

「よ、よかったなお涼さん」、谷底に落されたような感情から、懸命にはい上ろうとする松。

それからの松はもうもとの「無法松」にかえっていた。豪快なかけ声が場内にひびきわたる。

帰京の車中で植木は来年も又、松に逢いたくてここへくるに違いないと、遠ざかる窓外の競馬場に眼をやるのだった。

27 五月二十九日 道新 空知版

「一馬力 今も健在」

本格的な農耕シーズンを迎え、各農家は耕起や田植えに忙しいが、新十津川町東八区、農業池田常信さん（71）宅では農耕馬がいまだに健在で農作業の主役をつとめている。

「第一桜号」は、二〇才の牝馬、人間なら八〇才位という高令だが十六年前、池田さん宅へ来てから病気ひとつせず、歯も抜けないなどかくしゃくたるもの。春のプラオから秋の稲運搬までよく働き、家族同様となっている。

池田さんは「二ヘクターくらいなら馬で十分だし、第一交通事故を起こす心配もない」と愛馬の健脚にニッコリ。最も多かった時には千二、三百頭の農耕馬がいた新十津川町も今では約五〇頭を数えるだけ。現役でバリバリ働いているのは第一桜号くらいになった。

28 五月三十日 NHK TV  
明るい農村A.M.六・三〇は秋田県で農耕と材木運搬にはげむ農耕馬を紹介する。同日P.M.五・〇五再放送。

29 八月二日―八月六日 道新  
「ドサンコ特集」  
五日間にわたって道立新得畜産試験場馬産科長福井孝作氏のドサンコを特集。

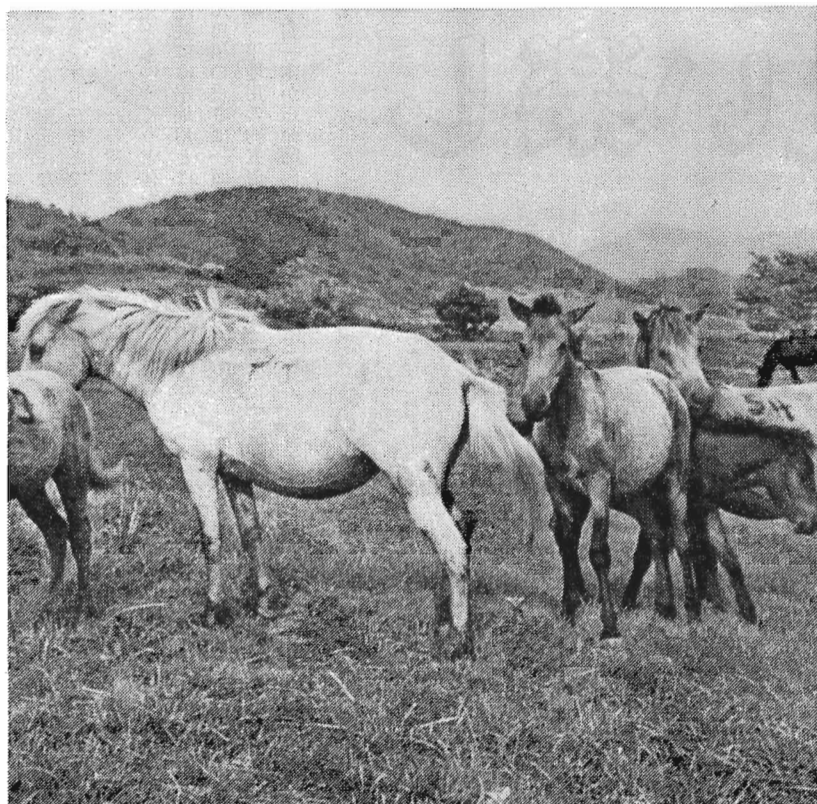
ドサンコと聞いてラーメンのことかといった若者がいた。ドサンコもすっかり変わったものである。これは北海道の在来馬のことである。正しくは北海道和種という。

この歴史を調べてみると、必ずしも

大昔から北海道にいたものでなく、和人が渡道の際に連れてきたものだろうと言われている。なぜならアイヌ人の人たちに「ウマ」に相当する言葉がない。ドサンコの元祖は東北地方の南部土産馬だろうと言われている。渡道した和人たちほとんどが、東北地方の出身者だからである。しかも春夏秋冬、山野に放牧して自然繁殖にまかせ、強いものだけ生き残

った。こうした跋しい中でドサンコは南部馬より小形になった。

ドサンコの増殖事業は徳川幕府が北海道の開拓に目を向けた一八〇〇年代に始まっている。文化二年（一八〇五年）に有珠、虻田に、安政五年（一八五八年）には日高の元浦川に牧場が設けられている。日本では昔から馬を戦争に用いるほか、牛とともに農耕に使いながら、厩肥



とりのためにも飼われていた。

馬を良くすること、大きくすることが目標だったが、在来種どうしの交配では大きくならず、北条氏が滅亡した戦跡から発掘される馬骨は今のドサンコと変りがない。明治五年の調査では道に約五千頭、明治二十年から三十年代には四、五万頭、四十年代は一挙に一〇万頭をこえ、四十五年には一八万頭、約四十年間に三六倍の増殖をみた。明治後代の外国種による改良で、北海道馬の五〇％は雑種となるが、それからはつるべ落しに減少して大正末には全頭数の八％しかいなかった。昭和四十六年の調べではその数僅か七五〇頭、しかも雑種が多く純粋のドサンコはきわめて少ないようだった。

これは大格な馬が必要だったからでもあるが、ほんとうは戦中の馬政計画が雑種化を強制し、飼養地域を道西、千島に限定したからだった。このような虐待を受けたドサンコが、今なお少数ながら生き永らえているのは愛好者による愛馬心のたまものだけといえる。

### 30 八月四日 NHK TV

これもドサンコの話、PM六・五〇、恵庭町の長嶺牧場で酪農特訓中の男女学生、牧草刈りはトラクターだが、牛追いはドサンコを使う、仔を連れたドサンコに乗って牛を追う若者、落馬する者もいるが皆元気だ。牧場長は馬を乗りこなすには十年かかるという。

### 31 八月十一日 NHK TV

「地引き馬」

これも珍らしい石川県奥能登村の山で造材運搬に働く馬の話。

高橋辰郎さんはもう三十年もこの仕事をやっている。坂を降り谷川をこえ小川の中を下る。麓までは一キロもある。一屯以上もある木材を、丈なす雑草を分けて息も荒々しくけなげに働く馬。一日四往復もするという。機械化におされて今も続けているのは高橋さんだけだ。

### 32 八月三十日 道新

「蹄鉄打ち四十年

ばん馬レースの勝敗を左右

技術研究怠らない」

道新「道央特集——息づく遺産」は装蹄師中野さんを描く。

ばんえい競馬をご覧になったことがあるだろうか。筋骨隆々、馬というより猛牛といったイメージさえ起こさせるたくましい農耕馬が数百キロにも及ぶ重量物を引っ張って走る。

横綱クラスでは馬体重一トンを超える、このすべてを支えているのが四本の足にしっかりと打ちつけられた蹄鉄だ。まさに裏方仕事といえるが、この道四十年、馬の足に鉄を打ちこみ続けてきた職人が岩見沢に在る。同市元町一の一中野政雄さん(59)だ。

ばんえい専門の装蹄師は全道で四人しかいない。中野さんはこの中でも最ベテラン、ウナギ登りのばんえい人気を反映してここ五年ほどの間にレース参加の馬の頭数も一開催五四〇頭になった。蹄鉄は一回装着すると三十一四十日持つので

約半年間のシーズン中一頭四一六回、蹄鉄を代える勘定になる。四月二十九日から十一月十五日まで開催日程はビッシリ。かぞえなら遺暦という中野さんといどもゆっくりと体を休める暇はない。蹄鉄には平地用とばん馬用があるが、ばん馬用の重さは一頭分三、五キロもある。平地用の約五倍、大きさはかりでなく釘一本から装蹄作業まで平地とはまる

きり異なる。「馬主からすべてを預けられるんだから、職人はひとに負けてはいけない。死ぬまで技術を研究しなくては」全部で三二本の釘がどんな具合に入っているかを馬一頭一頭について覚えていくスタンドの歓声を浴びる華やかな走路の陰で、たびたび馬の足もとだけを追う視線があることもファンは心に銘記すべきかもしれない。

# ばんえい楽し



全国的にわき起った競馬ブームもほぼ頂点に達し、全国公営競馬主催者協議会の五十一年度上半期の売上げ一平均の伸び率調査では僅かながら「落ち目」となっている。しかし北海道ローカルのばんえい競馬では各市とも好調で、或は全国一をマークするのではないかと、と各市の売上状況を紹介、その理由のひとつとして馬券の魅力をあげる。

ばんえい競馬では千円以下の連勝配当が少ない。一八〇円、二二〇円などの配当が発表されると笑いが渦巻くムードで、三千円、五千円でも驚きはなく、万馬券もそう珍らしくはない。

二百米直線セバレットコース、第一、二障害とあるが、第二障害をこえてからの直線七五米の三〇―四〇秒間はまさに「力が入る」のである。

34 八月二十七日 報知

「ばん馬の魅力  
巨馬の激突に快感  
一緒になって汗びっしょり」

この見出しで競馬評論家前田量平氏のばんえい観をのせている。

かつては「ニンシ曇り」の空を見上げて春を知ったものだが、最近「ばんば」がはじまって、それを感じるようになった。吹雪が去って間もなく、この豪

## 珍しくない万馬券

### 売り上げも全国一の伸び率

33 八月二十七日 報知

「ばんえい楽し

とまってはワーツ動いてワーツ

珍らしくない万馬券

売上げも全国一の伸び率

全国的にわき起った競馬ブームもほぼ頂点に達し、全国公営競馬主催者協議会の五十一年度上半期の売上げ一平均の伸び率調査では僅かながら「落ち目」となっている。しかし北海道ローカルのばんえい競馬では各市とも好調で、或は全国一をマークするのではないかと、と各市の売上状況を紹介、その理由のひとつとして馬券の魅力をあげる。

ばんえい競馬では千円以下の連勝配当が少ない。一八〇円、二二〇円などの配当が発表されると笑いが渦巻くムードで、三千円、五千円でも驚きはなく、万馬券もそう珍らしくはない。

二百米直線セバレットコース、第一、二障害とあるが、第二障害をこえてからの直線七五米の三〇―四〇秒間はまさに「力が入る」のである。

34 八月二十七日 報知

「ばん馬の魅力

巨馬の激突に快感

一緒になって汗びっしょり」

この見出しで競馬評論家前田量平氏のばんえい観をのせている。

かつては「ニンシ曇り」の空を見上げて春を知ったものだが、最近「ばんば」がはじまって、それを感じるようになった。吹雪が去って間もなく、この豪

快で、力あふれる巨馬の激突を見ると、何ともいえない快感に酔うのである。

どうして「ばんば」にこれほど人が集まるのか、競馬場へ行き、好きな馬の馬券を買った時から魅力にとりつかれてしまふのだから、正体のしれない魔力があるのかもしれない。

スタートからゴールまで、馬と共に力を出し、ともに汗を流すことができるこの競走こそ真の競馬とすら思うのである。障害の砂山の前で、ひと呼吸入れ、力いっぱい坂を登る時、観衆から「ソレ―」のかけ声があるのも見る方にも力が入る証拠だ。ファンと馬と騎手が一体となっている点では、ゴール前しか見えない普通の競馬とはケタ違いだ。スタートから馬といっしょに駆け、歩くファンも多いのである。

このばんばは素材で泥くさいところに味があり、むしろスマートでない方がいい。あの一トンを超す巨漢どもが汗びっしょりになって「力」で挑戦する姿こそ、楽しさ、おもしろさがあるのだから

35 52二月一日 毎日

「働きもんだよ 一馬力」

「そのけそのけ、お馬さまのお通りだーい」道内でも有数の豪雪地帯、倶知安町で、いまも詩情豊かに馬ソリが活用され、住民から親しまれている。

本来なら車が通れる筈の道路がみるみるうちに雪で埋められるとあって、冬になれば馬ソリを手放せない。どんな吹雪もものかわ、シャンシヤンの鈴の音とともに

にせまい小路も自在に通り抜ける馬ソリは便利この上ない。現在の正式な肩書は「衛生課輸送係」

今年は例年になく雪が多く、愛馬の福姫号もたいへんです。と馬主の山岸良吉さんはいう。既に積雪は二米をこす。

——なお山岸さんの話は一月末NHKからも放送され、馬と車が協力し合ってゴミ集めをやっている場面や、大雪に埋

もれたトラックを福姫号が引っぱり出すところなどが放映された。町民の一人が

「冬は馬なしでは絶対やっていけない」と言っているのが印象的だった——

この記事は四枚の写真がむしろ主軸だが、その説明が面白い。

◎うまいうまい 馬だつて雪を食べますとナガール顔でパクリ

◎バカバカ でも交通事故なんてあ

りません

◎道なき道を 家の軒下まで、雪に埋

もれた小路を、ゴミ集めに活躍

◎多才ぶり ここでも除雪に繰り出された馬が (これは留寿都町)

36 四月十七日 道新

「暴走族並みの馬車」 大正二年

大正二年というから馬車が唯一の交通機関だった頃、珍らしい取締指示が出ていたことを池田署が発見、馬は驚くと暴走して更にその車輪の音に驚き狂奔するものである。そんな事故が滝川町で妊婦をひき殺す不幸となり道警察部長から全道署長宛敬達が出された。

「近來馬車追業者等、規則ヲ守ラズ、市街地デ乗取(当時禁止)ヲ政行、避讓

モシナイデ横柄ヲ極メテイル、コノタメ積雪テ狭隘ナ通路ハ独占サレ、一般交通ノ妨害トナツテイル、特ニ老幼婦女子ハ危険ニサラサレ一月二八日滝川町ニ於テ事故が起キタ、ソコデコノ際敬重取締マリヲ勵行シ、遺憾ナキヲ期セラレタイ」

37 四月二十日 道友

「健全娛樂」

これはマスコミではないが、退職道庁職員の間「道友会」の機関誌「道友」四月号に柴田副知事が寄稿されたもの。娛樂——広辞林によると「人間の心を樂しませ、なぐさめるもの」と記録してある、娛樂の考え方も変わってきた。

オランダの文明史家ヨハン・ホイッソンは、理性とともに、遊びが人類文化の発達に不可欠のものであると主張し、この

主張が現代文明の行方を予言したものとして高く評価されている。

競馬は大衆娛樂、畜産振興、財政寄与と多方面の目的をもっている。ギャンブルという感覚はかなり薄れてきているが、ほんとの意味で「楽しむ競馬」になりきっているかというと、まだ疑問をもつ人がいるのは誠に残念なことだ。

競馬は楽しい、だがその楽しみは人生の調味料であって、決して主食とはなるものでないことを、改めてここで言い添えたい。(全文の中からはっすい)

この文と共に四十七年道営札幌記念の優勝者に対して、知事自ら賞状を読み、賞杯を授与する写真がのっている。

38 「北海道の競馬」 北海タイムス

北海タイムス社は、四十九年「北海道の競馬」を特集連載したが、これをまとめて発刊、その内はんえい編は二四頁。

39 五月十四日 道新

買物もお馬さんで

ゆっくり生きる札幌77才の老人  
この人は札幌市西区手稲富岡アパート業東吉次郎さん。

東さんはずつと農業を営み、子供のころから農耕馬と家族同様に暮らしてきた。それだけに農業をやめてからも馬を手放す気になれず、馬を飼いつづけてきた。いまだサンコ二頭、ポニー一頭、サラブレ

ット一頭の四頭がいる。奥さんを二十八年前に亡しく四人の子供も別居、四頭の馬だけが東さんの「良き友、よき家族」だ。車の免許もあるが速すぎる、とあ

# 働きもんだよ!! 一馬力



っさりマイカーからマイホースに切りかえ八キロもある市街への買物も馬でパカパカ、手稲、樽前、春香の山々も馬で登った。東さんは「馬は山坂どこでも行けるから車よりずっと重宝だ、もう放せませんよ、この七月には羊蹄山に登るつもりだ」と夢はとても七七才のお年寄りとは思えない。

ちなみに道交法上では馬は自転車、リヤカーなどと同じ軽車輛扱い、札幌市には全国唯一の「馬ふん条例」が残っているから街頭でふんを落せば罰則も……もう馬は稀少価値だからあまりやぼなことはいわないようで……。

#### 40 六月十二日 道新

「懐かしい馬のおしめ」

馬ふん条例とはこれいかに

前記の「馬ふん条例」については六月十二日から連載された札幌市及川清掃部長の「都市清掃と私」に詳しく書かれている。それと前後してHBC週刊パッタ、月刊観光北海道などにのった。

春風と共に舞い上り、街を吹き抜けるのが札幌名物の「馬ふん風」である。そこで昭和二十九年、全国にまれな馬ふん条例を制定してその一掃に乗り出した。発案者は当時の清掃課長大力豊さん。

札幌市清掃条例(ばっすい)

## 「馬ふん条例」も展示

### 札幌 清掃資料室オープン

と、その際馬ふんが飛散されてきた。馬ふんはマンコ、馬ふんは馬の糞頭をいふ。馬ふんは馬の糞頭が、すいぶん目につくようになったのも、このフームのせいである。



## 懐かしい馬のおしめ

五月八日 豊橋にて

#### 第七條 馬の使役者又は運行者は、市長の指定する地域内の道路、広場及びその他の公共の用に供する土地においては馬に「受ふん」装置を取付けなければならない。当時市内の飼育馬は約四千頭、このうち約千頭の馬車が市街をかつ歩き、馬ふんを落していた。

41 六月十四日 NHK TV  
新日本紀行 鹿兒島県知覧村の馬車と推肥と自給自足の生活を伝える。

42 六月九日 NHK TV  
盛岡市の館野ハツさん(94)とボケ号の愛情を語る。ボケ号はもう二五才で人間なら百才という老馬、よく食べよく働きハツさんと孫を馬車に乗せて街へ行く。

43 六月十四日 道新  
この馬力見直してよ  
ドサコソ樽前登山  
急斜面パカパカ  
年々少なくなるドサコソを守って、こうと恵庭、千歳両市の農家の人達によって、五十年八月結成された北海道ドサコ保存会のドサコ九頭が十三日樽前山(一〇二四メートル)の登頂に挑戦、足場の悪い急斜面を人馬一体の奮闘で無事山頂に辿りついた。今回の馬の登山は本道開拓に尽くしながら、車社会と農業機械化の波によって忘れ去られたドサコソの底力をいっちょよみせてやるうーという、「馬力見なおし」のデモンストレーションであった。

44 七月十二日 NHK TV  
「お供馬」 スタジオ一〇二

市川カメラマンのレポートで福岡町秋祭りの「お供馬」を紹介する。今はもう四頭しかない豊耕馬に少年が乗って、観衆で埋まる三百米の街道を神社まで駆け抜ける。

45 七月十三日 NHK TV  
「白夜のくに」ソ連バルト諸國  
白夜の国、ソ連エストニア共和国の華麗な祭典に見事な重鞍馬エストニア種が出てくる。美しい民族衣装の青年男女が白夜に踊る。エストニア種は重量けん引用として能力は抜群、その生産目的は輸出して外貨獲得にあるという。

46 七月十六日 道新  
「時速4キロパカパカ観光  
大受け幌馬車 愛されて三年」  
函館に幌馬車が登場したのは四十九年六月、千代台町の建設業菊地梯二さん(47)、昭和町農業鈴木勇さん(68)の二人、折からの石油ショックのなかで「馬なら石油も食わないだろ」と「函館観光幌馬車」を設立した。ブレーキ、指示灯、尾灯などをつけた時価七〇万円の特製車をばんえい競走馬が引っぱり、のんびりと発車した。一日二回約九キロを二時間かけて回っている。値段は大人千三百円子供七百円で観光客に大受け、一回一五、六人が乗りこむ。

47 九月十五日 NHK TV  
監督機関の市では「車両の保安基準、馬ふんの処理など問題がないので安心して。いまや観光函館の目玉です」

馬で名高い日向村と、馬が踊るじゃん

かん馬を紹介する。農家の坂立静さんは車よりやはり馬がいいと馬車で街をゆく。そこにはひなびた街並があり、人がおり、日向の顔がある。

坂立さんのじゃんかん馬は祭りの名物、手綱さばきも鮮やかに三味線太鼓に合わせて、足ぶみよろしく舞台で踊る。坂立さんの幼少の頃、家には五、六頭の馬がいたという。これは日向馬、坂立さんは日本一のもりでいる。ところがこの日本一、舞台でポロを落してしまい共演の和田あき子、まどから逃げまどうおまけつき、笑い拍手の中で幕。

48 九月十七日 道新

白熱のレースに見物人わく

爪幕の競ばん馬大会 鹿追

戦前から五十年以上を数え、草競馬の草分けとして知られる鹿追町爪幕の競ばん馬大会が十七日、同町爪幕競馬場で行われた。会長の中野勝次郎さんによると、爪幕の競馬は十勝管内で最も古い歴史を持つほか帯広を除いて十勝でただ一つ、専用競馬場を持っていることが特色という。農耕馬減少などで近年は人気はやや沈滞気味、それでも根室、富良野、阿寒などから六二頭が出場、ばんえい競走のほか平地競走や、ドサンコロレースもあって約三百人の観衆を喜ばせた。

49 九月二十八日 NHK TV

スタジオ一〇二各地の便りで、馬に困んだ二つの話題を放送。そのひとつは農耕馬の造材運搬風景、もうひとつは群司獣医さん乗馬往診の話、馬は働いている

50 十月四日 道新

十月三日日高新冠共同育成センターで「第一回駒祭り」が開かれた。快晴に恵まれて約六千人の観衆が集まった。馬の国日高でも馬のお祭りは始めて、日高はサラブレッド、アラブの主産地だが、結構農馬もいて、ポニー、トロッター、ドサンコのレースも行われた。

昼食時のアトラクションタイムには特設ステージでウェスタンバンドの競演や郷土芸能があり、乗馬サービス、ほろ馬車場内一周も人気を集めた。

51 十月十七日 道新

日曜版「日本の街並み」に、

港が見える長崎の街は急な坂道が多い。長崎は坂の町、建築資材を背に坂を登っていくのは、今でも馬の仕事。

52 十二月十八日 NHK TV

「競馬調教師は語る」

NHK朝のスタジオ一〇二は昨年から学識芸能など文化的な仕事に一生を託し、それぞれの権威として著名な人を訪問して、その談話を放送、好評を博しているが、この日は競馬界から中央の調騎会長武田文吾師を選んで対談した。これはばんえい競馬ではないが、その話の中には含味すべき点があった。

武田師は元來話術のうまさで定評のある人だがそのひとつ、人も馬も酷な位しごかなければならぬ、二〇才や二五才ではナニモ判らぬ三四、五才で少し判ってくる。可愛がつてくれた佐藤紅緑先生は死ぬまで研究だといっていた。馬もそう。三千万円もした高馬だとしても

大切にする。なできるように可愛がる、それでは馬はナマってしまう。普通の馬以上にたたいしてしごかなければ駄目だ。

競馬ブームで馬券が売れすぎる、これでは競馬でなく賽馬だ。ドックレースでよい。競馬はスポーツでなければならぬ、命がけて勝負するのが競馬だ。馬を全力走らすのが騎手だ。

馬へんとうたら只の奇人、売上げどんどん上る、私は万々才とはいわない。御愁傷さまといたい。この放送は聴取者にも共感を与え翌年一月七日毎日「読者の広場」で、枚方市の作詩家南口氏は、武田氏の話に共鳴、本来競馬とは人馬が日頃の鍛練と成果を命がけて競い合うもので、手に汗握る息づまるような人馬一体の姿に感動と詩情があふれ、見る者を楽しませるものだ」といっている。

53 一月十一日 NHK

TV

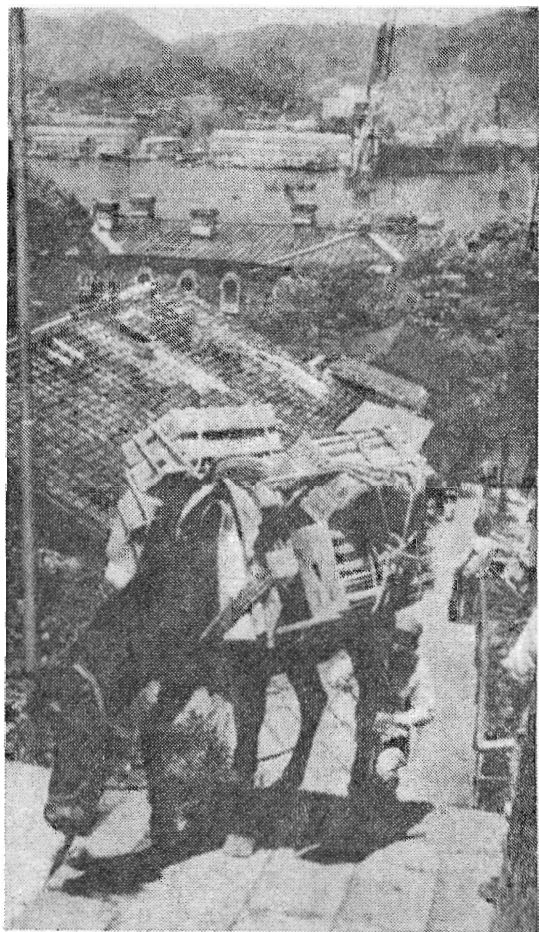
ふるさとのアルバム「えりも岬」

冬二〇米の風が吹きすさむえりも岬に物運ぶ馬たち、岬の沖を大波に揺れながら行き交う船、灯台守の四人の男達は共同炊事で峻烈の冬を越す。

54 一月二十三日 NHK

TV

「馬そりと雪上車」これは幌加内字母子里の



長崎は坂の町。建築資材を運ぶのは今でも馬の仕事だ

話。母子里は二千三百ヘクタールの北大演習林が生んだ酪農部落だ。全道随一の極寒の地、十月か十一月に根雪となる。

一七〇センチ以上の積雪の中で唯一の便は馬そりである。牛乳運搬も馬そり。演習林事務所に雪上車が一台あるが、巡回用で運搬には向かない。それでも馬そりが間に合わない時は代用するが積荷が少くない。牛を診るために雪上オートバイに乗って獣医さんがやってくる。

55 二月四日 HBC週刊バック  
北の女「赤い情熱、白い肌  
耐える美しさ胸に

「豪雪のふるさと俱知安」

豪雪の里俱知安は、その白い重圧に似たげられた歴史に綴られる。

一夜明ければ丈余を超す、そんな古い表現が誇張ではない雪国。年間の降雪量十数センチ、この降りざまはどうだ。文人墨客の、雪の概念をはるかに超えて、妻絶である。

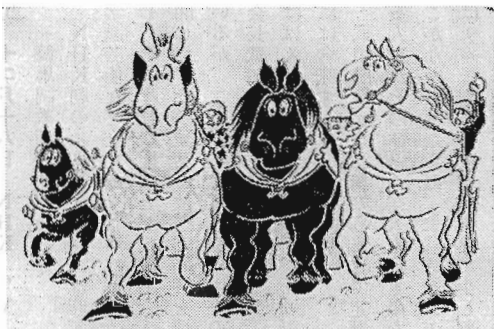
ジャガイモと豪雪のふるさとには、やはり白い地平線に二条のわだちを残す馬ソりに、白い肌を赤く染めた娘の風景が絵になるようだ。

56 スポーツ大手三紙ばんえい予想

日刊スポーツニッポン  
北海道 スポニチ  
報知新聞 THE HOCHI-SHIMBUN  
北見ばんえい

スポーツ新聞スポーツニッポンは四、五年前から「岩見沢ばんえい」の勝馬予想を掲載、次いで日刊スポーツが「旭川・岩見沢」を取上げ、五十一年は報知が猛然とばんえいキャンペーンに乗り出し、これで全国スポーツ新聞大手三社が「全日程のばんえい予想」を掲載することになった。三社とも「勝馬予想」のみでなく、それぞれ関連記事を集めて、ばんえいファンに参考資料を与えている

57 五月七日―十一月十九日 HBC  
「ばんえいハイライト」  
スポンサー道北振興KKによって四十八年から放送された「ばんえいハイライト」も既に四年目、五十一年は五月七日から二九回にわたって毎金曜日PM一時四〇分から一〇分間放送された。最終二九回は岩見沢第四回五日目に録画、



「ばんえい競馬」予想  
新登場  
日本で最も多く愛読されているスポーツ雑誌の専門紙競馬新聞ではこのたび、北海道の皆々へ人気上昇中の「ばんえい競馬」の予想を新掲載いたすことになりました。迫力ある、巨馬の対決。道産子ならではの味わえない、ビッグスポーツファンの皆様ご期待下さい。

8月1日から  
お届け出来るようになります。

◎バツチり情報中央競馬  
◎名馬・ドッキリ交友録◎ゴルフ特集  
◎レジャーガイドなど話題がいっぱい

ばんえい競馬 昭和51年度全期  
ファンに朗報  
の成績を掲載

58 CMにばんえい  
(1) 報知 七月  
ばんえい予想新登場。北海道の皆様へ人気上昇中の「ばんえい競馬」予想

想新掲載、迫力ある巨馬の対決、道産子ならではのビッグスポーン。

(2) 道新北見網走版 四月

ばんえいファンに即報、昭和五十一年全開催地の成績を掲載、北見地方で圧倒的人気を博しているばんえい競馬成績を要望にこたえ掲載します(二紙とも漫画は本会参与作)

(3) キリンビールCM作成撮影隊は日

高山脈の山麓にある帯広市岩内の造林山に入り、雪の山道で原木を運搬する豪快なばんえい競走馬を一週間わたって撮影、目下CM放映中。



日高山麓帯広市岩内の造林運搬

(4) 東急産業グループのテレビCMは

野原を行く馬車が七回も出てくる。そよぐ野の風、白い雲が静かに流れ、さわやかな陽光のもと、馬車は野草の中、家並の下、寺院の前を行く。

(5) 日本生命のテレビCMは冬になる

とお馴染みになったニッセイのおばちゃんを出してくる。

角巻にくるまったおばちゃんは今日も又、馬そりに乗ってはるかなる

雪道をやってくる。林の中を、鉄道のかたわらを、雪原の中の本道をドラマの背景に農耕馬

59

ばんえい

# 馬競曳の感力

不...の細多競馬ブーム。不...が象徴するように競馬とい...  
 想像するが、どっこい、この精神...  
 るのが、見るからに頑強?な重...  
 になるが、ソリを引いて輪を越...  
 のというファンが年ごとにふえ...  
 のの上げ。

馬産のお祭り競馬として北海道各...  
 本場の観客すらかき集めて、その熱...

六日間の期間開催で、市の空を...  
 上げも五月から、千円...  
 なるもの、紅顔...  
 大きくて、馬産を...  
 った。

それな高層成長...  
 強弱は...  
 本場の観客すらかき集めて、その熱...

## 逞しさと馬券的な興味

全国一の伸び、観光客にも人気

(1) NHK朝の人氣番組「火の国」の

字幕の背景に阿蘇の緑に和して農耕馬が出ている。

(2) 夏のNHK天気予報は音更種畜牧

場の農耕馬群を背景にしていた。HBC週刊バック 第一頁カラー刷り「北の顔」で、網走町美豊加藤譲さん経営の道産子花園牧場を紹介する。芦毛の親子馬が白樺と湖とたんぼの野で、加藤さんに頼をよせている。見出しは「絶やしてならぬ開拓の先兵 生涯を道産子に」

60

り「北の顔」で、網走町美豊加藤譲さん経営の道産子

介。

62 五月二十一日 HBC週刊バック

「力感」のばんえい競馬 道産子なら、すでにおなじみの挽曳競馬、荷を引いて走るさまはなんとも泥くさいが、その力感がファンをしびれさせて人気はサラ、アラ系を凌がらばかり。まず北海道名物のユニークな競馬の発祥から追ってみよう。

開拓の昔、馬は農民の強力な友だった。原始林の木株を掘り起こし、畑を耕す馬の良否が、開拓農民の成功、失敗をわけたといってもいい。それだけに良馬を争って求め、いつしか、村祭りに、部落対抗の馬力比べが呼び物となっていた。やがて戦争。農耕馬は、軍馬として徴用されて活躍したが、終戦でその「需要」がガツタリ減り、馬産北海道に斜陽が馬を駆逐しはじめた。

「このままでは馬産北海道は斜陽の一途」とチエを絞って生まれた発想が、祭りの伝統行事、馬の力くらべ、競馬も祭みみたいなもの、軽種の間こを張って重種も面白からうと挽曳競馬が登場した。――挽曳の人氣を支える、「力感」はその巨大な馬格とともに、重量物けん引の「機関車的」馬力にある。

第二障害の手前とそこに登るときは、馬の息を整え、馬力を蓄えるために特に「小休止」は認められているが、それ以外は一切ご法度。但し馬が精魂つき果てた場合は、その限りでない...となつて



いる。

ともかく、数多い競技の中で「立ち止まっても構わない」というハブニング公認は軌馬だけ。それだけにまた馬券的興味も大きいわけだ。

### 63 少女漫画誌「りぼん」に連載

「ケンよ わたしの心に」

前号で紹介した五十年秋帯広へ取材にやってきた女性漫画家の作品は、翌五十一年十一月号から五十二年二月号まで、少女漫画雑誌「りぼん」に、四カ月わたって連載された。



おとなにとってはいかにも少女漫画らしい優しさと他愛なさが感じられるが、作品の随所で「珍らしいばんえい」のルールを説明し、少女の淡い恋も出てくる。ともかく可憐な少女雑誌が武骨なばんえいを取上げたことはほほは笑ましくも特筆にあたいする。作者は久木田律子さん。

——あらし——

心優しい少女安岡ひろみはててなし子で、今また母を失い、北海道で牧場を営む祖父父母に引取られる。北海道への一人旅、下車駅から牧場までの道は遠い、そんなとき親切に馬車に乗せて、おくって

くれたのは、獣医永井の一人息子隆夫だった。

祖父父母の牧場

は左前で、既に経営が苦しくな

っており、祖父

母達の表情はか

たく、笑顔も見

せない。ひろみ

はその日からさ

びしい祖母にこ

き使われる、息

子の達三も居候のひろみを厄介者扱いにしてつらくあたる。

ところが体重一トンもある荒くれ馬ハナ（フジノハナ）は妊娠馬だが、不思議にひろみになつく。

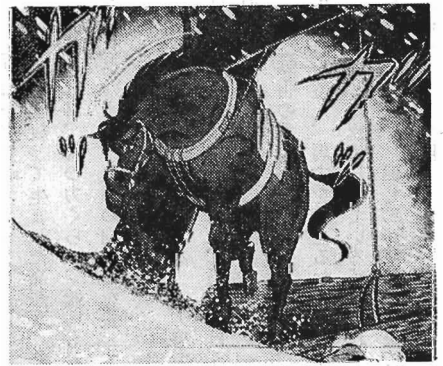
ひろみは円山小学校に通うが、そこで大金持の添田牧場の高慢娘真理子と知りあう。ハナは永井獣医に見とられながらケン（ケンリユウ）を安産する。

だがある晩達三のすてた煙草の火がもとで、厩舎は全焼し、馬達は救け出されるがハナは大火傷を負い薬殺される。

ケンはたくましく成長し、祖父は激しい調教にとりかかると。

添田牧場には農林大臣賞をとった名血馬の子アランがいる。公認のばんえいに出る前の祭典ばん馬にアランとケンは出場する。先頭を争うのはこの二頭だ。

第二障害をこえるとケン はてん倒し、ソリはひっくりかえり、重量物は散



乱する。ケンは

悪性の眼病にか

かっていたのだ

治療代にもこ

と欠くので達三

はケンを添田牧

場に売ってしま

う。失意のケン

はひろみを慕っ

てエサも喰わな

い。

ある雪の夜ケ

ンは厩舎を出て

ひろみの家に逃

げ帰る。添田牧

場主は真理子と

牧夫をつれて追

いかけてきた。

一旦添田の手に渡ったケンをひろみは素直に返す。しかし受取る真理子は邪険



であった。ケンを叱り飛ばして強引に引っぱっていかうとするが、折悪しく積んであった木材が崩れ、真理子はその下じ

きになる。大騒ぎの中で祖父はロープを樹の枝に引っかけてケンに引かせ、真理子を救う。添田牧場主は感激してその謝礼としてケンを返すことにする。

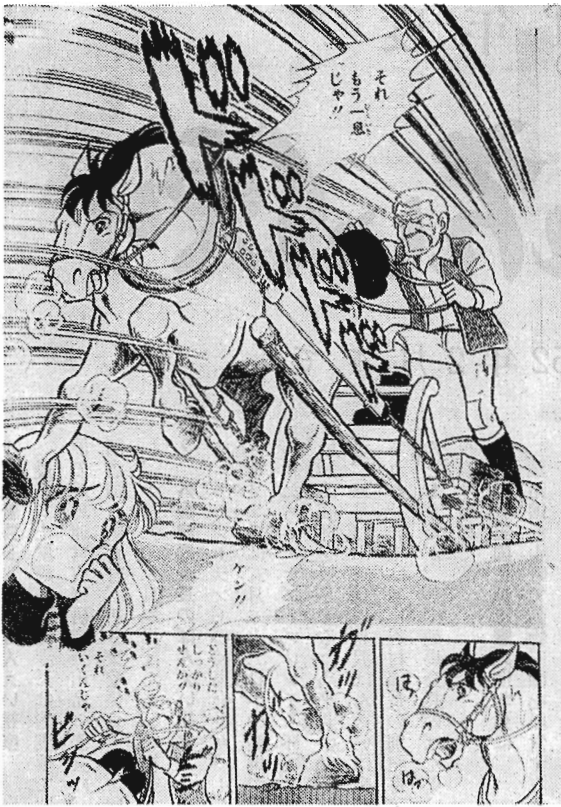
しかし牧場の再興に奮闘する無理が祟って祖父は病床につき、ケンの調教をうわごとのように叫びつつ急性肺炎で息を引取る。達三は負債整理のため牧場を売り払い、遠い土地へ行くことになる。

ケンは添田牧場に預けられ、眼病も全治して、晴れの公認ばんえいに出場する。いつものように競馬場には大かんの渦がまきあがる。ケンも健闘しているに違いない。それはひろみが去っていく日だった。

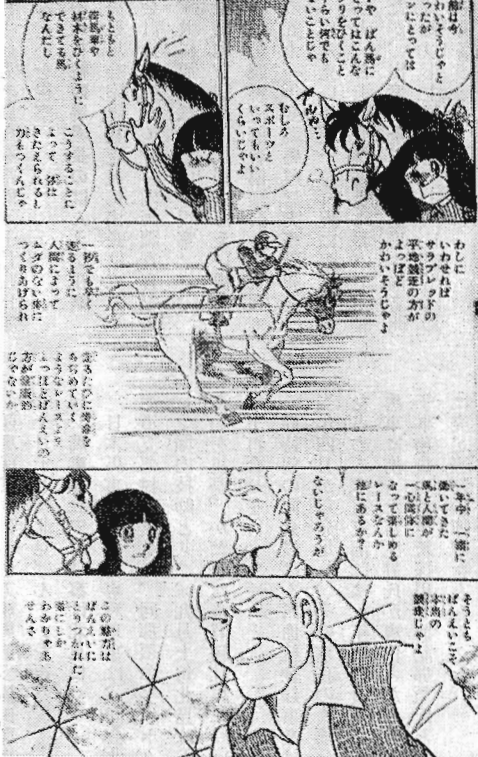
— 附記 —

この「あらまし」では、ばんえい説明部分は省略したが、前記したようにこの作品は随所で、ばんえいの解説をやっている。それは固苦しい説明となり、作品の興味を減殺したり挫折したりしないだろうかと思ってみた。しかし作者はおそらく、自分もそう思ったのだから「ばんえい競馬の珍らしさを説明することによって」読者の興味をつないでいけると判断したものと思われる。

最後に一箇所だけばんえいの説明部分をのせておく。  
さて真理子とひろみは隆夫に好意をよせているが、あまり突込んだ描写はない。あこがれのようなもので終っているところは、いかにも少女漫画らしい。



ケンが私の心に



昭和51年度



# ばんえい便り

51年3月から52年2月まで

- 1 監督課長 旭川ばんえい視察  
農林省土屋競馬監督課長は層雲峡で開催の競馬運営実務研究会出席の機会に、同省河合監督官、新井業務係長を帯同し、十月二十二日旭川ばんえいを視察。
- 2 外国競馬会長のばんえい視察  
ニュージーランドの競馬会長ロバート・シルソン氏は五月二十二日中山競馬で行われたベイ・オブ・ブレンティ杯レースに贈る賞杯を授与するため来邦中だったが、五月二十二日岩見沢ばんえいに来場された。詳細は同市谷村部長の別記寄稿のとおりだが、外国競馬会長のばんえい視察は始めて。
- 3 動物王国主畑正憲氏は北見に  
釧路国浜中町で動物王国を経営するムツゴロウ先生こと畑正憲氏は今や異色の動物作家として有名だが、九月十九日北見ばんえいを視察、その愉快な視察記は氏が連載している毎日グラフ「ムツゴロウの千変万化」13及び14に「ばんえい紀行」として掲載されている(別記)
- 4 競馬監督  
農林省競馬監督官松本、浅井の両氏は十一月六、七日岩見沢ばんえいを監督。
- 5 地全協副会長は北見に  
地方競馬全国協会大山副会長は土方企画室長と共に六月二十日北見ばんえいに来場し、同協会の五十年年度ばんえいリレーデンジジョッキ賞を授与、併せてばんえいを視察した。ちなみに同ジョッキ賞授賞者は山田勇作、氏家昭の両騎手。
- 6 理化研理事長は旭川ばんえいを  
競走馬理化学研究所理事長高橋孝一氏は庶務主任海老原氏を帯同、十月三日旭川ばんえいを視察。
- 7 中央札幌競馬場長のばんえい視察  
中央競馬会室屋札幌競馬場長は五月十六日会計検査院水流、宮内両調査官を案内し、共に旭川ばんえいを視察。
- 8 全国地方競馬の主脳ばんえい視察  
全国公営競馬主催者協議会(全公営)主催の五十一年度競馬運営実務研究会は特に「ばんえい視察」を日程に組んで、十月二十一日上川町層雲峡において開催されたが、出席の全国地方競馬主催者開催委員長以下主脳は翌二十二日旭川ばんえいを視察した。
- 9 千葉県競馬組合議員は帯広に  
千葉県競馬組合議員は同組合福原次長の案内で七月二十二日帯広ばんえいを視察。
- 10 栃木県競馬事務所職員ばんえい見学  
栃木県競馬事務所職員四名は六月六日岩見沢ばんえいを見学。
- 11 騎手教養所教官の視察研究  
栃木県塩原町にある地方競馬騎手教養所の江口教養課長及び蒲教官は十月三、四の二日間、旭川で開催中のばんえい競馬を視察研究、目の色が変わるほどの熱心さに主催者側からも多くの要望やら期待が出された。
- 12 地全協発走専門役のばんえい執務  
地全協は各市一回づつながら、始めて発走専門職員をばんえいに派遣、貴重な改善や進言があった。
- 13 保安協会理事の来場  
競馬保安協会の地方競馬担当福田理事は十月十九日北見ばんえいを視察。
- 14 馬事協会中村理事は北見に  
日本馬事協会中村専務理事は、同会北海道支部村山支部長、同那須参与、ホクレン堀内技師と共に、九月上旬北見ばんえいを視察。かたがた購買種牡馬について下打合せを行った。
- 15 中央番組編成係員がばんえい見学  
尚待望の同会農ばん馬血統登録事業は当年四月から発足し、その事務の大部分を占める本道支部には永年道職員として馬事に携った宮原昇氏が専任となり、女子事務員一名を新採用、前記那須氏と共に発足当初の陣容をととのえた。



レース前のそり計量

## 16 軽種馬協会から

日本軽種馬協会の岩淵颯託はか二人は八月十四日帯広ばんえいを視察、岩淵さんは永い間新冠御科牧場の種馬係長をした人、馬の腹から生れたようなベテランだが、ばんえい見ての感想は「どうも可愛想」、旧知の本会事務局長の説明に「わかる わかる」わかるかな。

## 17 全公営若手職員もやってきた

全公営の夏刈氏ら若手職員三名は九月十一日北見ばんえいを見学。

## 18 地全協女子職員がばんえいを

珍らしいところでは地全協免許課坂井みち子、公正課八巻定子さん達五人の女子職員が、北海道観光の貴重な一日をさいて、七月五日北見ばんえいを見学にきたこと、日頃書面で見えないばんえいを旅行日程の中に組入れたのはさすが。

## 19 老人ホームから集団見物

七月十七日の帯広ばんえいに老人ホームから六〇人がやってきた、付添の職員の話では老人達はテレビ番組で角力が一番好きなのだそう、お角力さんのようなばんえい馬の地響立ての豪快なレースに目を見はり魅了されたという。

## 20 ゲート整備専門員の配置

ばんえい用電動式固定スターテングケットの購入先、日本発馬機KKから職員の派遣を求め、五十一年から常時整備を完全にする体制をととのえた。

## 21 川村公正委員の引退

ばんえいは昭和二十四年道営で行われたのが公営の初まり、昭和二十八年市営

が発足し、昭和四十年各市の競馬場新設経費捻出のため、道営分の日数は全部市側に譲渡された、皮肉なことにとし各地に紛争が惹起し、各市は地全協に対

し開催執務専門職の派遣を強く要望。併せてばんえいの経営指導を請うた。そのとき派遣されたのが田中一郎氏と川村寛氏で、お二人とも丁度定年で現職



ばんえい種牡馬購買の日本馬事協会左から中村、那須、成田の各氏。馬はタカナミ号。

から離れたときであったのは全くの好都合、青年をも凌ぐ達者達人、共に競馬と馬にかけては大ベテランである。それから十年、ばんえいは躍進をつづけている、誠に一時代の功労者といえよう、田中氏は既に七年前辞められたが、今回川村氏も引退することになった。氏が本会に寄せられた退任挨拶の電文には

「幾多の感慨を抱いて 老兵は消えていきます 関係各位によろしく  
ばんえい万歳！」とあった。

## 22 ばんえい馬はばんえい競走馬から

全国重種種牡馬のほとんどを所有している日本馬事協会では、軽種馬は軽種競走馬から生産する例と同じように、ばんえい競走馬も、優秀なばんえい競走馬から生産すべきだと、先づその第一年目に荒井厩舎のタカナミ号を買った。初年度は予算と年令の関係でそんなところに落ちついたが、タカナミの仔が出てくる昭和五十五年がたのしみ。

## 23 タカラコマは豊頌の種牡馬に

定年引退のばんえい優秀馬が、種牡馬として活躍している、農林大臣賞二勝のトキミノルは馬名豊田号となつて釧路で、勝鞍はさほどでもなかったが、クラス最高のオープン馬だったパンツッパメは、優れた馬格で有名だったが道南で、共に種牡馬として働いている。

タカラコマは四十九年七才で取得賞金七〇六万。ランク第三位の優駿だったが翌五十年蹄葉炎で休み遂に再起不能、五十一年春種牡馬として十勝豊頌に落付い

た。

24 ばんえい売上連年首位を争う

本誌第五号の本欄30に「売上上昇率全国第一位の帯広」とあり、一日平均売上高上昇率前年比一八・八％と記録している。翌年の本誌第六号の本欄24には「売上上昇率一三％は全国一」とし二年にわたりばんえいの躍進を報じた。

これはばんえいも全国的競馬ブームに乗ったと見られたのだが、競馬ブームは昭和五十年あたりから下火となり、ところによっては低落の様相を示している。

五十二年一月二十五日付日本馬事通信第二〇一号によれば、全国三ヶ所の競馬場のうち前年比二〇％以上の競馬場は、帯広二〇％、北見二二％、岩見沢二二％九のばんえいと、平地競馬では岩見沢二三％の四場だけとなっている。

同誌によれば「全国的伸び率の最悪状態のなかにあつて、いぜん北海道のばんえい競馬は強勢で、旭川の場合のように平地では一・六％減、ばんえいでは五・三％増という明暗の現象のほか北見、岩見沢、帯広などそれぞれ二〇％台の高率の伸びをみせているのが、強烈な印象を与えた年といえる」とある。

25 旭川売上は最高レコード

旭川は五十一年の先陣を承つて四月二十九日から開幕したが、一回目は十億九千万円、二回目九億八千万円と落ち込み、二回通算一日平均約一億七千万円で、予想にくらべいささか伸び悩み気味、これは競馬場が遠距離となり交通渋滞と、冷

害予想によるものとヤヤ悲観説も流れたが、市の懸命なPRもあつてか秋には盛り返し第五回十四億九千万円、農林大臣賞は一レースで八千三百万円を売上げ、この日一日の売上げ四億八千七百万円といづれも本道ばんえい全体の新記録を樹立、年間六十億の予定を八千万円上回つた。

26 ばんえい初の帯広連続四開催

帯広は七月十七日から八月三十日に至る四十五日間、ばんえい発足以来始めての連続四回二十四日間を開催した、各主催者注目の中で前年比二〇・二％増の十四億六千万円の成績をあげた。

27 北見また新記録

北見の売上上昇率をみると四十八年前年比六五・二％、四十九年三五・九％五十年一二・九％と年々上昇してきたが五十一年も更に二二・七％の上昇をみた(何れも一日平均)特に最終第四回は十三億四千六百万円で、北へんの中都市北見としては刮目すべきもの。

28 岩見沢は軌道に乗る

岩見沢は同じ平地競馬をやる札幌中央と道営岩見沢を併催させないよう配慮して、開催日割の譲歩をするため、毎年不利な日程になる。

そのため他の三市がいづれも上昇を続けているのに、ここだけは五十年二％減と落ちこんだ、ばんえいといえども札幌中央との併催は大影響を受ける、五十一年はこれをさけたので、十一月降雪時期の開催という不利はあつたが、順調に延

びて二二・九％増を示した。

29 冬將軍の到来

五十二年最終の第四回岩見沢は、しばしば降雪に見舞われ十一月三日のテレビ

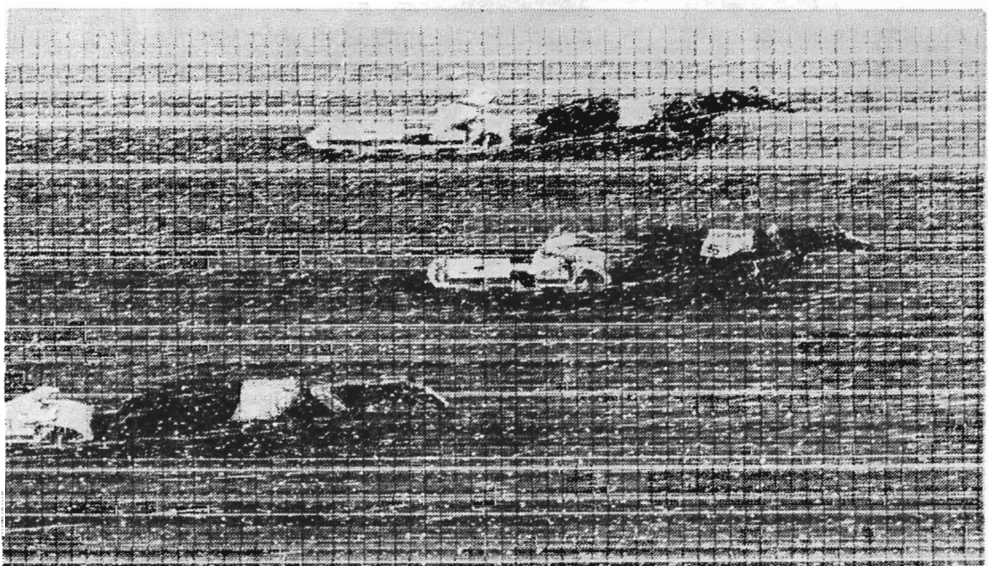
は早くも冬將軍の到来を報じた、第四日目十一月十三日は終日降りつづき、VTRにもゴール判定写真にも雪模様が見え、鮮やかに写り、ごらんの通り。

30 北見で五万九千円の大穴

五十一年の大穴は六月二十六日第一回北見の第四日目第2レース三才十頭立で、一着コマテンリュウ(千葉)二着サツキホマレ(三浦忠)となり連勝式五九、三一〇円となつた、なお北見では二十六年七月十三日七三、〇〇〇円という大穴が出ている。

31 岩見沢は投票なしの馬

五月二十九日第一回岩見沢第四日目第三レース八頭立で、無人気の一番ホエーレイ(久保)が三着に入ったが、複勝式で投票なしも珍らしい、単勝式は七票だったが、連勝式となると一番が九三二票も売れてのだから馬券は奇妙。



着順判定写真に雪模様

32 ご婦人はばんえいがお好き

ばんえいのファンは年々増加しているが、御婦人のファンも案外多い、時にはスタンドからあがる大かん声も、女性の金切り声援がリードする。

これは馬産地十勝の伝統を誇る帯広ばんえいの下見所スナップだが、御夫婦で幼児を連れて……大きな袋の中にはおそろく、お弁当、水筒、おヤンなどが入っているであろう。

おなかの大きい御婦人と同行すれば、馬券がよく当たるといふジンクスがあるそうだが、このような風景はチョイチョイお目にかかる、さぞばんえい重ばん馬のようなくましい赤ちゃんが生れることと思ひ、ほほ笑ましくも御多幸をお祈りする次第。



33 旭川ばんえいは今年新競馬場で

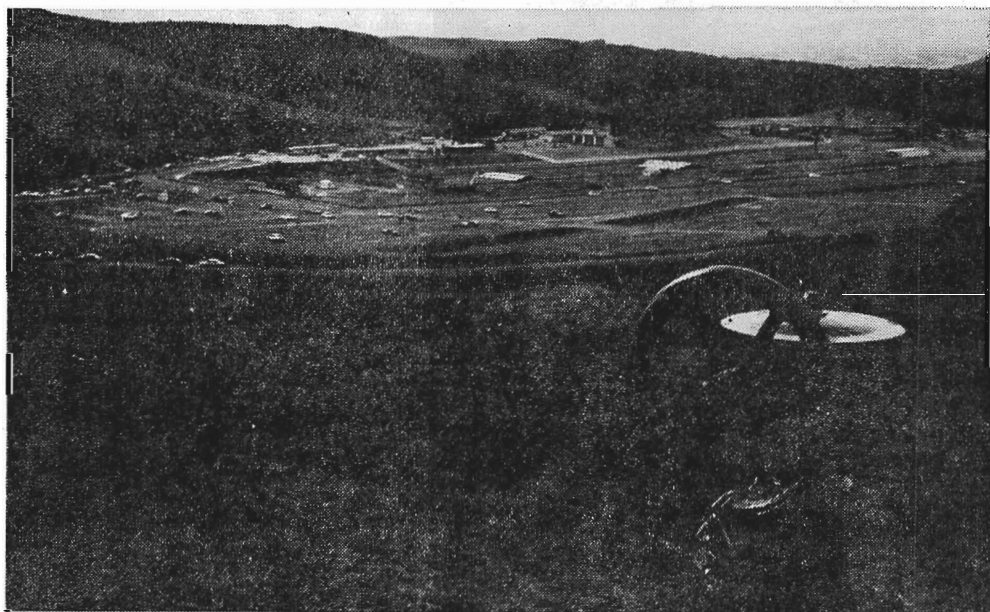
旭川市宇上雨粉の新競馬場は市中央から約十三キロの丘陵にあつて、遠く十勝、大雪の連峰を眺望するといふ風光明媚なところ、前年九月に完成して、いち早く道営競馬が開催されたが、ばんえいは五十一年から使用・

ばんえい競馬場としては最も大きく、所有者は上川生産連。

34 北見競馬場給水設備拡張

北見競馬場は干天がつづくくと水が不足

し、厩舎への給水にもこと欠き、街からタンク車で運ぶという状況だったが、このほど従来の約三倍にあたる二二〇トン



貯水池から見た北見競馬場

の貯水が可能な拡張工事を完了した。

35 岩見沢スタンドの増築

岩見沢競馬場はスタンドを東方に五十三米延長する増築工事を完了した。新装の競馬場は八月十三日から始まった道営競馬でお目見得したが、ことしの道営岩見沢は全国の低迷現象を吹き飛ばし、上昇率では地方競馬随一の二三%増の記録を作った、特に第三回最終日は六億に五万四千六百円不足の大記録。

36 本誌「馬の博物館」に

我國洋式競馬発祥の地といわれる横浜市根岸の競馬場はその昔、外人が競馬を始めた由緒ある競馬場であり、中央競馬会の前身である日本競馬会が戦前まで競馬をやっていたところである。

終戦後米軍に接収されて軍用に使われていたが、現在はその大半が横浜市の所有になっているという。

この由緒ある根岸競馬を記念して、このたび中央競馬会の肝入りで、ここに馬の博物館「根岸競馬記念公苑」ができ、五十二年夏開館の予定である、運営は財団法人馬事文化財団があたり、昨年からは展示品の蒐集を始めている、初代理事長はかつての中央競馬会理事長石坂弘氏で、本会は同財団の懇請により本誌を創刊号から五十一年刊第六号まで寄贈した、会館は約七百坪のしょうしやな三階建の由。

37 地全協主催騎手講習会

四月二十六、七両日旭川競馬場において開催された、講師は同会若月調査役及

野口専門役、受講生約百名。

### 38 騎手試験

五十一年度ばんえい騎手試験は、九月七日学科を北見で、人物、身体、技術を九月二十七日から同三十日まで四日間旭川競馬場で実施した。受験者は調教二五名、調騎兼業四一名、騎乗五九名計一二五名。

### 39 地全協主催実務研究会

五十一年度の地全協主催開催実務研究会は、岩見沢競馬場で十一月四、五の両日行われた、出席者は道競馬事務所加藤次長、主催市及び本会から二三名、地全協からは若月調査役、新井、吉田、川村、野口、浅井各専門役及び光石駐在員、石井経理課員の八名、計三二名。

### 40 本会主催実務研究会

秋の地全協主催、春の本会主催の実務研究会は年中行司となった観があるが、五十一年度の本会主催は五十二年二月三、四の両日札幌市で開催、地全協からは藤原調査役、伊藤免許課長、渋谷専門役光石駐在員道事務所鈴木競技課長、河村技師、主催市一五名、本会から一四名計三四名が出席して札幌市八重州ホテルで開催。

### 41 全国の皆様

ようこそ ばんえいに  
昭和二十四年公営ばんえい競馬が発足してから二十八年目、農村娯楽として行われてきたばん馬競走が、公営の脚光を浴びて、晴れの競馬法による競馬として登場したのは昭和二十四年であった。

公式の競馬としては全く異色のばんえいは爾来改善に次ぐ改善を加えて、現在の躍進時代を迎えた。

全公営では恒例の委員長クラス実務研究会の日程にばんえい視察を組入れて、十月二十一日上川町層雲峡で開催したことは既に前記した。

それより先、ばんえい主催四市は九月十六日北見市において部課長会議があったのを機会に、その歓迎方法について協議した。

主催の全公営はそのような接待は今後のためこまると強く固辞されたが、こん

な機会はばんえい始めてのこと、地元旭川市と本会が中心になって心ばかりのもてなしはやらねばならんことになった。

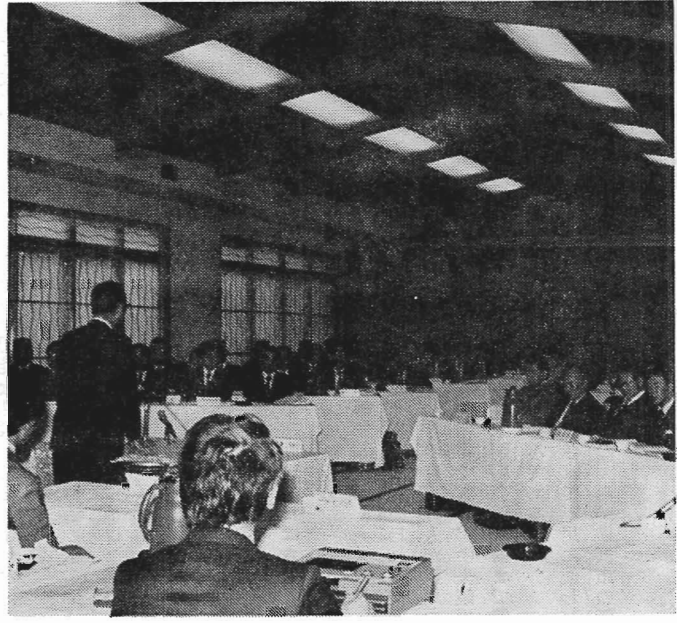
層雲峡の会議は午後五時終了、懇親会は六時すぎから始まったが、乾杯が終ると同時位にもう、主催市及び旭川市提供の余興が始まり上川町郷土芸能保存会連中が出演、道ゆかりの民謡歌謡が続き、時には各市選抜の職員芸能も飛び出す中、こまかむりの銘酒「男山」の鏡が抜かれ宴はいよいよ高潮する、バター付ふかし馬鈴薯は農林一号、とうきびが出る、やがて若い衆五人の勇壮な上川火ま

つり大鼓が会場に鳴り響き、保存会得意のばんえい音頭も披露された。

本道特産のお土産や、多くの観光案内、絵葉書なども用意され、北海道の風光とばんえいの思い出をいつまでもという趣向、本会からは参与の描いたばんえい色紙を贈呈した。

その夜は猛吹雪となって、吹きすさぶ強風は物凄く、さすが北海道よと遠来のお客を驚かせたり喜ばせたりしたが、翌日は次第に晴れ上ってばんえい視察は無事に終わった。

### 42 岩見沢にトータリゼータ



馬券発売にトータリゼーターの採用は永年の県案であったが、愈々五十二年から岩見沢において実施することになり、三月中に装備を完了する、同市及び本会の係職員は二月下旬及び三月中旬に札幌競馬場で研修会をひらき、その使用方法について習練を行った。

#### 43 ばんえい馬主日本のサラつくる

中央競馬会五十一年度三才馬のヘッドホースはマルゼンスキーと決まった、この生みの親、育ての主はかつてのばんえい馬主、早来で大牧場を経営する橋本善吉氏、氏については本誌第5号で輸入ベルジャン種サーラーフィー号と共に紹介したことがあるが、このマルゼンスキーの父はダービーの勝馬ニジンスキー、母はシイルで、その父、バックパサーは二十五勝、取得賞金全米一のチャンピオンという名血。特に氏がシンジゲートを組んで持込み、名馬生産育成の理論と實際を究明された所産だという、今後の活躍が期待される。

#### 44 馬主会調騎会の活動

五十一年度のばんえい馬主会調騎会の

#### ◇各部門優秀馬◇

《年度代表馬》  
トウショウボーイ  
《最優秀三歳牡馬》  
マルゼンスキー  
《最優秀三歳牝馬》  
フジビゼン・セーヌポート  
《最優秀四歳牡馬》  
トウショウボーイ  
《最優秀四歳牝馬》  
テイタニヤ  
《最優秀古馬牡馬》  
アイフル  
《最優秀古馬牝馬》  
なし  
《最優秀障害馬》  
サクラオンリー  
《最優秀アラブ》  
トクノハルオー

主な活動は次のとおり。

#### ◎馬主会

##### (1) 共済事業

ア 会員弔慰金	二件
イ 騎手見舞金	三〃
ウ 厩務員見舞金	五〃
エ 馬弔慰金(含伝食一)	一八〃
オ 馬傷病見舞金	二一〃
計	四九〃

##### (2) 無事故奨励

2年間三二回以上出場し無事故の馬  
に対し革製頭絡を贈与

##### (3) 競技奨励

各主催者に一箇宛本会会長賞を贈呈

##### (4) 支部運営費助成

##### (5) 臨時家畜市場開設

給付総額一三、三〇四、四四〇円  
内会員負担(九、一八二、四〇〇円)

##### (6) 競走馬資源対策

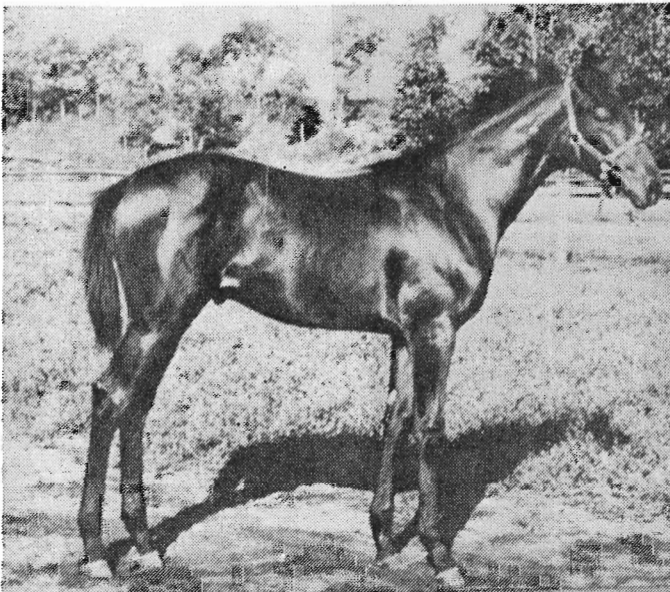
三才馬取得賞金ランク五〇位まで一頭に付一万円

#### ◎調騎会

##### (1) 共済事業

## 3歳最優秀牡馬 マルゼンスキー

一億三千五百万のシンジゲートを組んだ名馬マルゼンスキーは四十九年五月十九日橋本牧場で誕生した。



北見における新人騎乗実習





傷病見舞金 二件

(2) 地方競馬共済会加入奨励

現在加入者 騎手 八〇名  
既務員 六五〃

(3) 支部運営費助成

(4) 騎手教育

新人技術講習会を旭川、帯広、北見で実施した。その他地全協及び市協主催の騎手講習会開催に協力した。

(5) 公正対策

ア 厩舎巡回当番の実施

四月十二日から十一月十五日まで、毎日二―三名宛交替服務

イ ポスターの貼付

競走公正化啓蒙ポスターを作成、競馬場、厩舎区域、厩舎に貼付

(6) レクレーション事業

(1) ソフトボール大会

六月十日 岩見沢競馬場

出場 8チーム

優勝 厩舎A 二位 市協

三位 厩舎B

(2) 帯広馬頭観音祭奉納角力大会

八月一日 帯広競馬場

四支部及び東北の五チーム対抗

団体優勝 東北チーム

個人対抗

大関 広富幸雄 関脇 林正男

小結 木村卓二

(3) ばんえい盆踊大会

八月十一日夜 帯広競馬場

仮装及び舞踊技術

第一位 藤川 晴雄

第二位 森 稔

第三位 久保三枝子

45 騎手教養所長来会

地全協騎手教養所小熊所長は江口教養課長、田内教育課員と共に、本年入所生考査のため来札、本会にも立ち寄りられた。教養所からのばんえい視察派遣は昨年が始めて、主催側からの要望がいろいろあったが、或はそのうち馭法の研究が実現しそう。

#### 46 タカナミに優秀賞

本欄22で紹介したタカナミ号は現在釧路で種牡馬として供用されているが、釧路農協連が行った昭和五十一年度種牡馬管理共助会において優秀賞に選ばれた。

なおタカナミは勝陽の血統馬名にもどり、釧路市北斗の道下知敏氏に管理されている。

#### 47 岩城氏の表彰

ばんえいの馬主岩城清次郎氏が、馬産功労者として、このほど日本馬事協会から表彰された。

岩城氏は道営競馬の古い馬主で、息子さんもみな馬好き、一人は騎手だったこともある。

今はばんえい一本槍。厩舎で馬と生活を共にしている。

或るファンが言っていた、「あのブチ馬、おすだというのにおとなしいもんだね、朝装あん所へきて女の子を乗せて、夕方仕事が終わるとイソイソと厩舎へ帰っていく、人間のいう事よくきいて、馬って従順なものだね」このブチ馬は誘導馬として岩城さんが提供しているもの。

岩城さんは富山県から移住してきた両

親について北海道へやってきた、五才のときである。

一家が馬を愛し、昭和七年以来種牡馬を所有管理し、育成馬は八〇余頭に及んでいる、東旭川の町議や、育成組合長などもやり、馬を語ることを誇りとしている、正に馬の人である。

#### 48 青い眼の日

西洋人の眼は青いが、馬はそうでもない、不振のアメリカ馬が三頭揃って勝ち上った日に、こんなふう言ってみたくなったのである。

四十九年から出場した注目のアメリカ系は、群を抜いて頭角を現すものもなく評判はいささか低調。

ところが九月十七日第四回第四日目に四頭出たうちの三頭が、いずれも5番のゼッケンつけて一着となった。

第一レース3才でヒボタンリュウ定嫁は九頭立てで、スタートから先頭に立ち、2B(第2障害)は二位だったが、先頭でこえ、そのまま逃げ切った、父はクライズテール種コレッシーエントプライズ号。

第二レース3才ではマルモリュウ山田が、これもスタートから頭となり、2Bには二位到着、これも真先きにこえそのまま勝つ、父はベルジャン種キャプテン号  
第四レース4・5才ではマルモチカラ山田、スタート後四位につけ2Bは先頭に到着、これを最初にこえそのままゴー

ライン、父は同じくキャプテン号。

#### 49 地全協CM撮影隊

地全協の委嘱を受けて、地方競馬PR放映用フィルム撮影隊は秋の旭川ばんえいに来場、施設、レース、厩舎、執務状況などを撮影した。主眼は公正競馬の実施状況と各競馬場の紹介で、撮影隊は各地の競馬場に出向き、その特色などもフィルムに収めた。



女性の時間に「ばんえい」

## 残酷じゃ御座いませんの

H B C テレビ パック 2



HBC午後二時のレギュラー番組「パック2」は、昭和四八年道北振興KKのスポンサーで始まった「ばんえいハイライト」の、一口メモを担当している本会U参与の漫画を中心に「ばんえいを語る」、という異色の企画で、七月十五日題名「はしればん馬」を全道向け放送した。

これはいつも小林、近藤両美人アナウンサーが司会するもので、本道婦人間でも人気のある一時間番組だが、この日はそのうち三〇分を「ばんえい」にあてた、サテそのあらましは次のとおりだが、質問の中にはばんえいの核心にふれる点もあるので特に掲載する。

——ファンファーレが鳴りわたり、ばんえいレースが画面一杯に展開する、漫画を描いているU

小（小林）「Uさんは今、画に筆を入れていらっしやるんですけれど——随分たくさんありますねえ」

（昭和四十八年以来四年間に描いたばんえいハイライト解説漫画約四〇〇枚がテーブルの上につまれている）

近（近藤）「今迄おかきになった画なんです、随分たくさんありますねえ、一度見たいと思っていました」

小「競馬であちこちお出かけになって、こんなにおかきになるお暇という、なかなか大変でしょうね」

U「エエ、マア中休みか夜ですね」

小「ところで、北海道のばんえい競走というんですか、私達まだ見たことないし、テレビか映画でみる位であまり親しみがないんですけれど、一般には根強い人気があるんだそうですね」

U「そうですね、もう二八年位になるんですが、人気の第一番は先ず馬が素晴らしいことでしょうね。

サラブレットはスピードの象徴ですが、こちらは力の象徴なんです。体型を見ると「ナルホド」と思いますよ」

小「目方はどの位」

U「サラブレットの倍位あります、平均九百キロ、重いのは一トン以上、これはばんえい三十年の歴史が造った大型馬です。欧米にも大きな馬はいるようですが、五百頭も集るといふことはないです

ね、これは世界一です」

小「日本の馬ではないのですね」

U「そうですね、みな外国系です」

小「人馬一体という言葉がありますね、馬と人がひとつになつて動くということ、ばん馬競走にもそれがありませんか」

U「そうですね、駄目なんです、そうでなければ馬は動かないんです、馬と人の気持がビタリと合っていないければね、人馬一体とは昔の人が乗馬して考えたことだと思いますが……人の心が手や足や体重の動きになつて馬に伝わるのです、ところがばんえいは三米位の後方から長い手綱一本でそれをやるのですだからばんえいでは大きなかけ声や、身体をよく動かして騎手の意志を馬に伝えます。乗馬よりむづかしいと思いますね、馬の眼は全部見えるんですよ」

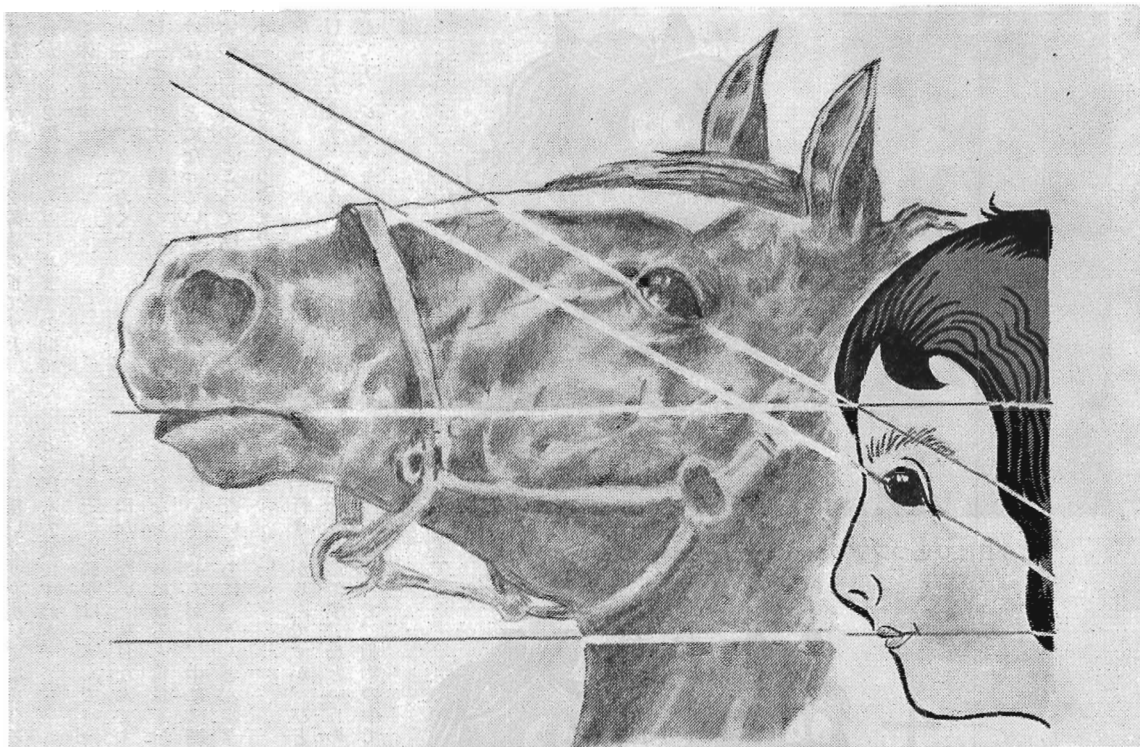
近「アラうしろの方もですか」

U「そうですね、眼玉が顔の横についてるでしょう、そのため三六〇度みんな見えるんです、その上長い頸が、それを助けて苦もなく後方が見えるんです、人間の眼は目玉を左右に動かすと一八〇度見えるだけです」

小近「オホホ、そうですね、うしろの方見えませんか」

U「それに馬の耳はクルリとうしろへ回転するでしょう、動物の聴覚は大したものなんですよ」

小「マアほんとうに、人間の耳は動きませんか」



可愛いのはたれ目のせいだと思います



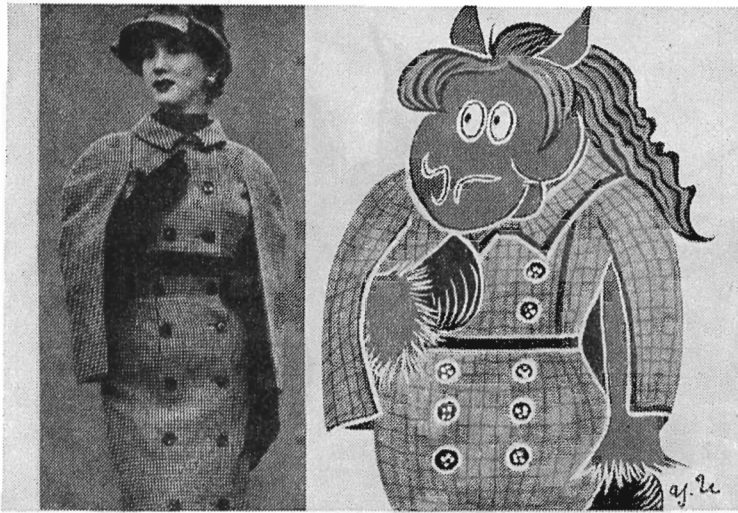
怒ると吊り上がり 笑うと下がるでしょう

近「障害がありますね、山が」  
 U「あの前で一

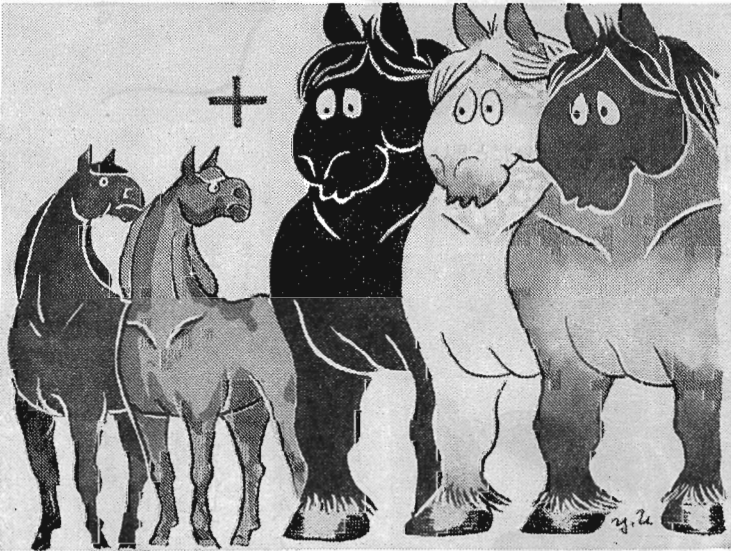
材木を運ぶ、これを玉引きといいますが、始めは人間が引く方法を教へるのです、馴れた馬はひとりです。進んでは進み、坂では上手にバチ（材木をのせてるそりのようなもの）をあやつり、急坂では材木に身を託して滑り、カーブをうまく切って駆け下りるのです、とまる進む、これは馬がひとりできめる場合が多いですね」

U「とても想像のつかないのは嗅覚です、馬は人間の六百倍、犬は三千倍から一万倍といえますね」  
 近「マア、そうですか」  
 U「馬は二キロ先の水のおいまでわかるといえますね、尤もこれは野性馬の事で舎飼の馬はだいぶ退化してると思いますが、二キロも離れていてスキヤキのにおいが判るワケですが、人間は玄関入らないと判らない」  
 小近「マア、オホホ」

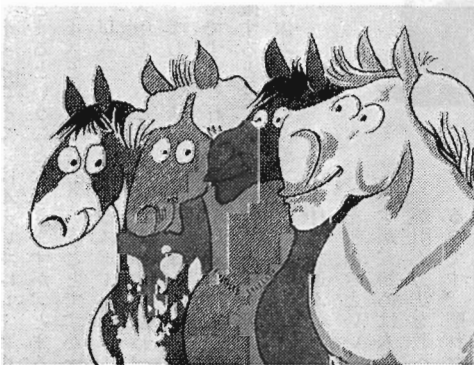
U「それが騎手の動きや、後方の気配がよく判ることになるんです」  
 小「ところで、ばんえいではレース中とまるということをききますが、とまるレースというのはどういうことですか」  
 U「そうですね、走るスポーツにレース中とまるということはありませんね、ばんえいは重い物を引くレースなんです、これは平素非常に重い荷物を運搬するとき、とまっては休み、進んでは休みしていくのですね、山から大きな



今日はひとつファッションショーをいたしましょう



平地は鹿毛と栗毛、ばんえいはそのほか、青、芦、粕と色とりどり



どお イカスでしょ  
いずれがあやめか かきつばた

す。  
馬に働き場所をつくってやらなければ  
みんななくなってしまうんですよ」  
小「生存の意義がないということですか」  
U「要するに、機械化に抑されて」  
小「アア、そうですね」  
U「機械化におされて馬はいらなくなってしまうんですよ、それなら馬はホントにいらぬのかといえは、そうではないんです、馬の仕事はまだあります。それに機械化になると肥料はできないでしょう、牛や馬ならいいやしができますね」  
小「アア、自然の肥料ですね」  
U「そうですね、化学肥料でしょう、これでは土が硬くなって、長い間に

且休むんですが、第2障害の前ですね、それから第2障害からゴールまでの間でよく休みます」  
小「とめるワケでなく」  
U「そうです、騎手の意志でとめてはいけないことになっているのです、第2障害の前以外のところではね」  
小「アアそういうきまりがあるんですか」  
U「そうです、そういう約束がしてあるんです、ジョッキー連中とね」

小「重いソリを引いて坂を登るときなど、馬も大変ですねえ」  
U「そこを騎手は一べんでパッとこえるようにならないと駄目なんです、しかし大きなレースになると重量も重いのです、そうはいきませんがね、中には騎手が合図もしないうちに、どんどん歩き出す馬もいます……」  
近「行きたがるんですか、ひとりです」  
U「そうですね、馬というのは非常に運動性が強くて、動物の中でも一番

でないでしょうか、そういう負けん気の前へ前へと行く気概が一番でしょうね」  
小「そんなところがギャンブルに向くのでしょうか、素直な馬をギャンブルの対象にするのは……」  
U「動物がこの世の中に生存する、愛玩とか天然記念物とかいうのもありますが、人間と一緒に生活している動物、つまり家畜は働かなければ生存の意義がありませんね、人間も同じです。それでなかったらいなくともいいことになりま

はやせていくんです」

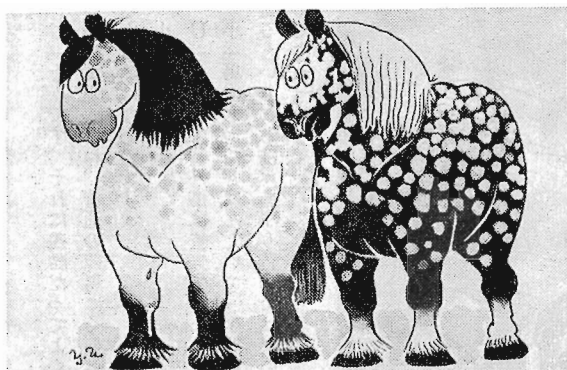
小「肥料できるほど馬はいますか」

U「それはそうですね、馬ばかりでなく、牛でも豚でも鶏でも、稲藁でも落葉でもいいのです。」

機械化のいきおいが減ることはないでしょう。我我もそうですが、若い人は臭いにおいをイヤがりますからね、機械化は省力化になるし、第一イカしますからね、実際には馬が不足なんですよ、馬肉の話するのイヤですが、年年十二万頭分位入ってくるんです」

小「輸入ですか」

U「そうです、日本には今三万頭位し



チヨット おかしな顔

芦毛もいろいろ

かないんです、サラブレッドアラブは

一万五千頭位、必要なところにはまだ馬がいるんですけどね、特に六度以上の傾斜地では機械がうまく使えないといいますが、馬はどんなところでもいいですね。

馬には交通事故がありませんよね、馬車の上で眠っていても、暗い夜道でもひとつも間違わず家まで帰ってくれます」

近「随分、便利なこと、ほんとうに」

U「馬をなくさないようにしていくことは大事なことです」

小「馬は大切な、私達の仲間みたいなところありますね」

U「牛は経済動物で日銭が入ります



マア 綺麗 素晴らしいわ

ね。馬の労働は賃

銀に換算しないと判りにくいですが」

小「北海道の開拓の頃は随分馬の力に助けられたのですね」

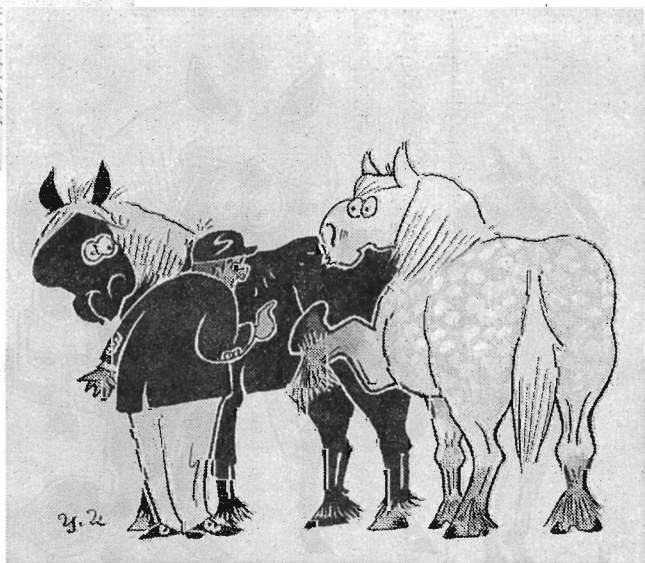
U「そうです、馬がいなければできなかつたでしょう」

小「だからこそ今日があると思う



そんなにいわれると

踊りたくなっちゃう

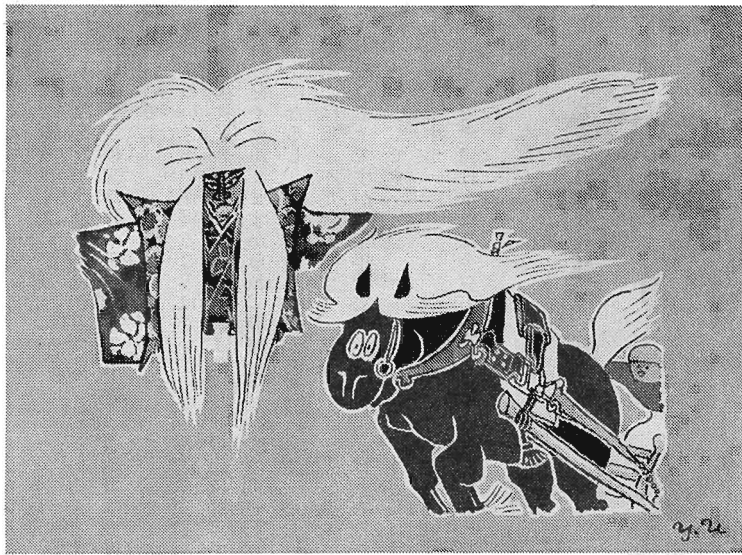


これが芦毛？ インチキよ。よく見て下さい 白い毛があるでしょう

んです、そうした大恩のある馬をですね、重い物を引かせて走らせるのは、ナニカとても可愛想に思いますけど」

近「エエ、ほんとうに」

U「先程申し上げたように人間も馬も働かなければ、いけないモノなんです、不具者や病人は別としてですね、それに馬というものはトテモ怖いモノなんです。元来なにか奨励事業とか、補助金とか力強いささえがないと倒れてしまうんです。今、ばんえいというのは一番高く馬が売れる、売り場所なんです、だから農家は売っては良い馬をつくる、ばんえいはそうした経済循環の大きな役割を



尾花とち栗毛がやってくる 凄いな 鏡獅子みたい

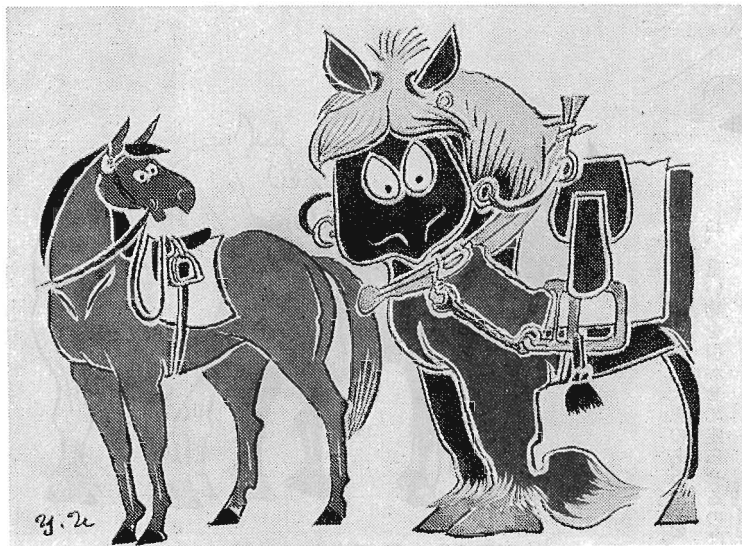
小近「マア……」  
 U「あの方素人なのに、馬の心のことよく判ってる」

しているワケなんです」  
 近「人間の楽しみだけではないのですね」  
 U「そうです、それに残酷だってよくいわれますけどね、普通の競馬にくらべると故障はないのですよ」  
 小「怪俄ですか」  
 U「そうです、外傷は皆無です」  
 小「馬にとって、ばんえいで一生懸命走るといふことは、あまり苦痛ではないんですね」

U「造材とか客土とか大きな力を必要とする仕事にくらべるとズーッとラクなんです、僅か二百米を二・三分の労働ですからね、馬っておかしいんですよ、イヤになるととまってしまい、どこか勝手なところあるんじゃないですか、いくら追ってもケロッとしてとまってね、寝てしまったりすることあるんですよ」  
 近「アラ、そうですか」  
 U「コリヤア、いっちゃったかなと思ってる」とムクッリ起きてね、獣医さんに診て貰うとなんともないっていうんですよ、年に二・三回のことですがね」  
 小「ケロッとしてるんですかオホホ」  
 U「どうもねえ、こんなの見ると仲の良い人間に甘えているところあるんぢやないかと思えます、ほんとに可愛いくるありますね、佐藤愛子さんがそんなこと書いてましたね、ズルイ馬は寝ころんでしまうなんてね、ハハハ」

小「愛のムチです」  
 U「だから調教の時愛のなんとか」

小「ばんえいは、始め農家の楽しみとして始まったといわれますね」  
 近「ついこの間七月五日に新十津川であります楽しい農村のばん馬競走をフィルムでござらん頂きましょう」  
 (農閑期を迎えた新十津川の緑なす水田地帯が画面に出る、明日はばん馬競走に出るといふ志賀佳男さんは、もとばんえいの馬主「明日は絶対に勝つ」といふ、サテその日は家族揃って声援を送るが、残念ながら敗ける。背景に「草競馬、走れコウタローの曲が流れる」)  
 小「この方、四頭立の四着、一番うしろで……私の運動会のとときみたい」  
 近「見えていても楽しくなりませんが、ムチを使うところは、可愛そうですね」  
 U「今はムチ使わせないんです、手柄の余りで打つことにしています。痛いというきき目は見た感じ程ないんですよ」  
 小「ホウ、そうなんですか」  
 U「だから調教の時愛のなんとか」



サテ こんどは 拒毛コンクールといきましょう (左はサラブレット)

か」  
 U「それを使ってレースの時は、行くぞ」というところを見せて、条件反射を利用するのです」  
 小「アラ、そうなんですか」  
 近「ばん馬の性質というのとはどうなんですか、顔なんて見るとおとなしそうですが」  
 U「おとなしいですね、例えば人に見せるため立たせておくと、サラブレットアラブは一瞬もジッとしていません」

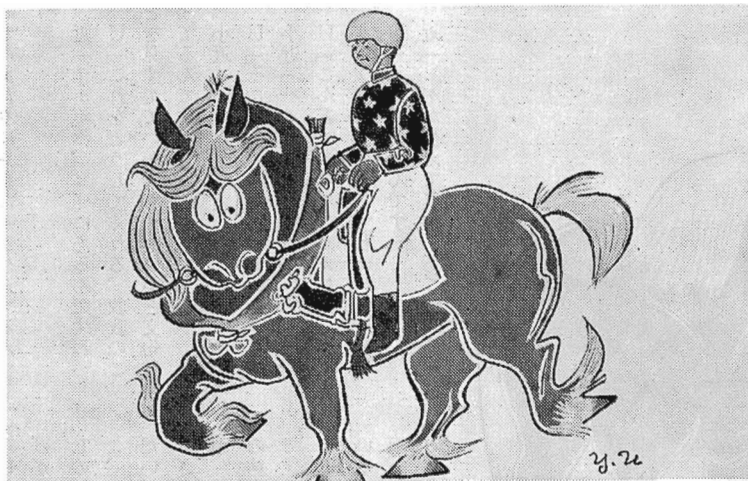
ばん馬はまるで置物のように立ちつくしています

小「馬の顔のことでナニカお書きになったことありますね」

(画を見せながら)

近「ばんえいハイライトの一口メモとしておかきになったものです」

U「これはですね、馬はトメモ可愛い顔してるがどうしてだろうと、よく聞かれるんですが、私はどうもこれは“たれ目”のせいじゃないかと思うんですよ」



歩くとき 拒毛がフワリと空中に浮かびます

ばんえいならでは見られない 見事 見事

近「アラ、そうなんですか」  
U「口の線と眼の角度を見ると、口尻が下がっているでしょう」

近「マア、ホントに……それではここで一口メモの中から面白いのを選んで見せて頂きましょう」

U「それではやってみましょうか。」

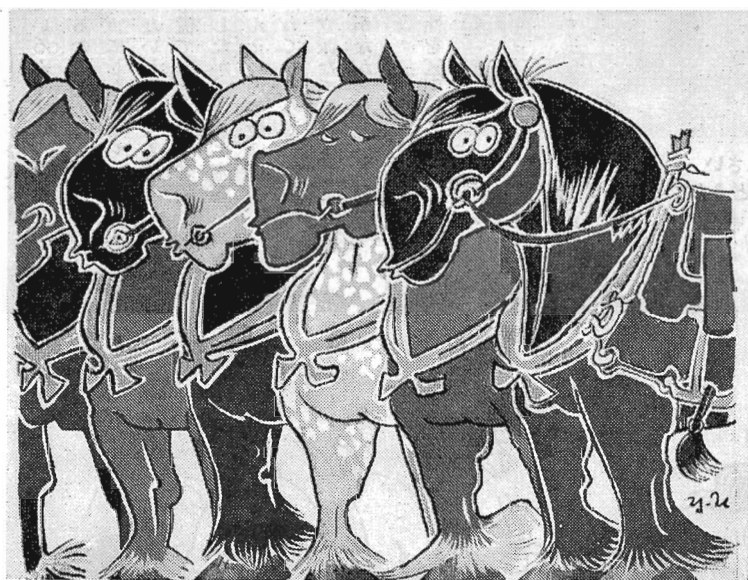
普通の競馬では鹿毛と栗毛が多く、僅か三〜四%の芦毛青毛がおりますね。ところがばんえいでは黒い青毛が一番多いのですが、全体として色とりどりな

んです。そこで今日はひとつ毛色のファッションショーをやるうじやないかというわけです

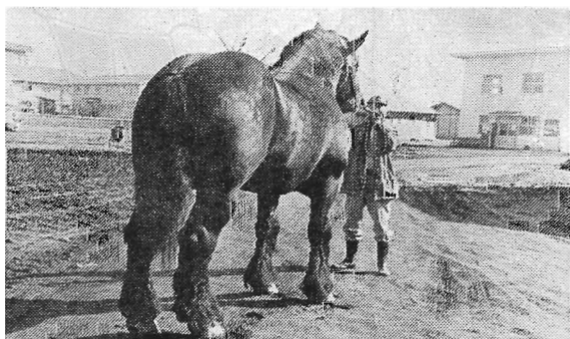
(さし画の順序に説明していく)

U「サテ毛色のショーはこれ位にしてこんどは拒毛のコンクールといきましょう、ばんえいの馬の足元に生えている毛はフサフサしているんですよ、左の方はサラブレッドですね」

小「マア、足元の毛をなびかせ乍ら、くるんですよ」



選ばれた拒毛君たち、いよいよ決勝です



50年度ミスター拒毛にはタカラボタン号が選ばれました

U「そうです、歩くたびにフアッと空中で」

小「ひろがるんですか」

U「そうなんです、これはばんえいでなければ見られないんですよ、この足元に生えている毛を拒毛というんです。皆の中から一〇頭ばかり選んで最後の決戦となりましたが、こっちはタカラボタンが優勝ときまりました」

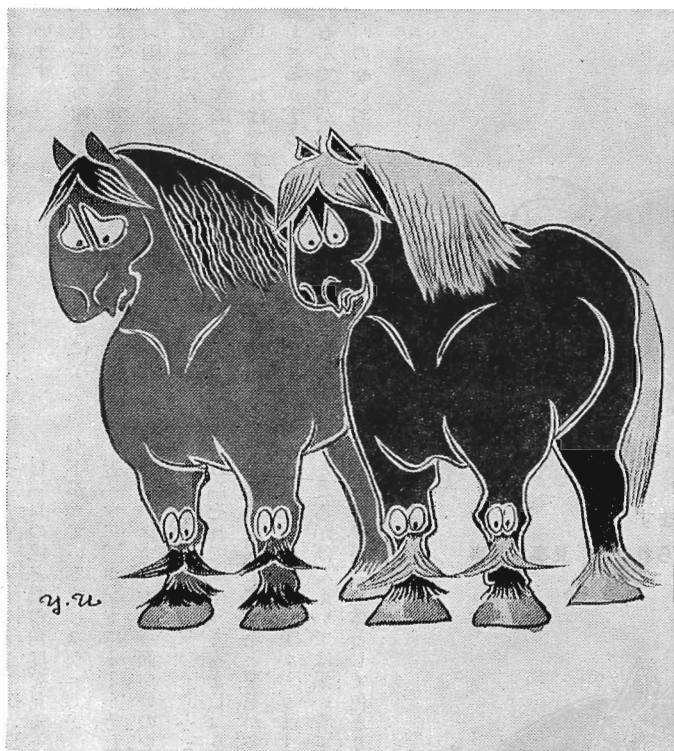
小「こちらの馬ですね」

U「そうです、ところがですね」

小「アラ、これはどうなんです、膝のところ……」

U「そうなんです、クロエルムとトヨカツが不服そうにブウブウ文句を言っている、よく見ますすとこの二頭は前





子ヨ。子ヨット 待っておくんなさい  
このヒザ毛をどうしてくれますかね

ヒザのあたりに見事な毛が生えてるんです」  
 近「オホホホ、ヒザにあるんですね」  
 U「これをどうしてくれる、我我のこ  
 とを見すていかんぢやないかと文句言  
 ってるんですね」  
 小近「オホホホ……」  
 U「そこで審判団も困っていますと」  
 小近「ハイ、」  
 U「こんどはミスヨシタカちゃんが」  
 小「アラ、女の子ですね」  
 U「エエ、女なんです」  
 近「ヒゲが生えますよあごひげが」

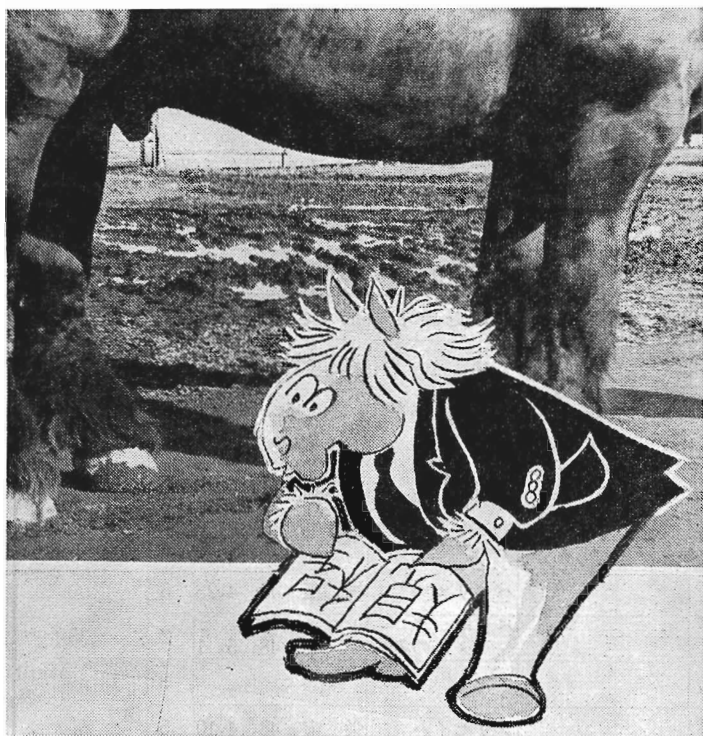
U「そうです、女だというのにあごひ  
 げがモッサリ生えているんですよ、あた  
 しのこのひげを忘れるなんてめくら審判  
 よ、女だと思ってバカにしないでちょ  
 うだい、ただじゃ引かないわヨッてんで、  
 さすがの審判団も慌てふためき、審議  
 中”の掲示を出しましたが、慎重に審議  
 の結果、どだい「ばんえいの勝敗は後端  
 できめる」ことになっていたので、タカ  
 ラボタンの後肢には立派な毛が密生して  
 いるので、優勝は動かなかったという漫  
 画なんです。  
 馬の場合男性と女性を区別して描くこ



子ヨイト こちら向いてよ  
このあごひげが目に入らないの めくら審判ねッ



ヤヤヤヤ 審判委員も協議



ばんえいの勝敗は後端できめることになっちょるぢやないか



審議中 審議中 放送 放送!!

とは、むつかしいんですが漫画のよさは  
 小「スカートをはかして」  
 U「人間にすると簡単にできます」  
 (画の話がひとしきり)  
 U「わたしもばん馬型ですがハハハ」  
 小「オホホ、お目にかかったとき、そう思いました」  
 U「そんなところがばんえいの仕事にむくのですね」



タカラボタン君の優勝は動きませんでした おめでとう乾杯!!  
 (王冠をかぶせるのは前年の覇者 ハチアサヒ君)

小「随分画をおかきになっていらっしやいます」  
 U「そうですね、十年ばかり前にばんえいをやることになったのですが、ばんえいというもの完成までには余程皆さんの理解を得ないと駄目だと思って、私の第二の技術をいかしてみようと思ったんです」  
 小「そうですね、殊に一般の奥さんの理解を考慮して頂きたいと思えますね、馬

は人間が守ってやらなければ消えていくものだという先程のお話、大切なことと思えます」(以下略)  
 附記  
 さし画は五十年十月HBCテレビばんえいハイライト「ロメモ」ばんえいに出る馬の毛色解説」で、三回にわたり放送されたもの、その一部は地全協の「地方競馬誌五十二年五月号に掲載され、このバック2でも選ばれた。

昭和 51 年度

馬産奨励に関する生産者賞種雄馬管理者賞受賞者名簿

(昭和52年3月10日現在確認済のもの)

受賞者名	種雄馬管理者賞				生産者賞			賞金額 万円	賞金 交付方法
	種雄馬名	生産した出走馬名			生産した出走馬名				
		出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日		
北村鉄太郎	パトリシヤ	ダツシユリユ- ブルタイガー	ブルト-ヤ 48. 4.21 榮 48. 6. 5				18	池田農協經由 北信連帯広支所	
	キブロク	ニツトチドリ イトウホーム ハンリコマ アラジン	森 神 48. 4.25 イケダホーム 48. 4.25 神 玉 48. 4.23 キプト レッシー-48. 4. 2						
森 義雄				ニツトチドリ	森 神 48. 4.25		5		
原口 忠義				イトウホーム	イケダホーム 48. 4.25		5		
椿 邦保				ハンリコマ	神 玉 48. 4.23		5		
小原 元春				バンキング (メスのみ)	トレツセ- 48. 5. 1		2		35
高島農協	第3オデオ	クリセイハ					3		高島農協經由 北信連帯広支所
中村 弘				クリセイハ	榮 宝 48. 4.10		5		8
大村 雄三	第3 キャンペロ	アサヒユウシン バンキング マンスター	第三清宝48. 4.15 トレツセ- 48. 5. 1 豊 勇 48. 5. 1				9		利別農協經由 北信連帯広支所
徳安 義雄				ダツシユリユ-	ブルト-ヤ 48. 4.21		5		
中村 米良				ネムロクイン (メス)	クイン姫48. 4.15		7	21	
天野 松信	詠 旭	カインヨウ コダマスビ-ド ホマレカツブ フクイチ	宝 山 48. 4.22 竜 月 48. 4. 2 東 48. 4.11 桜 月 48. 4.27	イダテンキング カツリキ	雄 勝 48. 5. 3 勝 力 48. 4.15		18	木野農協經由	
林 実				カインヨウ	宝 山 48. 4.22		5		
平 潔				コダマスビ-ド (メス)	竜 月 48. 4. 2		7		
平尾 浜一				イダテンキング	雄 勝 48. 5. 3		5	35	
田村 勝	晏 榮	キンカブト キタノエ-ユウ サツキヒメ ミスイサオ	晏 芳 48. 4.22 晏 花 48. 4.26 勝 姫 48. 4.10 第二姫榮48. 4. 3				12	音更農協經由 拓銀帯広支店	
音更 農協	ロツシーニ	ハクミドリ ツガルフジ ベニザクラ	路 岩 48. 5. 3 竜 48. 6. 5 ロツン榮48. 4. 5				9		
川端 正清				ホマレカツブ	東 48. 4.11		5		
細川 新作				ツガルフジ	榮 竜 48. 6. 5		5		
高橋 惣六				サツキヒメ (メスのみ)	勝 姫 48. 4.10		2		
定岡 栄助				ミスイサオ (メスのみ)	第二姫榮48. 4. 3		2	35	
土屋 修三	山 嵐	シヨウハイ	豊 鈴 48. 5.22				3	士幌農協經由 拓銀帯広駅前 支店	
和田 孝吉				キングフウセキ	キング楓石 48. 4.10		5		
永森 俊雄				シヨウハイ (メスのみ)	豊 鈴 48. 5.22		2	10	

受賞者名	種 雄 馬 管 理 者 賞			生 産 者 賞			賞金額 万円	賞 金 交付方法		
	種雄馬名	生産した出走馬名			生産した出走馬名					
		出 走 馬 名	血統馬名	生年月日	出 走 馬 名	血統馬名			生年月日	
野口 正雄	ナオス雄	コマタカラ タケマツ オオダテホクシカ	宝 雄 清 勝 北 進	48. 4. 20 48. 4. 1 48. 4. 23	インノシボル	仙 山	48. 5. 5	12	足寄農協經由 道銀足寄支店	
只野 幸一	ソイツク	タケセンリュウ セイシユン	高 木 新 泉	48. 4. 25 48. 4. 20				6		
滝田 辰雄	命 武	アサヒバンサー カネヒロオー カチドキ	キリン 武 勇 武 登	48. 5. 3 48. 4. 15 48. 4. 6				9		
山田アキラ					ソラチ ホウシユウ	博 勇	48. 4. 28	5		
谷口 三郎					ベニザクラ (メスのみ) タケマツ	ロツシ榮 清 勝	48. 4. 5 48. 4. 1	7		
佐々林一夫					タケセンリュウ	高 木	48. 4. 25	5		
永井 満					タマヒメ (メス)	高 波	48. 4. 13	7		
古川 明吉					オオダテ ホクシカ	北 進	48. 4. 23	5		
帯谷 栄治					コマタカラ	宝 雄	48. 4. 20	5		61
中川 利夫	第28コリガン	ヒダカツバメ ナスノセイハ	藤 勇 吉田の一	48. 4. 10 48. 4. 9				6		浦幌農協經由 拓銀池田支店
藪野 恒夫	ドウイウ ドウイウ	カタロンオー タカラギク	光太郎 連 高	48. 5. 5 48. 4. 21				6		
内山重次郎	端 祥	コテング	美 勇	48. 4. 25				3		
森 孝夫					アオザクラ (メス)	青 姫	48. 4. 18	7		
山久保 繁					ヒダカツバメ	藤 勇	48. 4. 10	5		
樋口 礼一					カタロンオー	光太郎	48. 5. 5	5		
吉田 岩夫					ナスノセイハ	吉田の一	48. 4. 9	5		
佐藤 繁夫					コテング	美 勇	48. 4. 25	5		
北野 功					ハナヒメマル (メスのみ)	花 姫	48. 4. 7	2	44	
半谷 好松	第2オデオソ	ソラチホウシユウ タマヒメ キヤノチカラ	博 勇 高 波 第三賢	48. 4. 28 48. 4. 13 48. 5. 5				9	陸別町農協經由 9	
幕別農協	久 都	リウリキ エベレスト キタミノル ヤマトハヤテ	久 繁 久 駿 キタノオーザ 道 光	48. 4. 28 48. 4. 21 48. 4. 28 48. 4. 24				24	幕別農協經由 拓銀幕別支店	
	ウルバン	トシクイー トキミドリ ナカイデユメ パーヘクト	第三英信 第一時緑 第三ウルバン 影 盤	48. 5. 20 48. 5. 1 48. 3. 25 48. 5. 3						
井上 秀実	豊 田	コクリユウ キンリュウヒメ トキノハヤト ビジョン トキミノルヒメ トキタカラ	イデユメオーザ クイー トキミノル トキノハヤト トキイサミ トキミノルヒメ トキミノル二世	48. 4. 30 48. 4. 22 48. 4. 28 48. 5. 3 48. 3. 20 48. 4. 2				18		
玉置 漣	バンコ	プレツシヤ	福 雄	48. 4. 25				3		
助川 秋好					リュリキ	久 繁	48. 4. 28	5		
大西 信雄					コクリユウ	イデユメオーザ	48. 4. 30	5		
東原 武男					キンカブト	晏 芳	48. 4. 22	5		
渡辺 秀雄					トシクイー (メス)	第三英信	48. 5. 20	7	67	

受賞者名	種 雄 馬 管 理 者 賞				生 産 者 賞				賞金額 万円	賞 金 交付方法
	種雄馬名	生産した出走馬名			生産した出走馬名					
		出 走 馬 名	血統馬名	生年月日	出 走 馬 名	血統馬名	生年月日			
上士幌農協	ボヌール	シホロテンリュウ エルザ バンチドリ ヒデオシトップ ホーライ カチヒカリ	優 月 48. 4. 27 清 藤 48. 4. 25 玉 光 48. 4. 21 五 月 48. 5. 27 宝 雄 48. 5. 7 月 光 48. 4. 15					18	上士幌農協 帯広信金上士 幌支店	
矢戸 輝次				シホロ テンリュウ	優 月 48. 4. 27			5		
後藤 一馬				エルザ	清 藤 48. 4. 25			5	28	
石原 毎雄				テミオヒメ (メス)	花 原 48. 4. 3			7	天塩酪農協 由北信連	
高橋 一男	東 亜	テミオヒメ キタノハヤブサ	花 原 48. 4. 3 大 鵬 48. 4. 27					6	13	
大森 信明	曇 英	タケユーホー	鵬 栄 48. 4. 21					3	上磯農協 由北信連	
小川 利行				タケユーホー	鵬 栄 48. 4. 21			5	砂原農協 由北信連	
川浪 徳一	鋭 進	タカサゴオーザ カンリキ ニチリン	第一馬追 48. 3. 27 春 光 48. 4. 28 春 風 48. 4. 13					9	長沼農協 由北信連岩見沢 支所	
中原 定雄				カンリキ	春 光 48. 4. 28			5	北長沼農協 由北信連岩見沢 支所	
虻田農協	第2 ロツシーニ	カツコマ ワイルドレゼック マサフサヒリュウ	ミスターニ エダロン ゼック 48. 3. 16 48. 4. 28 勇 進 48. 5. 15					9	虻田農協 由北信連	
立谷 貢				カツコマ	ミスターロツシー ニ 48. 3. 16			5	14	
多村 計主	盛 幸	ワイルドオザー	新 栄 48. 3. 3					3	穂別農協 由北信連	
前田 正雄				ワイルド レゼック	エタロンレゼック 48. 4. 28			5	豊浦農協 由北信連	
横溝 信男	ベルムート	カザン	勝 山 48. 4. 20					3	芽室農協 由北信連帯広支 所	
柴田 月春				カザン	勝 山 48. 4. 20			5	TEL確認 (佐々林)	
原田 純吉	鉄 鯉	トカチハヤテ ヨシノテツ テツナミ アオザクラ シユンユウ ダイジュ スピードキング タケカツ テツハナ ハクリユウザン ハナガタ ハナヒメマル フラノシンザン マツイサム	初 鯉 48. 5. 10 初 姫 48. 4. 15 鉄 波 48. 4. 25 青 春 48. 4. 18 大 受 48. 5. 8 大 鉄 48. 3. 30 北 星 48. 4. 24 鉄 星 48. 5. 5 春 豊 48. 5. 9 花 見 48. 5. 20 花 梅 48. 3. 10 花 姫 48. 4. 7 花 勇 48. 5. 15 花 勇 48. 4. 25					42	豊頃農協 由拓銀池田支店 TEL確認 (千田)	
武隈 源松				ヨシノテツ (メス)	初 姫 48. 4. 15			7		
中川 吉松				テツナミ	鉄 波 48. 4. 25			5		
武内 二郎				シユンユウ	春 勇 48. 5. 8			5		
武内 斉二				ダイジュ	大 受 48. 3. 30			5		
中野 勲				トカチハヤテ	初 鯉 48. 5. 10			5	69	
森 春蔵	農 皆	タツコマ	初 勇 48. 4. 5					3	本別農協 由拓銀本別支店	
南部 文夫	ダンディー	タイコー	宝 48. 3. 15					3	TEL確認 (熊野)	

受賞者名	種 雄 馬 管 理 者 賞				生 産 者 賞			賞金額 万円	賞 金 交付方法	
	種雄馬名	生産した出走馬名			生産した出走馬名					
		出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日			
四之部重穂	銅 柑	イワナミ	波 栄	48. 5. 5				3	釧路農協連經由 北信連釧路支所 TEL確認 (池田)	
長村 豊司	二世 ロツシーニ	ム ツ イシカリハヤブサ リキノウ	盛 春 松 宝 初 宝	48. 5. 2 48. 4. 1 48. 4. 28				9		
島 正一	ルルア	グランプリ	釧 光	48. 5. 10				3		
釧路農協	栄 山	フラノラツキ	北 春	48. 5. 31				3		
中西 石松	勝 山	タカホース カチユウ ドラゴン オウジヤ	勝 優 勝 勇 昇 山 サカイコマ	48. 4. 4 48. 4. 25 48. 4. 30 48. 5. 20				12		
梶原 隆二	ケルエクラ	トンドウテル オイデユマ	清 進 名 倉	48. 6. 10 48. 5. 20				6		
松野 宏	ヴォールル	アサヒズラン クシロフジ ソラチホマレ クシロイワイ	第二カリー 釧 優 天 宝 ウ オ	48. 4. 10 48. 4. 4 48. 4. 3 48. 3. 28				12		
大久保芳信	オウホー	イツテツ	宝 山	48. 4. 10	オメガキング	芳 清	48. 4. 29	14		
	オメガ	オメガキング ワイルドロック	芳 清 隆 王	48. 4. 29 48. 4. 20						
釧路農協連					イワナミ	波 栄	48. 5. 5	5		
山根 靖					フラノラツキ	北 春	48. 5. 31	5		
斎藤 六一					ム ツ	盛 春	48. 5. 2	5		
早川 義信					グランプリ	釧 光	48. 5. 10	5		
高田 知茂					タカホース	勝 優	48. 4. 4	5		
赤松 斎市					イツテツ	宝 山	48. 4. 10	5		
高田 善造					カチユウ	勝 勇	48. 4. 25	5	97	
野村 忠雄	得 奨	タイヘイボウ	大平洋	48. 5. 18				3	根室生産農協連經由 北信連中標津支所	
工藤 馨	陣 富	ネムロヒカリ ヒカルタマ ポリマー	優 湖 光 玉 錦 光	48. 5. 6 48. 5. 15 48. 4. 9				9		
芳賀菊次郎	第2詠旭	ニジロー	旭 勇	48. 4. 10				3		
阿部 正義	東 誉	セントラービ	北 宝	48. 4. 28				3		
加藤 鶴雄	玉 根	ネムロリュウジン	玉 雪	48. 4. 12				3		
馬場末太郎					タイヘイボウ	大平洋	48. 5. 18	5		
安部竹次郎					ネムロヒカリ	優 湖	48. 5. 6	5		
清実 喜夫					ニジロー	旭 勇	48. 4. 10	5		36
鈴木 由雄					トクリユウ	第2タンブー	48. 5. 7	5		個人
東川 武雄					アサミドリ	藤 芳	48. 4. 15	5		"
佐々林重喜					ミスタカラ (メス)	栄 豊	48. 4. 21	7	"	
畑添 寅勇					ナスノハヤテ	藤 勝	48. 4. 25	5	"	
鈴木 善吉					バンマサミ (メス)	宝 姫	48. 4. 20	7	"	
橋本与次郎					サロマシンザン	大 鵬	48. 4. 10	5	"	

受賞者名	種雄馬管理者賞			生産者賞			賞金額 万円	賞金 交付方法	
	種雄馬名	生産した出走馬名			生産した出走馬名				
		出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名			生年月日
前田 保				パンハヤテ	小 桜	48. 4. 20	5	個人	
永本 チヤ				ミリオンワーク	永 勝	48. 5. 5	5	"	
遠藤 竹市				ユウガオ	大 成	48. 4. 5	5	"	
山本 要一				デコイチ	大 観	48. 5. 6	5	"	
長谷川 清				クリマサル	北 光	48. 5. 8	5	"	
今泉 隆司				ブラックパワー	東 風	48. 4. 6	5	"	
打田 貞光				ブラックホース	勝 力	48. 4. 25	5	"	
安田 満雄				コマフジ	玉 豊	48. 4. 27	5	"	
長尾 寿				サロマオーザ	染 雄	48. 4. 18	5	"	
辻 重雄				ホマレ	光 陽	48. 4. 20	5	"	
向 武夫				ロジロ	宝 朝	48. 4. 15	5	"	
三島 忠一				ヒメサカエ (メス)	優 良	48. 4. 28	7	"	
林 才春				イサミリュウ	林 春	48. 4. 7	5	"	
田中 三郎				サロマヒメ (メスのみ)	サロマフジ	48. 5. 17	2	"	
松田 隆三	楓 朝	トクリユウ マサミドリ ミスタカラ ナスノハヤテ バンマサミ ブラックホース コマフジ カミノソシン ハクリユウテル ジュンダ	第2ダンブー 藤 芳 48. 5. 7 藤 芳 48. 4. 15 藤 芳 48. 4. 21 藤 芳 48. 4. 25 藤 芳 48. 4. 20 藤 芳 48. 4. 25 藤 芳 48. 4. 27 藤 芳 48. 4. 30 藤 芳 48. 5. 20 藤 芳 48. 5. 25				30	"	
四栗 栄	2世 ロツシーニ	サロマシンザン ユウガオ	大 大 48. 4. 10 大 大 48. 4. 5				6	"	
衣笠 薫	アプレス	パンハヤテ ブラックパワー ミリオンワーク デコイチ イチテンリュウ カミノチカラ オニカゲ シゲホマレ	小 小 48. 4. 20 小 小 48. 4. 6 小 小 48. 5. 5 小 小 48. 5. 6 小 小 48. 4. 12 小 小 48. 3. 30 小 小 48. 3. 27 小 小 48. 4. 16				24	"	
北口 与喜	第2 洪嶺	クリマサル セントユウシユン	北 北 48. 5. 8 北 北 48. 4. 18				6	"	
村田 徳美	宝 嘉	カネヒカリ	織 宝 48. 4. 4				3	"	
小路谷美雄	知 染	サロマオーザ サロマヒメ ワカサイチ	染 染 48. 4. 18 染 染 48. 5. 17 金 勇 48. 5. 2				9	"	
武田 長吉	オナシス	バンユウザン	栄 進 48. 4. 28				3	"	
原田 誠	晏 詠	ヤマトチカラ	鵬 山 48. 4. 26				3	"	
岡山 久雄	農 円	ナスノセイコー ホマレ	湧 成 48. 4. 5 湧 成 48. 4. 20				6	"	
藤本 芳郎	ペルボ ンシエー	ロジロ	宝 朝 48. 4. 15				3	"	
池 和夫	得 良	ヒメサカエ イサミリュウ イングレード ホマレイチ	優 良 48. 4. 28 優 良 48. 4. 7 優 良 48. 5. 25 優 良 48. 4. 30				12	"	

受賞者名	種雄馬管理者賞				生産者賞				賞金額 万円	賞金 交付方法
	種雄馬名	生産した出走馬名			生産した出走馬名					
		出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日			
嶋部 彬	ビジュー	シヤリキング	勝 栗	48. 5. 1					3	個人
三浦 勇	豊 盃	カツヤ ジャンボツガル ハツリユウ	勝 栄 進 光 初 竜	48. 4. 14 48. 5. 5 48. 5. 18					9	"
藤本 芳郎	第2太陽	ビヒロユウザン	日の出	48. 4. 20					3	"
安田 清					キタノエーユウ	晏 花	48. 4. 26	5	札内農協經由 北信連帯広支 所	
磯部 判治					キンリュウヒメ (メスのみ)	クイートキ ミノル	48. 4. 22	2		
高橋 健一					トキミノルヒメ (メスのみ)	トキミノルヒメ	48. 3. 20	2		
山下多次郎	朗 夕	タイシヨオ ヤマイサミ ローホウ	勝 栄 大 鶴 朗 豊	48. 4. 18 48. 5. 2 48. 4. 23				9	新得農協經由	
村田 正春					タイシヨオ	勝 栄	48. 4. 18	5		
加藤 正					ヤマイサミ	大 鶴	48. 5. 2	5		
橋本 昭蔵					ローホウ	朗 豊	48. 4. 23	5		
長谷部信悦					カワシルバー	黒宝号	48. 3. 26	5	個人	
樫野 元一	産 日	カワシルバー	黒宝号	48. 3. 26				3	"	
白瀬 包	大 宝	サダハヤテ シンボル テシオトツブ サダミノル	包 栄 佐田の山 男 山 玉 錦	48. 4. 10 48. 4. 1 48. 5. 5 48. 4. 10	サダハヤテ	包 栄	48. 4. 10	17	"	
岩本 政治	栄 春	ミカサイサミ	清 栄	48. 5. 10				3	"	

昭和51年度リーディングトレーナー



野々宮 重 樹

順 位	調 教 師 名	勝率(1着回数 出走延回数)
1	野々宮 重 樹	0.177
2	重 田 清	0.173
3	石 川 重 吉	0.160
4	鶴 沼 正 吉	0.152
5	平 田 正 一	0.150



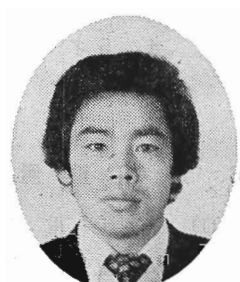
重 田 清

昭和51年度リーディングジョッキー



金 山 明 彦

順位	騎 手 名	1着	2着	3着	騎乗回数
1	金 山 明 彦	106	79	55	503
2	工 藤 正 男	51	63	45	382
3	木 村 卓 司	55	50	50	399
4	氏 家 昭	36	45	41	306
5	片 平 俊 悦	30	44	34	308



工 藤 正 男



# 昭和52年度 番組編成要領

## 1. 出走馬の種類

軽種及び軽半血種以外の種類

## 2. 出走馬の資格

次の各号全部の条件をそなえていること。

- (1) 地方競馬全国協会の登録を受けた馬。
- (2) 新馬 3才  
古馬 11才以下（再登録馬は血統証明書に地方競馬全国協会の認印のある6才以下の馬）
- (3) 馬体重  
3才 700kg  
4才以上 750kg 以上の馬。
- (4) 馬体検査、能力調教検査に合格した馬。

## 3. 出走の制限及び拒否

- (1) 外国産馬は出走できない。
- (2) こ疾の程度が重く、又は外観上みにくい馬。
- (3) 出走取消をした馬は、その回の残余期間。
- (4) 尋常てい鉄を使用しない馬。
- (5) 調教が充分でないへき馬及び失明馬（片眼馬を含む）

## 4. 出走頭数の制限及び競走の取り止め

- (1) 1競走における出走頭数は10頭以下とする。
- (2) 普通競走において前項に定める頭数を越えて出走投票があった場合に、抽せんにより出走馬を決定する。
- (3) 前項により出走できなかった馬は競馬番組で示す当該馬が出走できる最初の競走に限り、出走投票した馬に優先出走を認める。
- (4) 出走投票の結果、1競走の頭数から5頭以下の場合はその競走を取り止め新たに競走を設けることができる。ただし、偶発的事故又は疾病等により出走を取り消し、又は競走除外を命じた場合を除く。

## 5. 競走の区分

- (1) 取得賞金額（1着～5着まで、以下同じ）により、編成し年令別に次のとおりとする。  
3才 3才馬のみの編成とする。  
4, 5才 4, 5才馬の混合編成とし、通算取得賞金350万円以上の馬は、6才以上の競走に編入する。  
6才以上 6才以上の混合編成とする。

## 6. 負担重量

- (1) 騎手重量  
騎手重量は73kgとする。
- (2) ばんえい重量

### ア. 3才馬

ばんえい重量は500kgとし、本年取得金200万円未満は40万円につき10kg、200万円以上は80万円につき10kgの加増を行う。

### イ. 4, 5才馬

3才時よりの通算取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。

取得賞金	350万円 未 満	280万円 未 満	210万円 未 満	140万円 未 満	70万円 未 満
ばんえい重量	640kg	620kg	600kg	580kg	560kg

### ウ. 6才以上

昭和49年以降の取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。

但し、4, 5才馬で編入する馬は、同額賞金クラスに編入し、競走において10kgを減量する。

取得賞金	1,000万円 以 上	1,000万円 未 満	800万円 未 満	650万円 未 満	500万円 未 満	350万円 未 満	200万円 未 満	100万円 未 満
ばんえい重量	700kg	700kg	680kg	660kg	640kg	620kg	600kg	600kg

### エ. オープン馬

昭和49年以降の取得賞金1,000万円以上の馬をオープンとする。

1,000万円以上の取得賞金に対し400万円につき10kgの基礎加増を行う。

本年取得賞金に対し、200万円を超える額ごとに10kgを加増する。

(3) 牝馬は競走において10kg減量する。

(4) 普通及び別定競走において、委員長の指定する騎手は通算勝利回数により、10kg減量する。

## 7. 希 望 編 入

取得賞金によらずに希望で編入できるのはオープンのみとし、番組編成会議で決定する。希望編入できるのは、第2回旭川競馬終了までとする。

8. 普通競走において全馬のばんえい重量が高重量となるときは、全馬の重量を一率に減ずることができ。

9. 取得賞金額は特に記載のない限り前回までの合計とする。

## 10. 騎 乗 の 制 限

(1) 1日の騎乗回数は6回を限度とする。ただし委員長が特に認めた場合は、この限りでない。

(2) 騎乗変更した騎手の翌日の騎乗はこれを認めない。ただし、委員長が特に認めた場合は、この限りでない。

## 11. 騎手の減量について

委員長が指定する騎手は次のとおりとする。

(1) 数え年30才以下の騎乗騎手で、20勝以下のもの。

(2) 騎乗経歴のある騎手については、その通算勝利回数による。

(3) 減量騎手は出馬表に☆印で表示する。

12. この要領に定めるものの他、番組編成上必要な事項については、番組編成会議で別に定める。

# 昭和52年度 報 償 費

## 1. 馬主に関するもの

- (1) 賞金 競馬番組で示した金額。  
 (2) 出走手当 次に該当する馬の馬主に対し支給する。  
 ア. 競走に1回以上出走したとき  
 イ. 特別報償金の受給資格のあるとき

出走手当	35,000円
------	---------

- (3) 番外手当 競走に出走し、6着以下の馬の馬主に対し、次の区分により支給する。但し失格及び競走中止の場合は支給しない。

重賞競走	1着賞金 300万円以上 100,000円
	" 300万円未満 40,000円

特別競走	25,000円
------	---------

- (4) 特別報償金 次に該当する馬の馬主に対し支給する。

ア. 出走投票の結果、1競走の出走投票が5頭以下のため競走が取り止めになったとき。又は制限頭数を越えたため抽せんにより出走できなくなったとき。

(但し当該開催の競走に出走した馬を除く)とし当該開催競馬において同一馬につき1回とする。

イ. 競走除外等と同わくのため除外(友引)になったとき。

ウ. 天災その他やむを得ない理由により、開催当日に競馬又は競走を取り止めたとき。

アのとき	その競走の5着賞金、但し25,000円を限度とする。調教師賞、騎手賞、厩務員賞においてもこれに準ずる。
イのとき	その競走の3着賞金、調教師賞、騎手賞、厩務員賞においてもこれに準ずる。
ウのとき	その競走の賞金と着外賞金の合計額を出走予定頭数で按分した節回しの額。調教師賞、騎手賞、厩務員賞においてもこれに準ずる。

- (5) 輸送手当 競馬場毎に1回以上出走した馬(特別報償金受給資格を有した馬を含む)の馬主に対し当該競馬場毎に支給する。

輸送手当	7,000円
------	--------

## 2. 調教騎手に関するもの

- (1) 調教師賞  
 競走に出走し、決勝線を通過した馬の調教騎手に対して支給する。但し当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

区 分	1着	2着	3着	4着以下
調教騎手	23,000円	19,000円	14,000円	10,000円
調乗騎手	8,000円	7,000円	6,000円	4,000円

## 3. 騎乗騎手に関するもの

- (1) 騎手賞  
 競走に出走し、決勝線を通過した馬の騎手に対し支給する。但し当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

区 分	1着	2着	3着	4着以下
騎手賞	14,000円	10,000円	8,000円	6,000円

## 4. 厩務員に関するもの

- (1) 厩務員賞  
 出馬確定した馬の厩務員に対し支給する。但し当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

区 分	1着	2着	3着	4着以下
厩務員賞	12,000円	10,000円	8,000円	6,000円

(受給対象者は本会厩務員認定を受けた者であって、地方競馬共済会に加入している者の内から専業厩務員として認めた者)

# 昭和51年度賞金受賞ランク

## 3 才

順位	馬名	血統	出走回数	着回数			賞金額	
				1	2	3		
1	タカラオートリ	ベ 重 ル半 重	第17オ 初ト 鉄リ 第十世 小波	21	6	5	3	6,808,000
2	ダイゲツ	ベ 重 ル半 重	第十世 小波	15	3	2	4	5,533,000
3	キヨクイチ	ベ 重 ル半 重	ダ 晏 ン デ	18	6	2	8	5,292,000
4	キタノテンリュウ	ベ 重 ル半 重	鉄 恵 久 都 花	19	7	2	0	4,890,000
5	スイシヨウ	ベ 重 ル半 重	2世 ロ ツ シ ニ マ ナ	19	4	4	1	4,217,000
6	タカラリュウ	ベ 重 ル半 重	2世 ロ ツ シ ニ マ ナ	20	3	2	1	3,840,000
7	アイスリヤル	中 重 ル半 重	富 興 楓 宝	13	3	2	1	3,430,000
8	キヨウエイ	ベ 重 ル半 重	楓 宝	18	3	1	5	2,968,000
9	ムツイチ	ベ 重 ル半 重	2世 ロ ツ シ ニ マ ナ	11	4	1	3	2,917,000
10	キヨヒメ	ベ 重 ル半 重	二 世 ロ ツ シ ニ マ ナ	20	3	3	3	2,902,000

## 4, 5 才

順位	馬名	血統	出走回数	着回数			賞金額	
				1	2	3		
1	ハクリユウ	ベ 重 ル半 重	タ 九 鉄 若	19	9	5	1	9,097,000
2	テツワカ	ベ 重 ル半 重	2世 ロ ツ シ ニ マ ナ	19	6	5	1	8,735,000
3	タダヨシ	ベ 重 ル半 重	2世 ロ ツ シ ニ マ ナ	16	6	4	1	6,205,000
4	タイヘイボウ	ベ 重 ル半 重	初 得 太 楓 宝	17	6	5	1	5,189,000
5	アサミドリ	ベ 重 ル半 重	楓 宝	21	3	1	4	4,983,000
6	サロマシンザン	ベ 重 ル半 重	2世 ロ ツ シ ニ マ ナ	19	3	5	3	4,580,000
7	ブルーキング	ベ 重 ル半 重	ナ ア 第 3 玉	18	2	7	2	4,217,000
8	レイシヨウ	ベ 重 ル半 重	円 初 ナ デ	17	4	4	3	4,046,000
9	パンヨシエ	中 重 ル半 重	ナ 佐 田	16	5	1	4	3,575,000
10	カツエイ	中 重 ル半 重	晏 榮	21	2	3	2	3,430,000

## 6才以上

順位	馬名	血統	出走回数	着回数			賞金額	
				1	2	3		
1	ダイニミハル	ベ 重 ル半 重	オ 三 丹	15	3	2	2	12,200,000
2	ハヤツネ	中 重 ル半 重	第 一 初 ス	24	7	3	3	8,020,000
3	パンユウハ	中 重 ル半 重	ナ 桜 ウ ル	20	3	4	5	7,747,000
4	イシカリハヤテ	ベ 重 ル半 重	錦 初 立 烈 桜	21	5	4	2	7,045,000
5	ニジヨウホウ	ベ 重 ル半 重	鋭 初 カ 夏 映 初	18	2	1	2	6,896,000
6	トクヨオーザ	中 重 ル半 重	カ 夏 映 初	21	1	4	4	6,890,000
7	ソウシン	ベ 重 ル半 重	映 初	17	4	2	3	5,135,000
8	ハヤブサ	ベ 重 ル半 重	映 ウ エル ラン	22	3	4	2	5,040,000
9	ムサシ	ベ 重 ル半 重	ウ オ ル	21	4	3	4	4,797,000
10	ナカフムサシ	中 重 ル半 重	清 鋭 風	16	3	3	4	4,525,000

## 昭和51年度種雄馬ランキング

6才以上

順位	種類	馬名	登	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ベル	オナシス	11	15	30,798,000 <sup>円</sup>	ダイニミハル, カツタロー
2	ベル	映昭	5	12	14,369,000	ソウシン, ハヤブサ
3	ベル系	ウルバン	6	19	13,776,000	イシカリハヤテ, ハヤト
4	ベル	丹風	4	12	13,675,000	ハヤツネ, ワカテンリュウ
5	ベル	アプレス	6	12	10,314,000	ブラックパンサー
6	中半	ナオス雄	2	3	8,502,000	パンユウハ
7	ブル	キプロク	4	5	7,742,000	キプオーザン, コウハタ
8	ベル	カリ	2	1	7,356,000	トクヨオーザ
9	ベル	タンブー	3	5	6,949,000	コマバ, テンタン
10	ブル	鋭烈	1	2	6,896,000	ニジヨウホウ

4, 5才

順位	種類	馬名	登	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ブル	鉄鯉	15	35	25,592,000 <sup>円</sup>	テツワカ, トカチハヤテ
2	ベル	2世ロツシーニ	5	14	13,155,000	タダヨシ, サロマシンザン
3	ベル	アプレス	9	9	12,655,000	ブルーキング, パンハヤテ
4	ベル	楓朝	8	14	12,432,000	アサミドリ, トクリユウ
5	ベル	詠旭	7	17	10,800,000	エイキヨク, ナオフジ
6	重半	晏栄	10	16	10,019,000	カツエイ, キンカブト
7	ベル	タンブー	1	9	9,097,000	ハクリユウ
8	ブル	キプロク	8	12	7,908,000	コマリュウ, ニツトチドリ
9	ベル	ベルヴオンシエー	4	10	6,914,000	アグネス, ハツキントツブ
10	ベル	第二オデオン	4	5	6,670,000	ソラチホウシユウ

3才

順位	種類	馬名	登	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ブル	鉄鯉	11	27	22,506,000 <sup>円</sup>	ダイケツ, キタノテンリュウ
2	ベル	楓朝	13	22	15,601,000	キヨウエイ, キヨヒメ
3	ベル	2世ロツシーニ	7	17	12,036,000	タカラリュウ, ユウホウ
4	ベル	アプレス	7	14	8,441,000	ドウホクチドリ, オオマサ
5	ベル	第17オートリ	1	6	6,808,000	タカラオートリ
6	重半	晏栄	8	14	6,449,000	ライデン, アズマホーエー
7	ベル	ダンデイ	3	6	6,226,000	キョクイチ, キタノリュウ
8	ベル	ヴォールル	5	6	5,906,000	フジノサカエ, モリチカラ
9	ベル	久都	3	9	5,796,000	スイシヨウ, ドウトウ
10	ベル	二世ロツシーニ	3	11	5,760,000	ムツイチ, フジ

## 昭和51年度市営競馬成績

主催者	期別	売得金額	1日平均	報 償 費		入場人員	1日平均
				賞 金 額	馬主騎手厩務員分		
旭川市	1	1,090,914,400	181,819,067	44,460,000	23,141,000	35,479	5,913
	2	981,169,800	163,528,300	41,363,000	28,273,500	27,035	4,505
	3	1,124,410,500	187,401,750	48,274,000	26,202,000	28,778	4,796
	4	1,395,639,800	232,606,633	51,718,000	26,620,500	32,800	5,466
	5	1,496,511,300	249,418,550	56,848,000	29,778,000	31,696	5,282
	計	6,088,645,800	202,954,860	242,663,000	134,015,000	155,788	5,192
帯広市	1	951,760,700	158,626,783	40,907,000	29,119,000	26,393	4,398
	2	965,431,300	160,905,217	40,850,000	25,977,500	25,543	4,257
	3	1,238,380,700	205,942,300	48,222,000	25,906,000	33,649	5,608
	4	1,305,197,900	217,532,983	49,020,000	25,436,000	32,740	5,456
	計	4,460,770,600	185,751,821	178,999,000	106,438,500	118,325	4,930
北見市	1	872,502,800	145,417,133	32,148,000	29,967,500	24,429	4,071
	2	962,072,900	160,345,483	34,086,000	26,708,500	24,744	4,124
	3	897,363,300	149,560,550	38,570,000	28,871,500	21,985	3,664
	4	1,346,215,800	224,369,300	43,244,000	25,647,000	31,929	5,321
	計	4,078,154,800	169,923,117	148,048,000	111,194,500	103,087	4,295
岩見沢市	1	1,071,040,200	178,506,700	34,751,000	28,746,000	33,492	5,582
	2	1,226,592,100	204,432,017	36,252,000	26,507,500	33,047	5,507
	3	1,017,858,000	169,608,383	42,883,000	28,964,000	22,313	3,718
	4	1,362,458,400	227,076,400	52,345,000	26,878,000	24,874	4,145
	計	4,677,948,700	194,905,875	166,231,000	111,095,500	113,726	4,738

## 昭和51年度道営競馬成績

競馬場	期別	売得金額	1日平均	賞金額	入場人員	1日平均
帯 広	1	918,794,400	153,132,400	62,852,000	31,725	5,287
	2	800,266,200	133,377,700	64,030,000	21,500	3,583
	3	912,615,600	151,421,633	69,996,000	23,000	3,833
	計	2,631,676,200	145,977,244	196,878,000	76,291	4,238
旭 川	1	817,920,600	135,987,333	67,298,000	21,911	3,651
	2	962,445,200	160,093,266	75,810,000	24,058	4,009
	3	1,036,478,800	172,746,466	69,388,000	25,203	4,200
	4	898,170,200	149,695,033	69,578,000	22,514	3,752
	計	3,715,014,800	154,630,525	282,074,000	93,686	3,903
岩 見 沢	1	1,914,030,400	319,005,066	66,633,000	53,367	8,894
	2	1,854,464,800	309,077,466	69,217,000	46,200	7,700
	3	1,726,514,000	286,038,400	65,246,000	35,599	5,933
	4	1,293,891,000	431,297,000	51,091,000	30,359	10,119
	計	6,788,900,200	322,791,266	252,187,000	169,525	8,476
札 幌	1	2,780,825,600	462,132,366	70,547,000	86,063	14,343
	2	2,628,303,400	438,050,566	78,014,000	72,235	12,039
	3	3,035,018,000	505,836,333	96,216,000	90,093	15,015
	4	3,215,074,800	535,845,800	106,476,000	83,927	13,987
	計	11,659,221,800	485,466,266	351,253,000	332,318	13,846
函 館	1	585,996,200	97,218,933	67,735,000	21,870	3,645
	2	692,923,600	115,487,266	81,472,000	20,578	3,429
	計	1,278,919,800	106,353,100	149,207,000	42,448	3,537

(注 岩見沢第4回は開催日数3日間)

## 昭和52年度市営競馬日程表

帯広
  岩見沢
  北見
  旭川

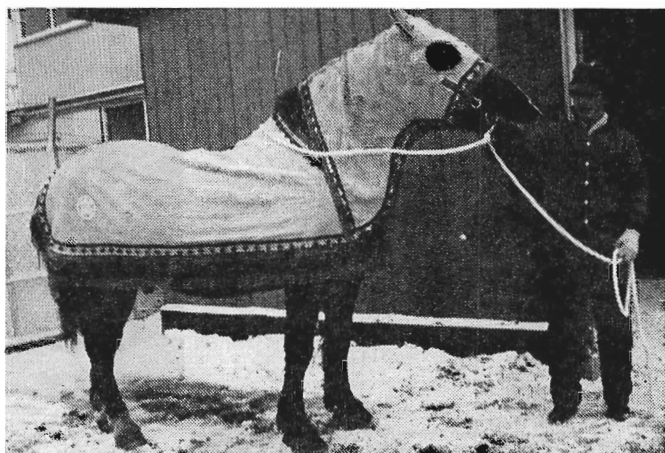
4月	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	⑳	30	
5月	①	2	③	4	⑤	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	⑳	23	24	25	26	27	28	⑳	30	31
6月	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑰	19	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30
7月	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	29	30	⑳
8月	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	⑳	22	23	24	25	26	27	⑳	29	30	31
9月	1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	⑮	16	17	⑱	19	20	21	22	⑳	24	⑳	26	27	28	29	30	
10月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	⑩	11	12	13	14	⑮	⑯	17	18	19	20	21	22	⑳	24	25	26	27	28	29	⑳	31
11月	1	2	③	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	⑳	28	29	30	

## 昭和52年度道営競馬日程表

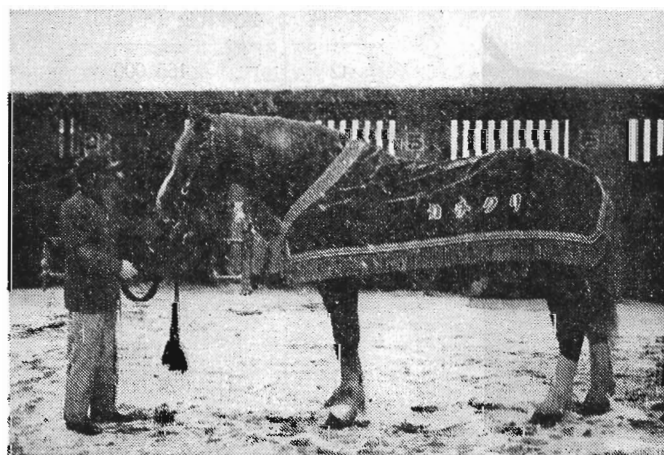
4月	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	⑳	30	
5月	①	2	③	4	⑤	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	⑳	23	24	25	26	27	28	⑳	30	31
6月	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑰	19	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30
7月	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	29	30	⑳
8月	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	⑳	22	23	24	25	26	27	⑳	29	30	31
9月	1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	⑮	16	17	⑱	19	20	21	22	⑳	24	⑳	26	27	28	29	30	
10月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	⑩	11	12	13	14	⑮	⑯	17	18	19	20	21	22	⑳	24	25	26	27	28	29	⑳	31
11月	1	2	③	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	⑳	28	29	30	

## 51 年 度 引 退 馬

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	—
45	—
46	189,000
47	324,000
48	330,000
49	585,000
50	645,000
51	870,000
計	2,943,000



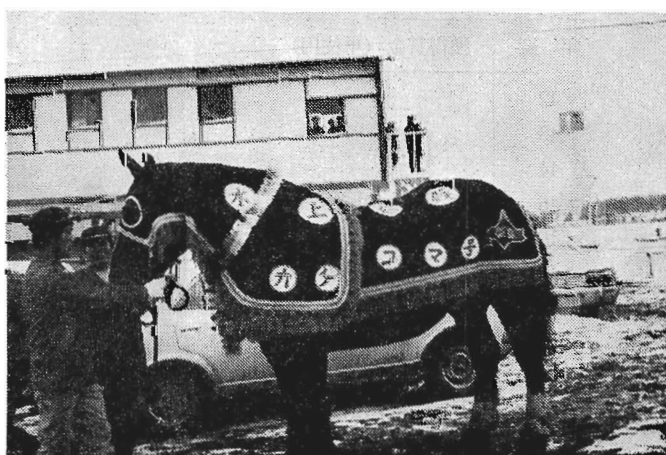
カ ッ プ オ ー 号



カ チ ク リ 号

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	—
45	209,000
46	195,500
47	621,000
48	932,000
49	1,275,000
50	1,280,000
51	469,000
計	4,981,500

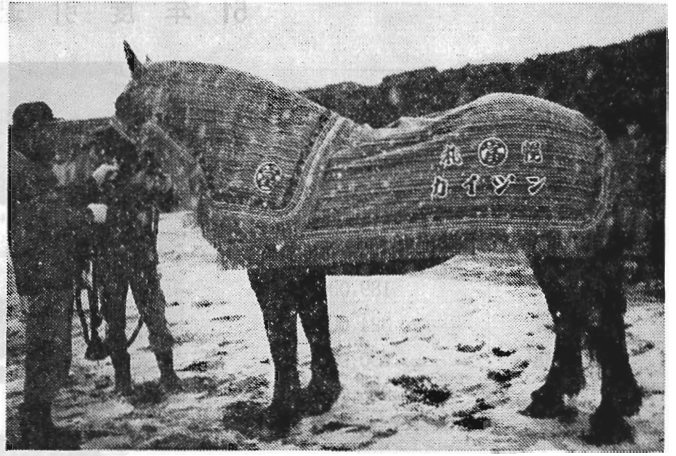
年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	—
45	214,500
46	462,000
47	560,000
48	1,846,000
49	4,402,000
50	3,113,000
51	3,020,000
計	13,617,500



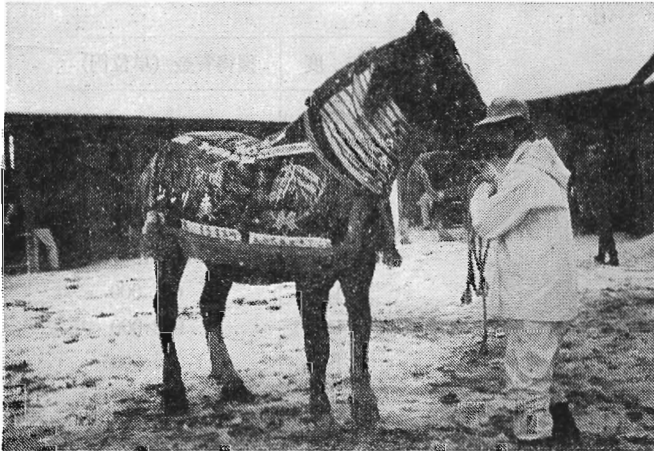
カ ゲ コ マ 号



年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	832,000
44	153,000
45	91,600
46	1,180,000
47	423,000
48	—
49	1,252,000
50	1,685,000
51	314,000
計	5,903,600



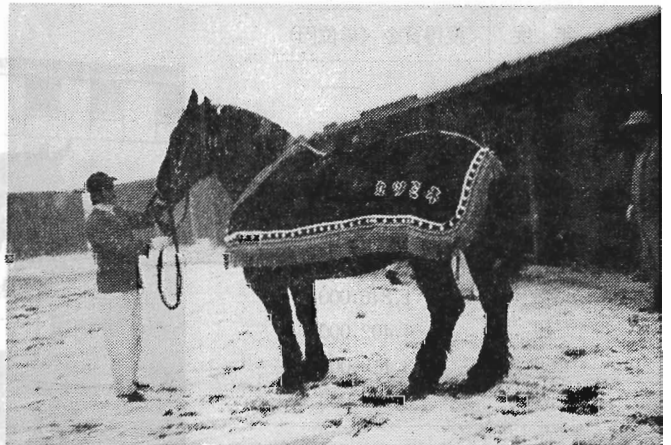
カ イ ジ ン 号



キ リ ン ジ 号

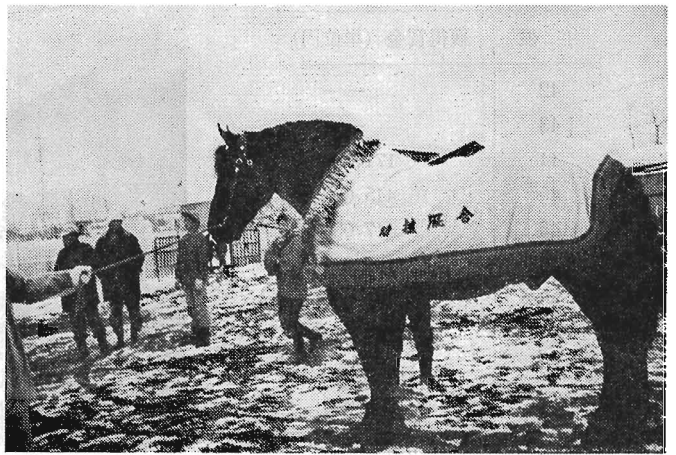
年 度	獲得賞金 (単位円)
42	155,000
43	300,000
44	427,500
45	156,500
46	300,000
47	348,000
48	450,000
49	607,000
50	660,000
51	578,000
計	3,982,000

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	—
45	218,500
46	301,000
47	418,000
48	457,000
49	808,000
50	607,500
51	720,000
計	3,530,000



カ ツ ミ ネ 号

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	—
45	—
46	244,000
47	835,000
48	1,019,000
49	2,976,000
50	2,484,000
51	4,395,000
計	11,953,000



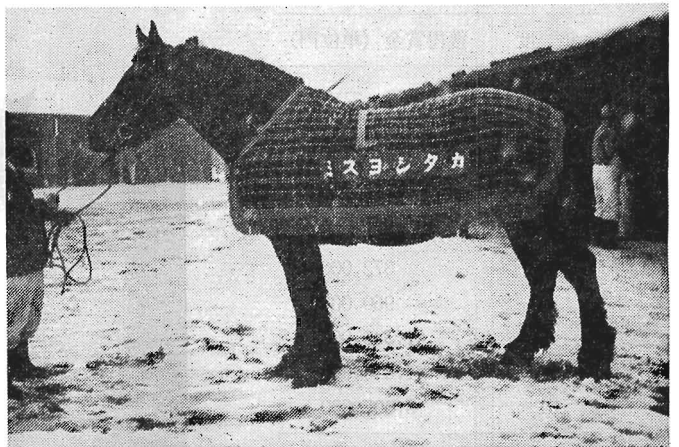
ワカテンリュウ号



リキヤマト号

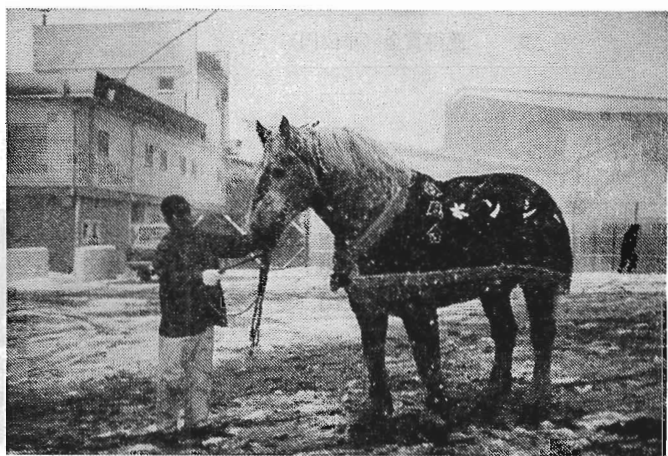
年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	14,000
44	—
45	150,000
46	228,500
47	150,000
48	520,000
49	913,000
50	621,000
51	466,000
計	3,062,500

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	198,000
44	95,500
45	68,000
46	151,000
47	370,000
48	722,000
49	1,435,000
50	1,580,000
51	1,250,000
計	5,869,500

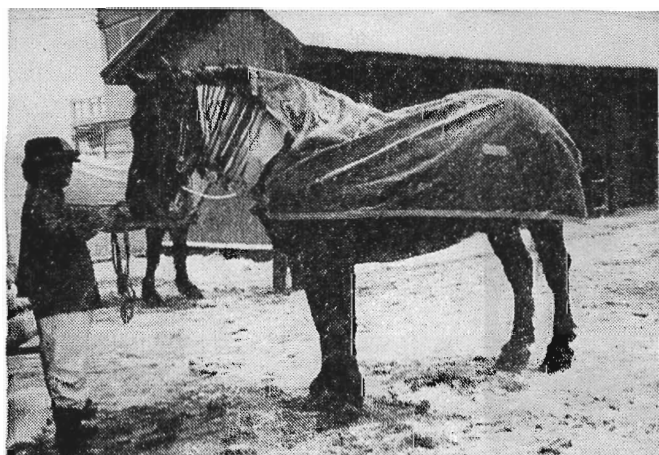


ミスヨシタカ号

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	171,500
45	445,000
46	447,000
47	196,000
48	1,263,000
49	2,707,000
50	1,556,000
51	290,000
計	7,075,500



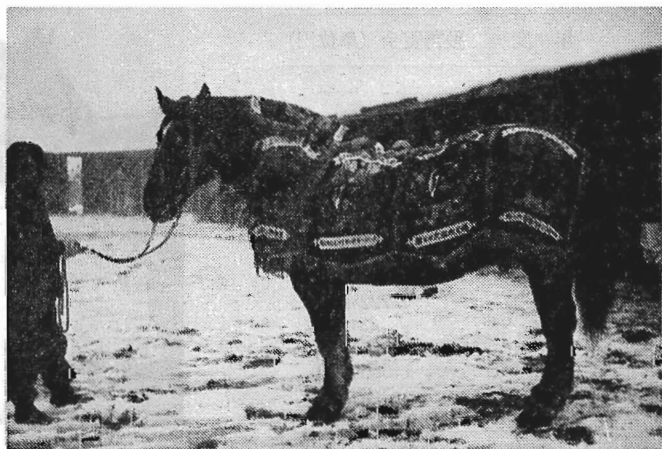
ボ ン シ ー 号



ホ ク リ キ 号

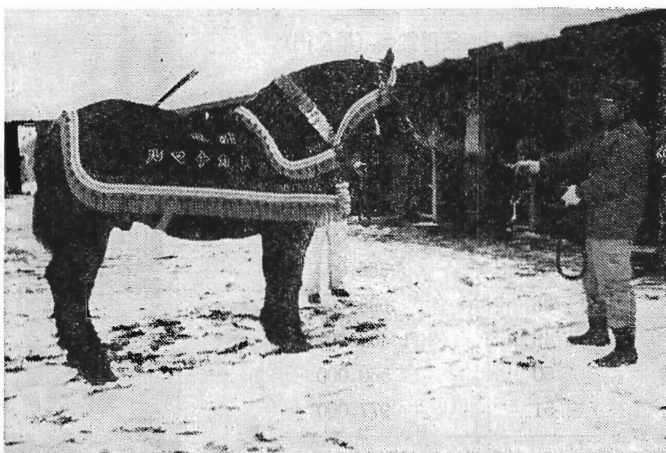
年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	651,000
45	575,500
46	1,148,500
47	1,834,000
48	1,043,000
49	2,182,500
50	2,409,000
51	2,583,000
計	12,426,500

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	—
45	—
46	366,000
47	372,000
48	960,000
49	1,540,000
50	1,310,000
51	3,007,000
計	7,555,000



ナ カ フ マ ツ カ ゼ 号

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	348,000
45	297,000
46	377,000
47	828,000
48	1,113,000
49	1,072,000
50	310,000
51	780,000
計	5,125,000



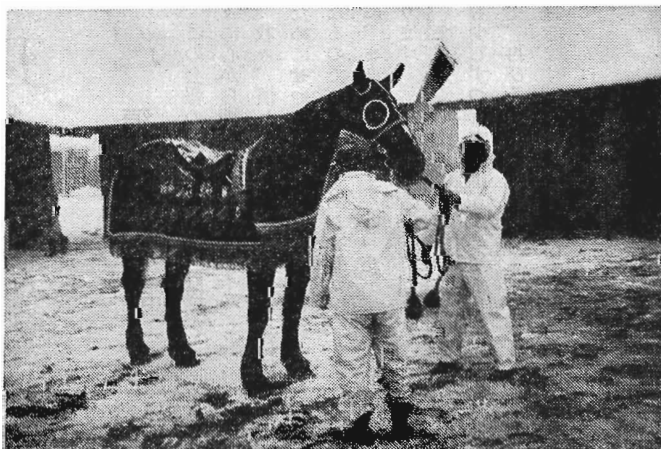
ト カ チ マ ル 号



ダ イ ニ ミ ハ ル 号

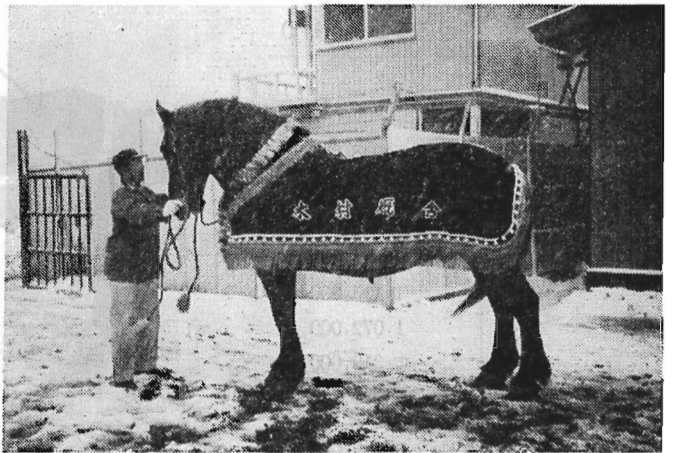
年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	0
45	0
46	764,500
47	2,075,000
48	2,740,000
49	8,939,000
50	9,060,000
51	12,200,000
計	35,778,500

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	34,500
44	—
45	468,500
46	799,000
47	1,209,000
48	3,720,000
49	483,000
50	2,591,000
51	30,000
計	9,334,500

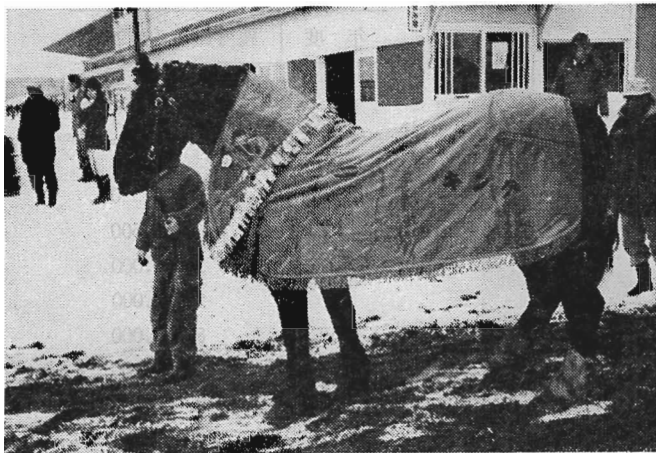


ダ イ ニ ア ン テ ン 号

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	111,000
45	125,000
46	292,000
47	666,000
48	695,000
49	1,405,000
50	560,000
51	977,000
計	4,831,000



サ チ ハ ナ 号



キ ン グ 号

年 度	獲得賞金 (単位円)
42	—
43	—
44	1,372,000
45	1,020,000
46	691,500
47	815,000
48	1,479,500
49	2,098,000
50	5,863,000
51	1,905,000
計	15,244,000

シゲタカラ号

年 度	獲得賞金(単位円)
42	135,500
43	208,000
44	202,500
45	158,500
46	128,000
47	340,000
48	390,000
49	364,000
50	292,000
51	932,000
計	3,150,500

サカエキング号

年 度	獲得賞金(単位円)
42	20,500
43	—
44	126,500
45	77,000
46	95,000
47	356,000
48	254,000
49	492,000
50	517,000
51	604,000
計	2,542,000

編集後記

この会報の発刊にあたり、原稿を寄せて下さった方々に心から御礼を申し上げます。

我々、慣れない仕事で、大きさや位置が適当でないためにせっさくのいい写真やさし絵のよさを出せなくなるのではと心配もありましたが、ゲラ刷りを見るに、まあなんかうまくいったかなと、自画自讃しております。

まだ遠くの山々は雪で白く見えますが、近くには緑も少しずつ目立つようになりました。山々の雪が消え、再びそれが白くなる頃まで、今年も我々の競馬は続きます。ばんえい競馬のさらなる躍進を目ざし元気でがんばって行きましょう。

昭和52年 4 月  
札幌市北区北10条西 4 丁目畜産会館 2 階 (TEL) 代表742-5345